

CN9000/CN9600/CN9950

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、CN9000/CN9600/CN9950 取り扱いの便宜を図るため、英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く改変されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術部

TEL :03-5615-5811

MAIL :support@atenjapan.jp

2021 年 1 月 7 日

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く改変されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピュータのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではありません。

キーボード、マウス、モニター、コンピュータ等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応といたしますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 購入日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障、破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証手順】

弊社の製品保証規定に従いユーザーが保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

(1) 不具合の確認

製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口にご連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

(2) 本規定に基づく製品保証のご依頼

(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『お客様の製品購入日が証明できる書類』を用意して、購入した販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

(3) 製品の発送

不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品/液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～30 日	初期不良、新品交換※1
	31 日～3 年間	無償修理
	3 年以上	有償修理※2
②型番 CL から始まる LCD 搭載製品のみ	製品納品日～30 日	初期不良、新品交換※1
	31 日～2 年間	無償修理
	3 年目以降	有償修理※2

※1…製品購入日から30日以内に確認された不具合は初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途製品を購入された販売店までお問い合わせください。

※ケーブル類、その他レールキット等のアクセサリ類は初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL（生産終了）が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。また EOL 製品の修理に関して、上記無償修理期間中であっても、部材調達の都合等により修理不可になる可能性がございます。そのような場合には、機能同等品による良品交換のご対応となる可能性がございます。また、EOL 製品の型番や、修理可否、後継機種については、随時情報更新を行っておりますので、弊社 Web ページにて最新情報をご確認ください。

※製品保証期間の延長や故障時の代替品などの保証オプションについては、弊社 Web ページをご確認ください。

【補足】

- ・本規定は ATEN 製品に限り適用します。
- ・ケーブル類は初期不良対応に準じます。
- ・初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。返却の予定期日が守られない場合は弊社から督促を行います。それにも係わらず不具合品が返却されない場合は、代替機相当金を販売代理店経由でご請求いたします。
- ・ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、すべて有償修理とさせていただきます。

【免責事項】

1. 弊社製品は映像関連システムやコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。しかし、使用環境等によってはその機能が制限されることがあります。弊社では、ご購入前に弊社製品をお試しいただける「評価機貸出サービス」を、無償でご提供しております。評価機貸出サービスに関するお問い合わせは、弊社代理店または弊社 Web サイト(<https://www.aten.com/jp/ja/>)内の「お問い合わせ」フォームをご利用ください。
2. キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予想できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。
3. 他社製品のKVMスイッチ、キーボード・マウスコンバーター、キーボード・マウスエミュレーター、KVM エクステンダー等との組み合わせはサポート対象外となりますが、お客様で自己検証の上であれば、使用を制限するものではありません。
4. 製品に対しての保証は、日本国内で使用されている場合のみ対象とさせていただきます。
5. 製品やサービスについてご不明な点がある場合は、弊社技術部門までお問い合わせください。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業部 TEL:03-5615-5810 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術部 TEL :03-5615-5811 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

ユーザーの皆様へ	i
ATEN ジャパン製品保証規定	ii
製品についてのお問い合わせ	v
EMC 情報	6
RoHS.....	6
安全にお使い頂くために.....	7
全般	7
ラックマウント	9
同梱品.....	10
CN9000.....	10
CN9600.....	10
CN9950.....	10
本マニュアルについて.....	12
マニュアル表記について.....	13
第1章 はじめに.....	14
概要.....	14
特長とメリット	15
ハードウェア	15
管理	16
使いやすいインターフェース.....	16
高度なセキュリティ.....	17
バーチャルメディア	17
バーチャルリモートデスクトップ	17
システム要件.....	19
リモートユーザー側で使用するコンピューター.....	19
サーバー	19
ケーブル	20
ビデオ.....	21
OS.....	21
ブラウザ	22
製品各部名称	23

CN9000 フロントパネル	23
CN9000 リアパネル	25
CN9000/CN9950 サイドパネル.....	26
CN9950 フロントパネル	27
CN9950 リアパネル	29
CN9600 フロントパネル	30
CN9600 リアパネル	32
第 2 章 ハードウェアのセットアップ	33
マウント方法.....	33
ブラケットの取り付け	33
ラックへのマウント.....	34
壁への取り付け.....	35
ハードウェアのセットアップ	36
CN9000	38
CN9600	39
CN9950	40
DCE/DTE ポート.....	41
スイッチおよび PC	41
PC およびタッチパネル	41
第 3 章 ブラウザーからのログイン	42
ログイン.....	42
メイン画面.....	44
第 4 章 設定方法.....	45
はじめに.....	45
基本設定.....	46
ユーザー管理.....	46
アカウントポリシー	48
セッション	49
メンテナンス	50
詳細設定.....	55
デバイス情報.....	55
ネットワーク	56
ANMS	62
セキュリティ	68
コンソール管理	78
日付/時刻	85

カスタマイズ	87
設定.....	89
ユーザー設定.....	89
ログ	90
リモートコンソール	91
ダウンロード	92
バージョン情報.....	92
ビューワー	93
ログアウト.....	93
第 5 章 リモートサーバーへのアクセス	94
はじめに.....	94
Web/Windows/Java クライアントビューワー	95
Windows クライアント AP.....	96
ダウンロード	96
起動	96
Java クライアント AP	99
第 6 章 Windows クライアントビューワー	100
Windows/Java クライアントのコントロールパネル	100
コントロールパネルの機能.....	101
マクロ.....	104
ビデオ設定	113
メッセージボード.....	116
バーチャルメディア	119
ズーム.....	123
オンスクリーンキーボード	124
マウスポインターの種類.....	125
マウスダイナシクモード	126
GUI を開く(設定)	128
コントロールパネルのカスタマイズ.....	129
Web クライアントのコントロールパネル	132
機能	132
Web クライアントのビデオ設定	134
Web クライアントのオンスクリーンキーボード	135
Web クライアントのマウスポインターの種類.....	135
バーチャルメディア	136
Web クライアントのマウス同期モード.....	137

第7章 ローカルアクセス	138
ローカルコンソール	138
ローカル OSD	140
ラップトップ USB コンソール(LUC)	141
第8章 ログファイル	144
ログファイル画面	144
第9章 ログサーバー	145
セットアップ	145
起動	145
メニューバー	146
設定	147
イベント	148
オプション	150
ヘルプ	151
ログサーバーのメイン画面	151
概要	151
リストパネル	152
選択ユニットのログ表示パネル	152
付録	153
IP アドレスの設定	153
IP インストーラーを使用して設定する場合	153
ブラウザ	155
AP Windows クライアント	155
IPv6	156
リンクローカルアドレス	156
ステートレスオートコンフィグレーション	157
ポートの転送	158
キーボードエミュレーション	159
シリアルポートのピンアサイン	160
RJ-45 → DB-9 ケーブルのピン出力	161
信頼された証明書	162
概要	162
証明書のインストール	163
証明書のインストール完了	164
自己署名(プライベート)証明書	166
例	166

ファイルのインポート	166
トラブルシューティング	167
操作全般	167
Windows	170
Java	172
Sun	173
Mac	174
ログサーバー	174
その他のマウス同期方法	175
Windows	175
Sun/Linux	177
対応バーチャルメディア	178
Windows クライアント Active X ビューワー/Win クライアント AP	178
Java アプレットビューワー/Java クライアント AP	178
アドミニストレーターでログインできない場合	179
製品仕様	180
CN9000	180
CN9600	182
CN9950	184

EMC 情報

FCC(連邦通信委員会)電波干渉声明

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠しています。動作は次の 2 つの条件を前提としています。(1)本製品による有害な干渉が発生しない。(2)本製品は、予想外の動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信した干渉をすべて受け入れる。

FCC による注意:本コンプライアンスに対する責任者による明確な承認を得ていない変更または改良を行った場合は、ユーザーの本装置を操作する権利を無効とします。

警告:本製品を一般家庭でご使用になると、電波干渉を起こすことがあります。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。



安全にお使い頂くために

全般

- ◆ 本製品は屋内でのみご使用いただけます。
- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。また、弊社 Web サイトに掲載のオンラインユーザーマニュアルもご確認ください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱するおそれがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ お使いの装置への損傷を避けるためにも、すべての装置を適切に接地するようにしてください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所を避けて電源コードを設置してください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。
- ◆ ホットプラグ対応パワーサプライの取り付け、または取り外しする場合は、以下の注意事項に従ってください。
 - 電源ケーブルを接続する前に、パワーサプライのセットアップを行ってください。
 - パワーサプライを取り外す前に電源ケーブルを抜いてください。
 - お使いのシステムが複数のパワーサプライをお使いである場合、パワーサプライからすべての電源ケーブルを抜いてお使いのシステムから切り離してください。
- ◆ 危険な電源ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットの空きスロット等に押し込まないようにしてください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、ご不明な点がございましたら技術サポートまでご相談ください。

- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントからはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。
- ◆ 壁コンセントの近くに装置をセットアップし、簡単に利用できるようにしてください。
- ◆ 冗長化用 AC アダプター(型番 0AD8-0605-24EG)は別途お求めください。
- ◆ 本製品をスタッキングする場合、ラックにロックする場合、フレームにネジ止めする場合やその他類似の方法で設置を行う場合には、製品を確実に固定するための安全装置が追加で必要になることがあります。
- ◆ 本製品は固定させて使用するよう設計されているため、通常の動作中には動かさないようにしてください。
- ◆ Cat 5e/6 ケーブルは、電気ケーブル、変圧器、照明器具といった電波障害の発生源となりうる物から、できるだけ遠ざけて配線するようにしてください。また、これらのケーブルは、電線用導管に接続したり、電灯設備の上に置いたりしないようにしてください。

ラックマウント

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業する前に、シングルラックにフロントとサイドのスタビライザーを取り付けるか、結合された複数のラックにフロントスタビライザーを取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ 本製品で定められている保管温度を超えないように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

同梱品

CN9000

- ◆ CN9000 1 ローカル/リモート アクセス共有 1 ポート VGA KVM over IP (解像度 1920×1200、RS-232 対応、5 ピン リレー/DI ターミナル対応) ×1
- ◆ KVM ケーブル (SPHD → VGA、PS/2&USB) ×1
- ◆ USB Type-A → USB Mini-B ケーブル ×1
- ◆ 電源アダプター ×1
- ◆ ラックマウントキット ×1
- ◆ フットパッド (4pcs) ×1
- ◆ ユーザーガイド* ×1

CN9600

- ◆ CN9600 1 ローカル/リモートアクセス共有 1 ポート DVI KVM over IP (解像度 1920×1200、RS-232 DTE/DCE 対応) ×1
- ◆ KVM ケーブル (DVI-D、USB、オーディオ) ×1 (1.8 m)
- ◆ USB ケーブル ×1 (1.8m)
- ◆ 電源アダプター ×1
- ◆ ラックマウントキット ×1
- ◆ ユーザーガイド* ×1

CN9950

- ◆ 1 ローカル/リモートアクセス共有 1 ポート KVM over IP (CN9950) ×1
- ◆ DisplayPort ケーブル ×1
- ◆ USB Type-A → USB Type-B ケーブル ×1
- ◆ USB Type-A → USB Mini-B ケーブル ×1
- ◆ 電源アダプター ×1
- ◆ ラックマウントキット ×1
- ◆ フットパッド (4pcs) ×1
- ◆ ユーザーガイド* ×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合は

お買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。


* 本マニュアルの公開後に、製品仕様が追加される場合があります。最新版は弊社 Web サイトにアクセスしてご確認ください。

本マニュアルについて


このユーザーマニュアルは、CN9000/CN9600/CN9950 を最大限に活用するために提供されたものです。本ドキュメントには、取り付け、セットアップ方法、操作方法のすべてが書かれています。マニュアルは下記のとおり構成されています。


- 第1章 はじめに:** CN9000/CN9600/CN9950 を紹介します。特長、機能概要および製品各部名称について説明します。
- 第2章 ハードウェアのセットアップ:** システムのセットアップ方法について図を用いながら説明します。
- 第3章 ブラウザーからのログイン:** ブラウザーを使用して CN9000/CN9600/CN9950 にログインする方法、および、画面に表示されるアイコンやボタンの機能について説明します。
- 第4章 設定方法:** CN9000/CN9600/CN9950 の動作環境を構築するために用いられる管理手順について説明します。
- 第5章 リモートサーバーへのアクセス:** CN9000/CN9600/CN9950 にリモートからアクセスする方法について説明します。
- 第6章 Windows クライアントビューワー:** CN9000/CN9600/CN9950 におけるコントロールパネルの使用方法について説明します。
- 第7章 ローカルでのアクセス:** CN9000/CN9600/CN9950 にローカルでアクセスする方法について説明します。
- 第8章 ログファイル:** CN9000/CN9600/CN9950 で発生したイベントをログファイルユーティリティーで参照する方法について説明します。
- 第9章 ログサーバー:** ログサーバーのインストール方法および設定方法について説明します。
- 付録** 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明します。

マニュアル表記について

 入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。

1. 番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。

 ◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。

 矢印は操作の手順を示します。例えば Start → Run はスタートメニューを開き、Run を選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

※本マニュアルに記載されている商品名・会社名等は、各社の商標ならびに登録商標です。

第1章 はじめに

概要

IP-KVM (CN9000/CN9600/CN9950) は、PC またはワークステーションのリモート制御を介してデジタルビデオ、オーディオ、およびバーチャルメディアにリモートアクセスできる、コスト効率の高いデバイスです。本製品は、互換性のある ATEN 製 KVM スイッチ (8 ポート USB DVI/オーディオ KVM スイッチ CS1768 など) や、LCD コンソール (DVI LCD コンソールドロワー CL3800 など) に接続することで、over IP 機能を有効にします。

CN9000/CN9600/CN9950 は、それぞれ、1 系統の VGA、DVI、4K DisplayPort のビデオ信号を送送します。また、イメージとビデオの品質を改善する FPGA グラフィックプロセッサの提供によって、より優れたユーザー体験を実現するとともに、CPU COM ポートおよびローカルコンソール COM ポートはシリアル制御用の RS-232 DTE/DCE 規格に準拠しています。

ユーザーフレンドリーな操作を実現するために、フロントパネルの USB Mini-B ポートはラップトップ USB コンソール (LUC) ポートとして設計されています。ユーザーは単にノートパソコンを LUC ポートに接続するだけで、スイッチに接続されている任意のコンピューターにアクセスして、簡単なオンサイト管理を行うことができます。これにより、日常のメンテナンスのために、モニター、キーボード、およびマウスをローカル側で追加することは不要になります。さらに、バーチャルメディア機能を使用すると、診断テスト、ファイル転送、または OS/アプリケーションのアップデートやパッチの適用をリモートコンソールから実行できます。

シームレスな接続を実現するために、製品本体にはデュアル LAN とデュアル電源機能が搭載されており、サーバールームでの動作をスムーズかつ効率的に保ちます。本製品は、ローカルおよびリモートコンソールのマイクとスピーカーにも対応しています。

CN9000/CN9600/CN9950 は、インターネットで簡単にアクセスできる Web クライアントビューワーを使うことで、リモート管理を容易に行うことができます。このビューワーは、主要な Web ブラウザーと互換性があり、Java やブラウザー用プラグインをインストールしなくても使えるのが特長です。CN9000/CN9600/CN9950 に接続されている PC/サーバーへのアクセスは、従来の Windows/Java クライアントと同様に行えますが、より直接的かつシンプルな方法でアクセスして管理や運用を行うことができるといったメリットがあります。

特長とメリット

ハードウェア

- ◆ スペース効率の最適化を目指したコンパクトでスリムなデザイン
- ◆ FPGA グラフィックプロセッサ搭載 - 画像品質と fps (frames per second) スループットの向上により、鮮明なビデオ表示の応答を実現
- ◆ ネットワーク非対応の KVM スイッチにリモートアクセス機能を付加^{※1}
- ◆ ローカルコンソールには USB キーボード/マウスの接続が可能
- ◆ フロントパネルの USB Mini-B ポートは、ラップトップ USB コンソール (LUC) ポートとして利用可能
- ◆ 10/100/1000 Mbps ネットワークインターフェースを 2 ポート搭載 - ネットワークの二重化や、異なる 2 つの IP アドレスの割り当てが可能
- ◆ 電源バックアップ用のデュアル電源に対応
- ◆ マルチプラットフォーム (Windows、Mac、Linux、Oracle 社 SPARC (Sun)、VT100 ベースのシリアルデバイス) 対応
- ◆ バーチャルメディア対応^{※2}
- ◆ 解像度
 - CN9000/CN9600 : 1920×1200@60Hz 対応 (ローカル/リモートの各コンソール共通)
 - CN9950 : 4096×2160 @ 30Hz 対応 (ローカル/リモートの各コンソール共通)
- ◆ オーディオ対応 - ローカル/リモートの両コンソールでマイクとスピーカーをサポート

注意:

1. 各製品と互換性のある KVM スイッチについては、弊社 Web サイト (<https://www.aten.com/jp/ja/>) における各製品ページにてご確認ください。
2. Windows 以外の OS 向けに設計された特殊機能があるキーボード/マウスは、互換性の問題が発生したり、使用できなかったりする場合があります。
3. カスケード接続する KVM スイッチの機能によっては、CN9000/CN9600/CN9950 の一部の機能がご利用いただけない場合があります。
(例えば、バーチャルメディア非対応の KVM スイッチをカスケード接続した場合は、CN9000/CN9600/CN9950 のバーチャルメディア機能はご利用いただけません。)

管理

- ◆ シリアル制御用の RS-232 DTE/DCE 規格に準拠
- ◆ ユーザーアカウントは最大 64 名作成可能 - 最大 32 ユーザーによる制御の同時共有に対応
- ◆ コンソールアクセス権限の管理機能
- ◆ セッション終了機能 - アドミニストレーターはユーザーセッションを手動で終了することが可能
- ◆ イベントログおよび Windows ベースのログサーバーに対応
- ◆ イベントログ機能 - CN9000/CN9600/CN9950 内部で発生したイベントはすべて記録され、検索可能なデータベースに保存
- ◆ 緊急度の高いシステムイベントはメールまたは SNMP trap、および Syslog を介して管理者へと即時通知
- ◆ リモートからのファームウェアアップグレードが可能
- ◆ CN9000/CN9600/CN9950 へのアクセスは、内蔵のシリアルビューワー、または Telnet および SSH セッション用のサードパーティソフトウェア (例:PuTTY) から可能
- ◆ アウトオブバンドアクセス - シリアルポート経由のダイヤルアップ接続によるアクセスに対応
- ◆ ポート共有モードにより複数ユーザーからのサーバーへの同時アクセスが可能
- ◆ ローカル/リモートの共有モードで、共有または排他でコンソールを操作する権限を簡単に設定可能
- ◆ ATEN 統合管理システム CC2000 対応 (CN9600)
- ◆ ATEN ビデオセッションレコーディングソフトウェア CCVSR 対応 (CN9600)
- ◆ ATEN KVM over IP コンソールステーション (KA8270/KA8280/KA8278/KA8288) 対応
(詳細は弊社 Web サイトにおける製品ページにてご確認ください)
- ◆ ダイナミック DNS 対応 - DHCP サーバーによって割り当てられた動的 IP アドレスをホスト名にマッピング可能
- ◆ ユーザーアカウントおよび環境設定のインポート/エクスポートが可能
- ◆ ブラウザー操作の有効化/無効化が可能
- ◆ IPv6 対応

使いやすいインターフェース

- ◆ 多言語対応のインターフェース(ブラウザー版および AP 版)により、ユーザーのトレーニング期間を最小限に抑えて生産性を向上
- ◆ クライアント側はマルチプラットフォーム対応 - Windows、Mac、Linux、Oracle 社 SPARC (Sun)
- ◆ 各種ブラウザーに対応 - IE、Firefox、Safari、Opera、Chrome

- ◆ Webブラウザを使ったリモートアクセス - 事前にActive XやJavaをインストールしなくても、Webブラウザだけで管理タスクの実行が可能
- ◆ Webクライアントビューワーを使った over-IP アクセスが簡単 - ユーザーは、製品に接続されているPC/サーバーに対して、Java やブラウザ用プラグインをインストールすることなく Webブラウザだけでリモートアクセス可能
- ◆ バーチャルリモートデスクトップ画面はフルスクリーン表示、またはリサイズ可能なウィンドウ表示が選択可能
- ◆ クイック起動機能付きマジックパネル

高度なセキュリティ

- ◆ スマートカード/CAC リーダー対応
- ◆ 外部認証対応 - RADIUS、LDAP、LDAPS、MS Active Directory
- ◆ ブラウザーからのユーザーログインは、TLS 1.2 暗号化通信およびRSA 2048ビット証明書でセキュリティを確保
- ◆ キーボード/マウス、ビデオ、バーチャルメディアの各信号を個別に暗号化可能(56 ビット DES、168 ビット 3DES、256 ビット AES、128 ビット RC4、ランダムより選択)
- ◆ IP アドレスや MAC アドレスによるフィルタリング機能
- ◆ パスワード保護対応
- ◆ プライベート CA 認証対応

バーチャルメディア

- ◆ バーチャルメディア対応 - ファイルアプリケーション、OS のパッチ適用、ソフトウェアのインストール、および診断テストの作業が効率的に
- ◆ USB インターフェース対応サーバーでは、OS と BIOS の両方のレベルでバーチャルメディア機能が利用可能
- ◆ USB1.1 およびUSB2.0 の DVD/CDドライブ、USB マスストレージデバイス、PC ハードディスクドライブ、フォルダー、ISO イメージのマウントが可能

バーチャルリモートデスクトップ

- ◆ 帯域制御機能 - ビデオ画質は帯域幅の変化に応じて自動調整。モノクロ色深度設定、データ圧縮率の閾値/ノイズ設定は環境に合わせて変更が可能
- ◆ フルスクリーン表示、またはリサイズ可能なウィンドウ表示が選択可能
- ◆ リモートユーザー間のコミュニケーションに活用できるメッセージボード搭載

- ◆ 多言語対応のオンスクリーンキーボード搭載
- ◆ マウスダイナシンク機能 - ローカル/リモートのマウスは自動的に同期
- ◆ 終了マクロ対応
- ◆ 接続機器には BIOS レベルでのアクセスが可能

システム要件

リモートユーザー側で使用するコンピューター

リモートユーザー側で使用するコンピューター（クライアントコンピューター）とは、ユーザーがインターネット経由で離れた場所からスイッチにログインする際に使用するコンピューターのことを指します。これらのコンピューターには下記のハードウェア環境が必要です。

- ◆ 最適な状態でお使い頂くために、本製品にアクセスする際には、CPU が Pentium III 1GHz 以上のプロセッサを搭載したコンピューターを使用し、このコンピューターの解像度を 1024×768 に設定してください。Pentium IV 2GHz を搭載し、RAM の容量が最低 1GB あるコンピューターの使用を推奨します。
- ◆ ブラウザーは TLS1.2 暗号化通信に対応したものをお使いください。
- ◆ ネットワーク転送速度は 128kbps 以上が必要です。
- ◆ ログサーバーを使用する場合は、Microsoft Jet OLEDB 4.0 以降のドライバーをインストールしてください。
- ◆ リモートユーザーが CN9000/CN9600/CN9950 にログインする際には、Windows 2000 以降がインストールされたコンピューター、または Sun Java Runtime Environment (JRE) 6 Update 3 以降が動作可能なコンピューター (Linux、Mac、Sun 等) を使用してください。

サーバー

サーバーとは KVM ケーブルを使用して CN9000/CN9600/CN9950 に接続されているコンピューターのことを指します。これらのサーバーには下記のハードウェア環境が必要です。

- ◆ USB KVM ケーブル接続の場合、USB Type-A ポートおよび USB ホストコントローラー
- ◆ バーチャルメディア接続の場合、別途、USB Type-A ポートおよび USB ホストコントローラーを使用

ケーブル

- ◆ 製品パッケージには CN9000/CN9600/CN9950 とサーバーまたは KVM スイッチを接続する USB KVM ケーブルが 1 本同梱されています。
- ◆ 下表のとおり、様々な長さの KVM ケーブルを取り揃えております。

型番	タイプ	ケーブル長	ケーブル型番
CN9000	PS/2&USB VGA KVM ケーブル	1.2m	2L-5301UP
		1.8m	2L-5302UP
		3.0m	2L-5303UP
CN9600	USB&シングルリンク DVI-D KVM ケーブル	1.2m	2L-7D02U
		1.8m	2L-7D03U
		5.0m	2L-7D05U
CN9950	DisplayPort ケーブル	1.8m	2L-7D02DP
		3.0m	2L-7D03DP

- ◆ KVM ケーブルを追加でお求めの際には、販売店までお問い合わせください。
- ◆ CN9000/CN9600/CN9950 を LAN、WAN、またはインターネットに接続するには Cat 5e/6 以上のイーサネットケーブルを使用してください(製品パッケージには同梱されていません)。
- ◆ 本製品はアナログ映像信号を利用できません。

ビデオ

解像度	CN9000/CN9600	CN9950
4096×2160 @ 30 Hz		●
3840×2160 @ 30 Hz		●
2560×2048 @ 30 Hz		●
2560×1600 @ 30 Hz		●
2560×1440 @ 30 Hz		●
1920×1200 @ 60 Hz	●	●
1920×1080 @ 60 Hz	●	●
1680×1050 @ 60 Hz	●	●
1600×1200 @ 60 Hz	●	●
1600×900 @ 60 Hz	●	●
1440×900 @ 60 Hz	●	●
1400×1050 @ 60 Hz	●	●
1360×768 @ 60 Hz	●	
1280×1024 @ 60 Hz	●	●
1280×1024 @ 75 Hz	●	
1280×960 @ 60 Hz	●	●
1280×720 @ 60 Hz	●	●
1152×864 @ 75 Hz	●	
1024×768 @ 60/70 Hz	●	●
1024×768 @ 75/85 Hz	●	
800×600 @ 56/60 Hz	●	●
800×600 @ 72/75/85 Hz	●	
720×400 @ 70 Hz	●	●
640×480 @ 60 Hz	●	●
640×480 @ 72/75/85 Hz	●	

OS

- ◆ CN9000/CN9600/CN9950 にログインするリモートユーザーのコンピューターの OS でサポートされているのは、Windows 2000 以降、また、これ以外のシステム (Linux、Mac、Sun) では Oracle Java Runtime Environment (JRE) 6 Update 3 以降のバージョンがインストールされているシステムとなります。

- ◆ CN9000/CN9600/CN9950 と接続可能なサーバーの OS は下表のとおりです。

OS		バージョン
Windows		2000 以降
Linux	RedHat	9.0、Fedora 以降 RHEL AS 4、RHEL 5
	SuSE	10 / 11.1 以降
	Debian	3.1 / 4.0 以降
	Ubuntu	7.04 / 7.10 以降
UNIX	IBM AIX	5L / V6 以降
	FreeBSD	5.5 / 6.1 / 6.2 以降
Sun	Solaris	8 / 9 / 10 以降
Mac		OS 10.1 以降

※Linux システムでは、USB 2.0 に対応できるよう、バージョンが 2.6 以降のカーネルをお使いください。

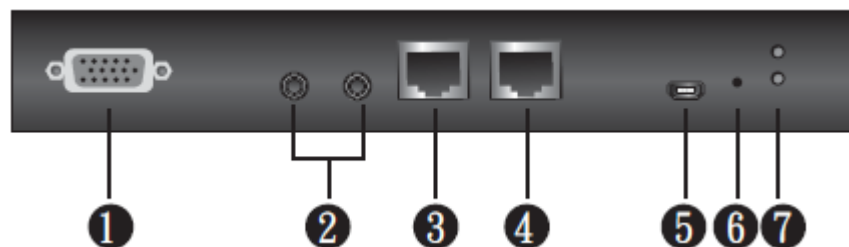
ブラウザ

CN9000/CN9600/CN9950 へのログインに対応したブラウザは次のとおりです。

ブラウザ	バージョン
Internet Explorer	8 以降
Chrome	4.0.3 以降
Firefox	3.5.3 以降
Safari	4.0.3 以降
Opera	10.10 以降

製品各部名称

CN9000 フロントパネル

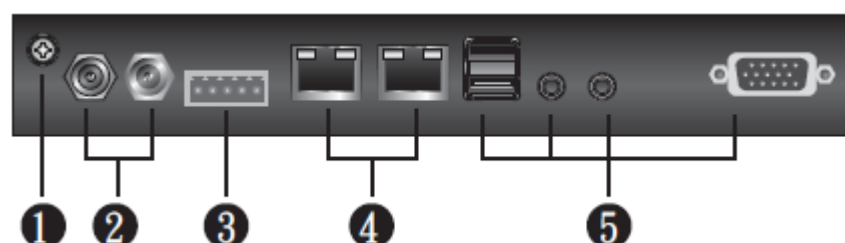


No.	名称	説明
1	PC/KVM ポート	製品パッケージに付属の KVM ケーブルをこのポートに接続することで、CN9000 を PC/サーバーに接続します。 キーボード、モニター、マウスの各信号を伝送する PC/サーバーまたは KVM スイッチに対して、製品本体の KVM VGA (SPHD) ポートを接続してください。 注意: 信号を伝送するキーボードおよびマウスのインターフェースは、PS/2 または USB のどちらかを選択できます。
2	KVM オーディオポート	オーディオ信号を伝送する PC/サーバーのオーディオポートと接続を行います。
3	CPU COM (RS-232 DTE) ポート	シリアルデータ通信機器 (例: モデムまたは PC) を接続します。詳細は p.41 を参照してください。
4	ローカルコンソール COM (RS-232 DCE) ポート	シリアルデータ端末機器 (例: PC またはタッチパネル) を接続します。詳細は p.41 を参照してください。
5	ラップトップ USB コンソール (LUC) ポート	ノートパソコンでローカルアクセスを行う場合 (p.138「ローカルアクセス」参照) は、製品パッケージ同梱の USB Type-A → USB Mini-B ケーブルを使って、このポートとノートパソコンの USB ポートを接続してください。 このとき、USB IO 設定 (p.87「USB IO 設定」参照) のモードが LUC に設定されていることを確認してください。 なお、USB IO 設定のモードがバーチャルメディアに設定されている場合、このポートは機能しません。

(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
6	リセットボタン	リセットボタンを3秒以上長押しすると、工場出荷時の設定に戻します。
7	電源 LED	CN9000 に電源が入ると、グリーンに点灯します。

CN9000 リアパネル



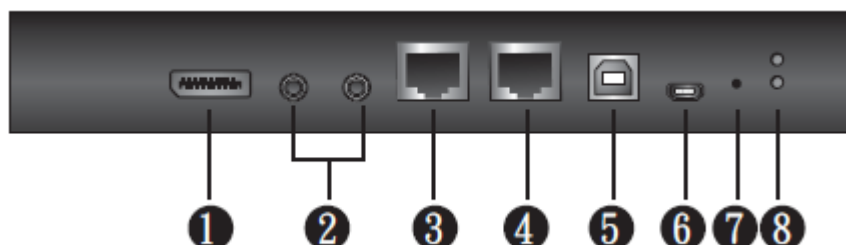
No.	名称	説明
1	接地ターミナル	適切な接地物に接続してください。接地線は別途お求めください。
2	電源ジャック	<p>製品パッケージに同梱されている電源アダプターを AC 電源に接続したら、このアダプターのケーブル部分を任意の電源ジャックに接続してください。</p> <p>2つ目の電源アダプターも、AC 電源に接続してから、ケーブル部分をもう一方の電源ジャックに接続してください。</p> <p>注意:デュアル電源操作はオプションです。セカンド電源はバックアップ用ですので、セカンド電源用の電源アダプターは別売品となっています。</p>
3	制御ターミナル (※将来的なファームウェアアップグレードで対応予定)	<p>リモートから再起動を行う場合は、NC および C の各ターミナルを PC/サーバーに接続してください。</p> <p>また、デジタル入力通知を行う場合は、GND および DI の各ターミナルを入力機器 (例: 温度計、湿度センサー) に接続してください。</p>
4	LAN ポート	Cat 5e/6 ネットワークケーブルを、アップリンク接続用に接続します。
5	ローカルコンソールポート	ローカルコンソール (USB キーボード、VGA モニター、USB マウス、スピーカー、マイク) ケーブルをこのポートに接続してください。各コネクタは色やアイコンで識別できるように表示されています。

CN9000/CN9950 サイドパネル



No.	名称	説明
1	制御ポート	※海外向け仕様のため、日本ではお使いいただけません。

CN9950 フロントパネル

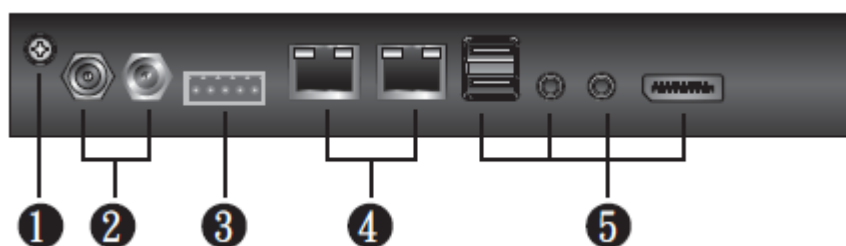


No.	名称	説明
1	PC/KVM ポート	製品パッケージに付属の DisplayPort ケーブルをこのポートに接続することで、CN9950 を PC/サーバーに接続します。
2	KVM オーディオポート	オーディオ信号を送信する PC/サーバーのオーディオポートと接続を行います。
3	CPU COM (RS-232 DTE) ポート	シリアルデータ通信機器 (例: モデムまたは PC) を接続します。詳細は p.41 を参照してください。
4	ローカルコンソール COM (RS-232 DCE) ポート	シリアルデータ端末機器 (例: PC またはタッチパネル) を接続します。詳細は p.41 を参照してください。
5	KVM USB Type-B ポート	キーボードおよびマウスの各信号を送信する PC/サーバーまたは KVM スイッチに対して、製品パッケージに付属の USB ケーブル (USB Type-A → USB Type-B) を使って、このポートと接続します。
6	ラップトップ USB コンソール (LUC) ポート	ノートパソコンでローカルアクセスを行う場合 (p.138「ローカルアクセス」参照) は、製品パッケージ同梱の USB Type-A → USB Mini-B ケーブルを使って、このポートとノートパソコンの USB ポートを接続してください。 このとき、USB IO 設定 (p.87「USB IO 設定」参照) のモードが LUC に設定されていることを確認してください。 なお、USB IO 設定のモードがバーチャルメディアに設定されている場合、このポートは機能しません。

(表は次のページに続きます)

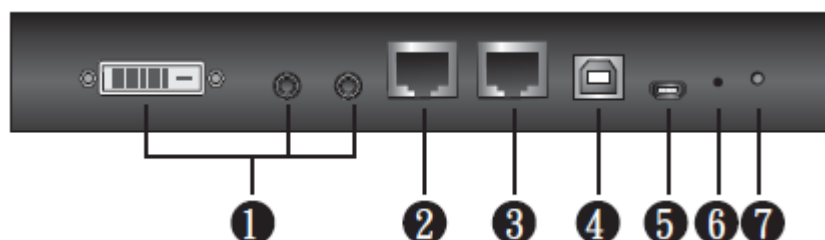
No.	名称	説明
7	リセットボタン	リセットボタンを3秒以上長押しすると、工場出荷時の設定に戻します。
8	電源 LED	CN9950 に電源が入ると、グリーンに点灯します。

CN9950 リアパネル



No.	名称	説明
1	接地ターミナル	適切な接地物に接続してください。接地線は別途お求めください。
2	電源ジャック	製品パッケージに同梱されている電源アダプターを AC 電源に接続したら、このアダプターのケーブル部分を任意の電源ジャックに接続してください。 2つ目の電源アダプターも、AC 電源に接続してから、ケーブル部分をもう一方の電源ジャックに接続してください。 注意: デュアル電源操作はオプションです。セカンド電源はバックアップ用ですので、セカンド電源用の電源アダプターは別売品となっています。
3	制御ターミナル (※将来的なファームウェアアップグレードで対応予定)	リモートから再起動を行う場合は、NC および C の各ターミナルを PC/サーバーに接続してください。 また、デジタル入力通知を行う場合は、GND および DI の各ターミナルを入力機器(例:温度計、湿度センサー)に接続してください。
4	LAN ポート	Cat 5e/6 ネットワークケーブルを、アップリンク接続用に接続します。
5	ローカルコンソールポート	ローカルコンソール(USB キーボード、DisplayPort モニター、USB マウス、スピーカー、マイク)ケーブルをこのポートに接続してください。各コネクタは色やアイコンで識別できるように表示されています。

CN9600 フロントパネル

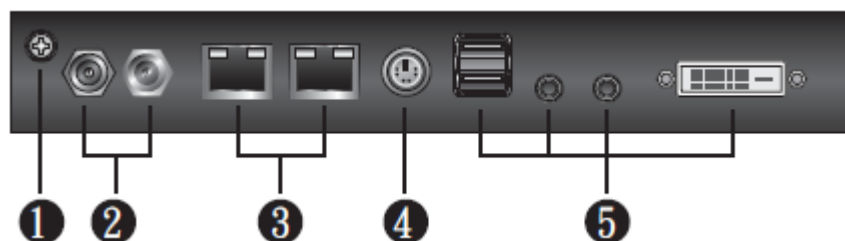


No.	名称	説明
1	PC/KVM ポート	製品パッケージに付属の KVM ケーブルをこのポートに接続することで、CN9600 を PC/サーバーに接続します。 セットアップ対象となるサーバーまたは KVM スイッチに、DVI ディスプレイ、マイク、スピーカーを接続してください。 各コネクタは色やアイコンで識別できるように表示されています。
2	CPU COM (RS-232 DTE)ポート	シリアルデータ通信機器(例:モデムまたは PC)を接続します。詳細は p.41 を参照してください。
3	ローカルコンソール COM (RS-232 DCE)ポート	シリアルデータ端末機器(例:PC またはタッチパネル)を接続します。詳細は p.41 を参照してください。
4	USB Type-B ポート	キーボードおよびマウスの各信号を送信する PC/サーバーまたは KVM スイッチに対して、製品パッケージに付属の USB ケーブル(USB Type-A →USB Type-B)を使って、このポートと接続します。
5	ラップトップ USB コンソール (LUC)ポート	ノートパソコンでローカルアクセスを行う場合 (p.138「ローカルアクセス」参照) は、製品パッケージ同梱の USB Type-A → USB Mini-B ケーブルを使って、このポートとノートパソコンの USB ポートを接続してください。 USB IO 設定 (p.87「USB IO 設定」参照) のモードが LUC に設定されていることを確認してください。 なお、USB IO 設定のモードがバーチャルメディアに設定されている場合、このポートは機能しません。

(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
6	リセットボタン	リセットボタンを3秒以上長押しすると、工場出荷時の設定に戻します。
7	電源 LED	CN9600 に電源が入ると、グリーンに点灯します。

CN9600 リアパネル



No.	名称	説明
1	接地ターミナル	適切な接地物に接続してください。接地線は別途お求めください。
2	電源ジャック	<p>製品パッケージに同梱されている電源アダプターをAC電源に接続したら、このアダプターのケーブル部分を任意の電源ジャックに接続してください。</p> <p>2つ目の電源アダプターも、AC電源に接続してから、ケーブル部分をもう一方の電源ジャックに接続してください。</p> <p>注意:デュアル電源操作はオプションです。セカンド電源はバックアップ用ですので、セカンド電源用の電源アダプターは別売品となっています。</p>
3	LANポート	Cat 5e/6 ネットワークケーブルを、アップリンク接続用に接続します。
4	制御ポート	※海外向け仕様のため、日本ではお使いいただけません。
5	ローカルコンソールポート	ローカルコンソール(USB キーボード、DVI モニター、USB マウス、スピーカー、マイク)ケーブルをこのポートに接続してください。各コネクタは色やアイコンで識別できるように表示されています。

第2章 ハードウェアのセットアップ



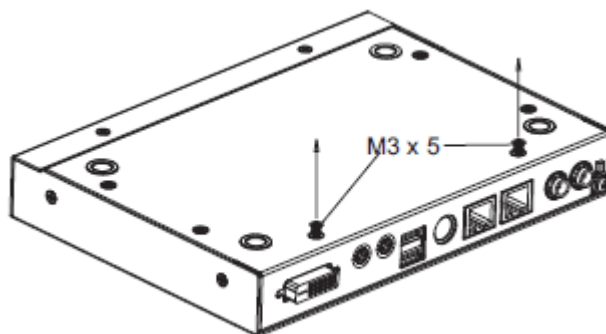
1. 機器の設置に際し重要な情報を p.7 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源が OFF になっていることを確認してください。コンピューターにキーボード起動機能がついている場合は、ここからも電源ケーブルを抜いてください。
3. 本マニュアルに記載された手順に従わずにセットアップを行うと、危険な状態に陥る可能性があります。
4. 本製品用の電源は同梱の電源アダプターによって供給されるように設計されており、DC 配電ではありません。

マウント方法

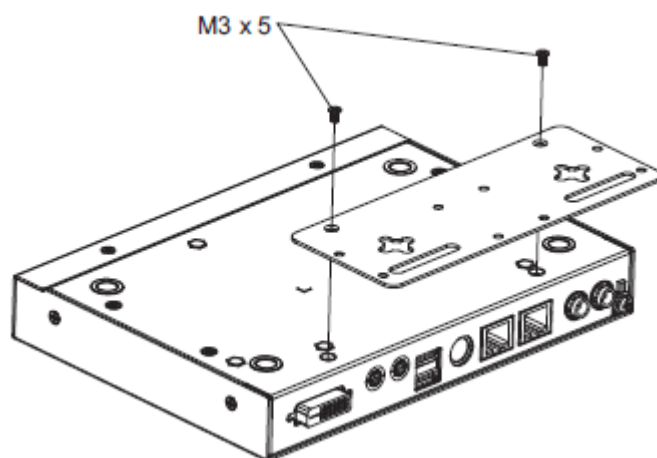
CN9000/CN9600/CN9950 は、標準 19 インチ (1U) ラックに取り付けることも、壁に取り付けることもできます。このセクションでは CN9600 を例に説明します。

ブラケットの取り付け

1. 図のように、ユニットの下側からネジを外してください。

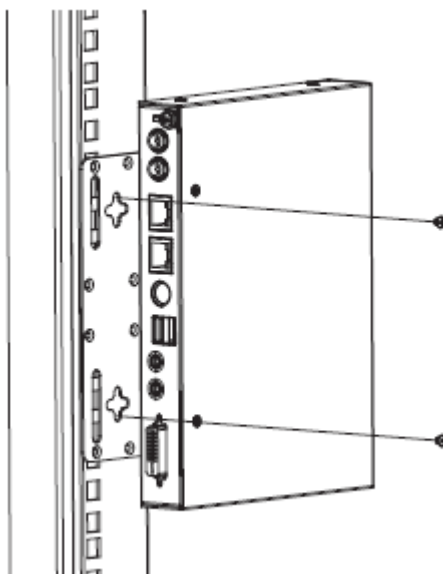


2. ブラケットを取り付けたら、前の手順で取り外したネジを使用してブラケットを固定してください。



ラックへのマウント

1. ラックで製品本体を取り付ける位置を決めたら、ラックのネジ穴とマウント用ブラケットの穴を合わせてください。
2. ラックにマウント用ブラケットをネジ止めしてください。

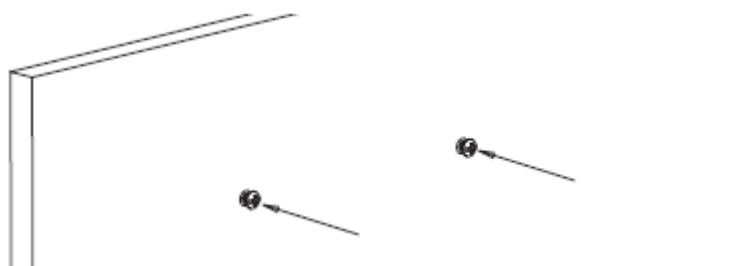


注意: ラックマウント用のネジは製品には同梱されていないので、お使いのラックに適したネジを別途ご用意ください。

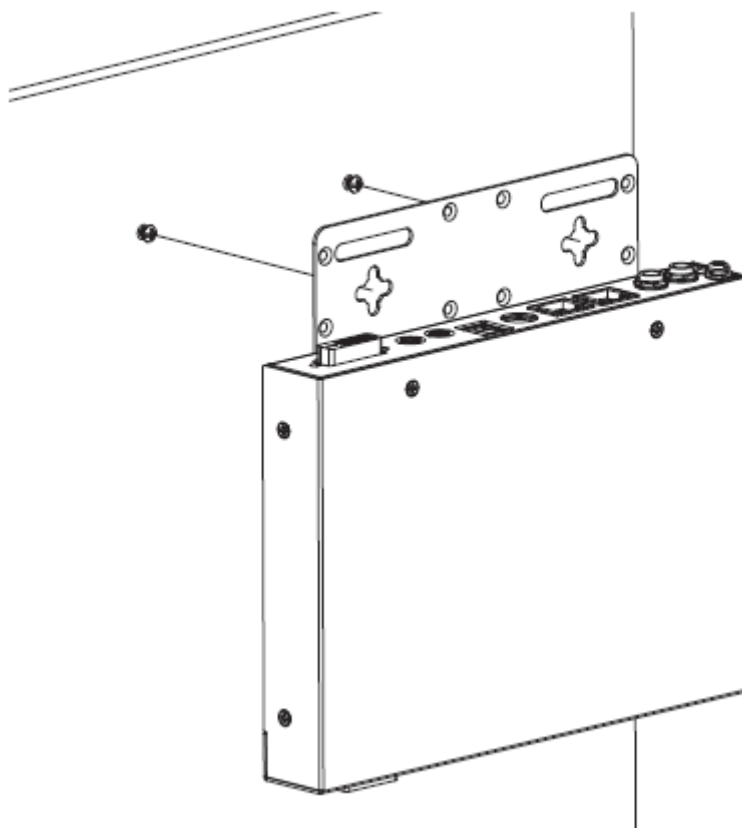
壁への取り付け

CN9000/CN9600/CN9950 は、壁に掛けてマウントできるように設計されています。

1. お使いのユニットをマウントする壁で取り付け位置を決めたら、ブラケットを引っ掛ける位置に2本のネジを取り付けてください(ネジを取り付ける前に、壁のネジ位置に印をつけておいてください)。ブラケットを引っ掛ける穴には十分なスペースを残すように注意してください。次に例を示します。



2. 手順1で取り付けしたネジにブラケットの穴を引っ掛けて、ユニットをマウントしてください。



ハードウェアのセットアップ

製品本体のセットアップを行う場合は、次ページの接続図（図内における番号は作業手順に対応）を参考にしながら、下記の手順に従って作業を行ってください。

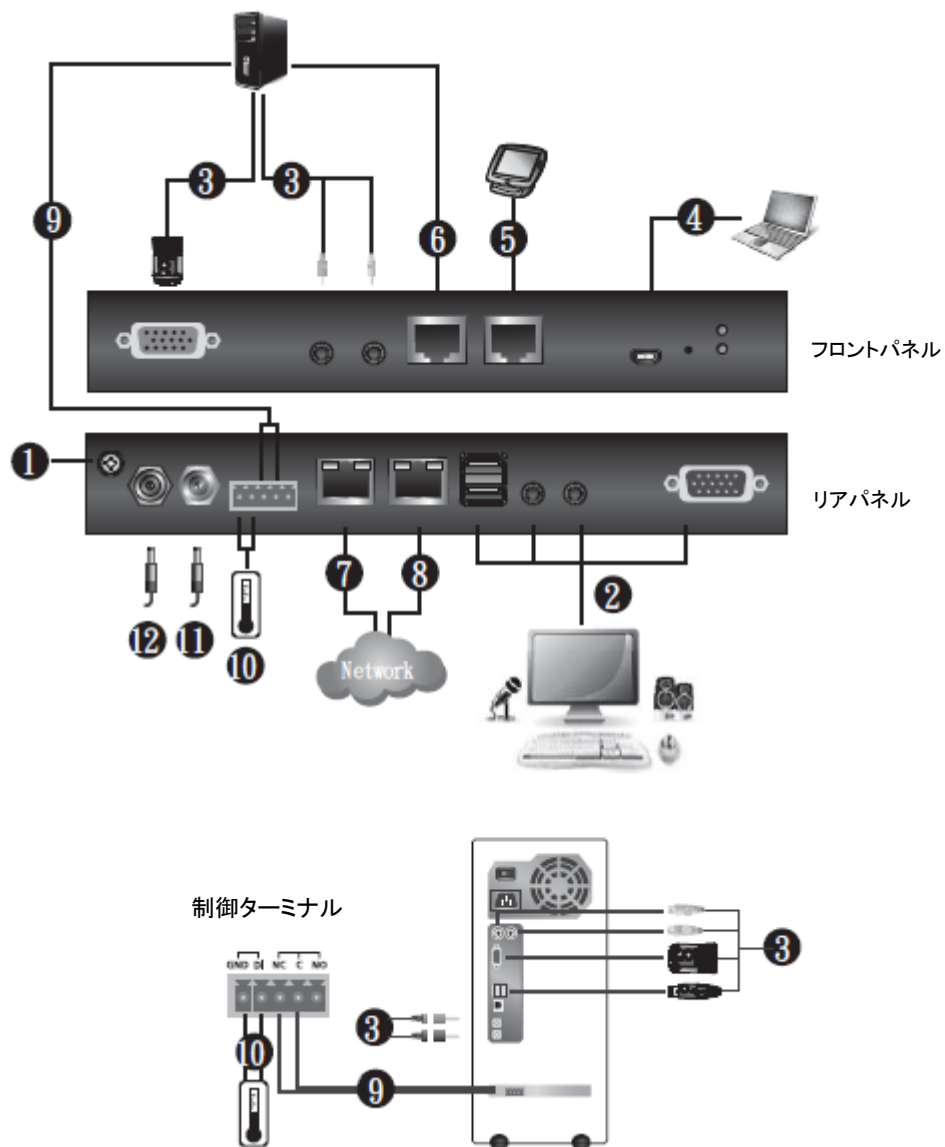
1. 本体のグラウンドターミナルを適切な接地物に接続してください。
2. USB キーボード、マウス、モニター、スピーカー、マイクを、本体のリアパネルにあるローカルコンソールポートセクションに接続してください。
3. 製品パッケージに同梱されている KVM ケーブルを使用して、ユニットの PC/KVM ポートおよびオーディオポートを、セットアップ対象となるサーバーまたは KVM スイッチのキーボード、ビデオ、マウス、スピーカー、マイクの各ポートにそれぞれ接続してください。
4. （オプション）ラップトップ USB コンソール (LUC) 機能を使用してローカルアクセスする場合は、製品パッケージに同梱されている USB Type-A → USB Mini-B ケーブルを使って、この (LUC) ポートにノートパソコンの USB ポートを接続してください。
このとき、USB IO 設定のモードが LUC になっていることを確認してください。詳細については、p.87「USB IO 設定」を参照してください。
5. （オプション）タッチパネルなどの他のシリアルデバイス（データ端末機器）を使用している場合は、ネットワークスイッチコンソールケーブルを使用して製品本体のローカルコンソール COM (RS-232DCE) ポートに接続してください。
6. （オプション）PC などの他のシリアルデバイス（データ通信機器）を使用している場合は、シリアル RS-232 の DB-9 → RJ-45 Cat 5 イーサネットアダプターネットワークモデム/スイッチ/ルーターケーブルを使って、製品本体の CPU COM (RS-232 DTE) ポートに接続してください。
7. ネットワークケーブルを製品本体の LAN ポートの 1 つに接続してください。
8. （オプション）デュアル LAN で使用する場合は、2 本目のネットワークケーブルをもう一方の LAN ポートに接続してください。
9. （オプション）CN9000/CN9950 を使用しており、リモートから再起動を行う場合は、NC および C の各ターミナルを PC/サーバーに接続してください（※この機能は、将来的なファームウェア

アップグレードで対応予定です)。

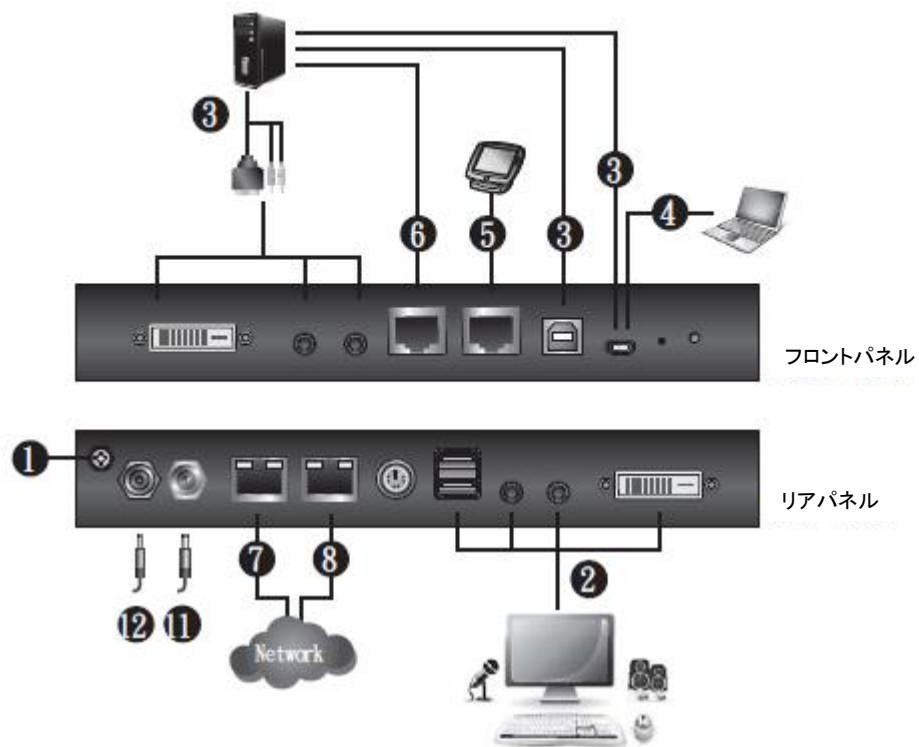
10. (オプション) CN9000/CN9950 を使用しており、また、デジタル入力通知を行う場合は、GND および DI の各ターミナルを入力機器(例:温度計、湿度センサー)に接続してください(※この機能は、将来的なファームウェアアップグレードで対応予定です)。
11. 製品パッケージに付属の電源アダプターを AC 電源に接続したら、電源アダプターのケーブル部分をユニットの電源ジャックの 1 つに差し込んでください。これで CN9000/CN9600/CN9950 に電源が入ります。
12. (オプション)デュアル電源で使用する場合は、もう 1 つの電源アダプターを AC 電源に接続してから、ケーブル部分を別の電源ジャックに接続してください。

注意: セカンドの電源接続は、電源バックアップとして機能します。2 台目の電源アダプターは、ATEN の販売代理店よりお求めください。

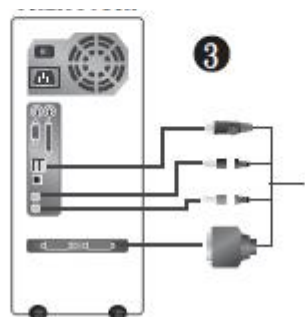
CN9000



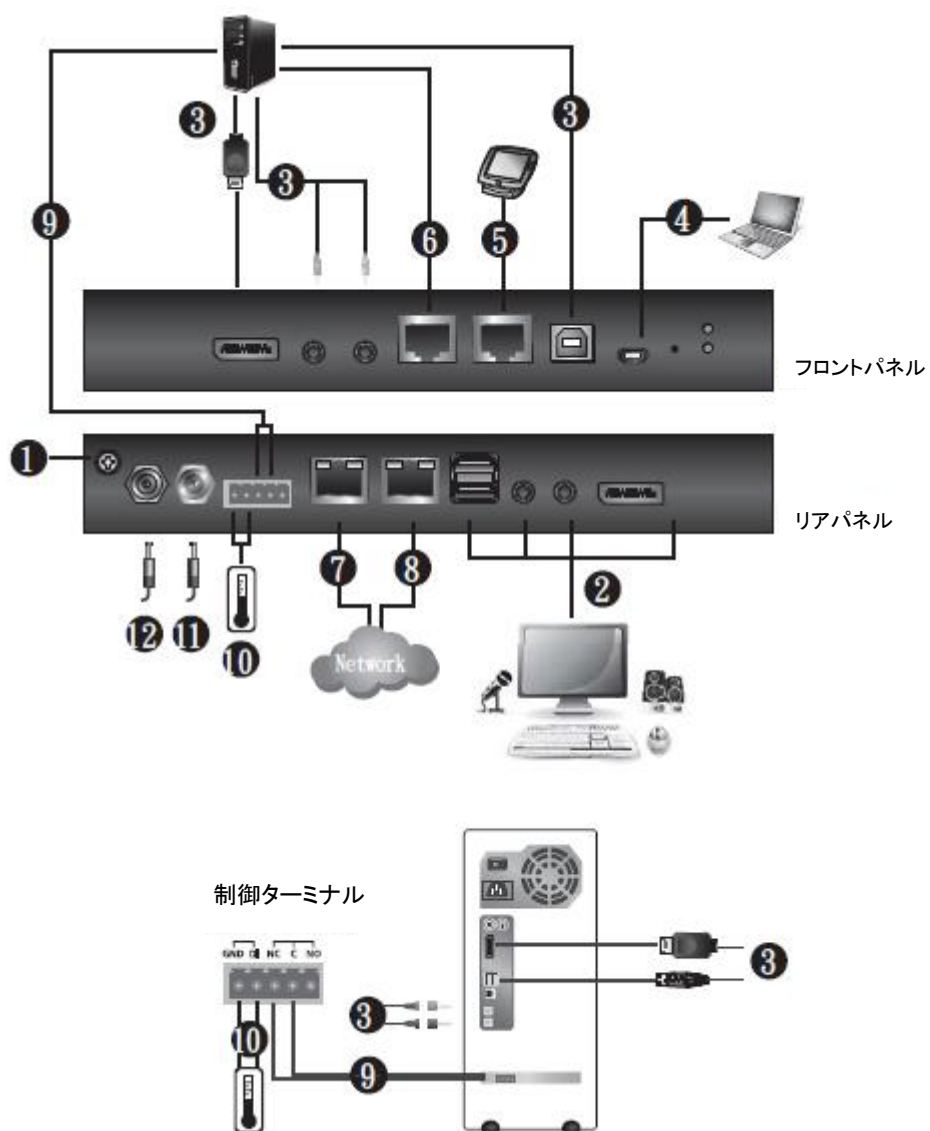
CN9600



USB KVM ケーブルの接続



CN9950



DCE/DTE ポート

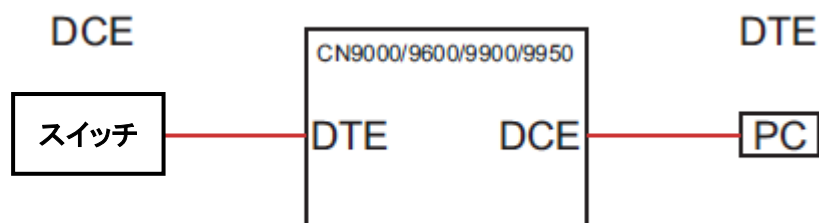
DCE ポートと DTE ポートには様々なデバイスを組み合わせて接続することができます。

スイッチと PC を組み合わせて使用する場合、スイッチは DCE(データ回線終端装置)として、PC は DTE(データ端末装置)として、それぞれ機能しますので、スイッチは DTE ポートに、PC は DCE ポートに、それぞれ接続するようにしてください。

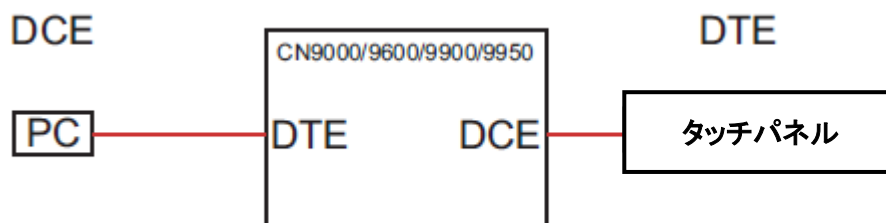
PC とタッチパネルを組み合わせて使用する場合、PC は DCE として、タッチパネルは DTE として、それぞれ機能しますので、PC は DTE ポートに、タッチパネルは DCE ポートに、それぞれ接続するようにしてください。

簡単な図を例として示します。

スイッチおよび PC



PC およびタッチパネル



第3章 ブラウザからのログイン

CN9000/CN9600/CN9950 には、インターネットタイプのブラウザまたは下記の方法を通じて、アクセスすることができます。

- ◆ Windows クライアントまたは Java クライアント(p.95「Web/Windows/Java クライアントビューワー」参照)
- ◆ Windows または Java アプリケーション (AP) プログラム (p.96「Windows クライアント AP」または p.99「Java クライアント AP」参照)
- ◆ ラップトップ USB コンソール (LUC) ポート (p.141「ラップトップ USB コンソール (LUC)」参照)
- ◆ ローカルコンソール (p.138「ローカルコンソール」参照)

以降の章ではブラウザベースの操作方法について説明します。

ログイン

CN9000/CN9600/CN9950 を Web ブラウザーから操作する場合は、次の手順に従って操作を行ってください。

1. お使いの Web ブラウザーを開き、アクセス対象となる CN9000/CN9600/CN9950 の IP アドレスをブラウザの URL バーに直接入力してください。

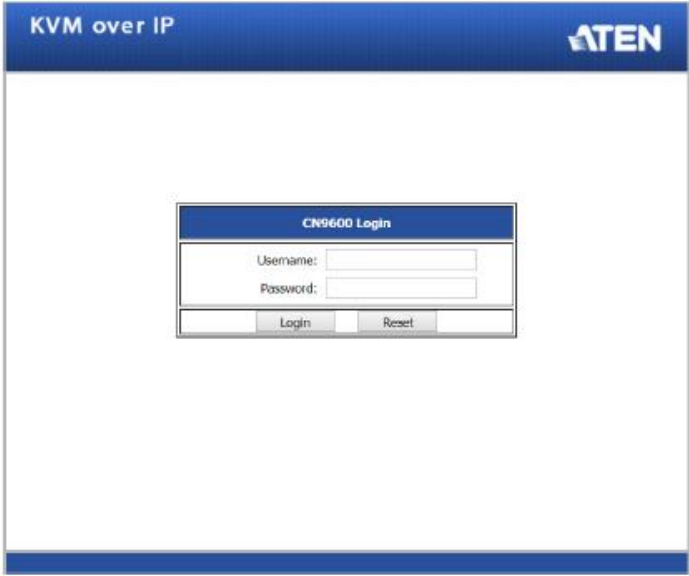
DHCP 環境でない場合のデフォルト IP アドレスは、192.168.0.60 です。

-
- 注意:**
1. セキュリティ上の理由から、管理者がログイン文字列を設定している可能性があります。その場合、ログインの際に、IP アドレスの後スラッシュを入れてから文字列を入力してください。例: 192.168.0.100/CN9600
IP アドレスやログイン文字列がご不明な場合は、CN9000/CN9600/CN9950 の管理者にご相談ください。
 2. アドミニストレーターとして初回ログインを行う場合、複数の方法で CN9000/CN9600/CN9950 に IP アドレスを設定することができます。詳細は p.153「IP アドレスの設定」を参照してください。
-

2. 「**セキュリティの警告**」画面(またはダイアログ)が表示されます。この証明書は信頼できるものですので、「このサイトの閲覧を続行する(推奨されません)。」などをクリックして、ログインページに進んでください(詳細は p.162「信頼された証明書」参照)。別のセキュリティの警告に関するダイアログが表示された場合も同様に、その証明書を受け入れてください。

注意: 「**セキュリティの警告**」画面の形式は、ブラウザーのバージョンによって異なります。

CN9000/CN9600/CN9950 のログイン画面が表示されます。



3. (CN9000/CN9600/CN9950 の管理者によって設定された)正しい**ユーザーネーム**および**パスワード**を入力したら、「**Login**」(ログイン)ボタンをクリックして操作を続けてください。

注意: 1. アドミニストレーターとして初回ログインを行う場合、下記のデフォルトアカウントでログインしてください。

ユーザーネーム: administrator

パスワード: password

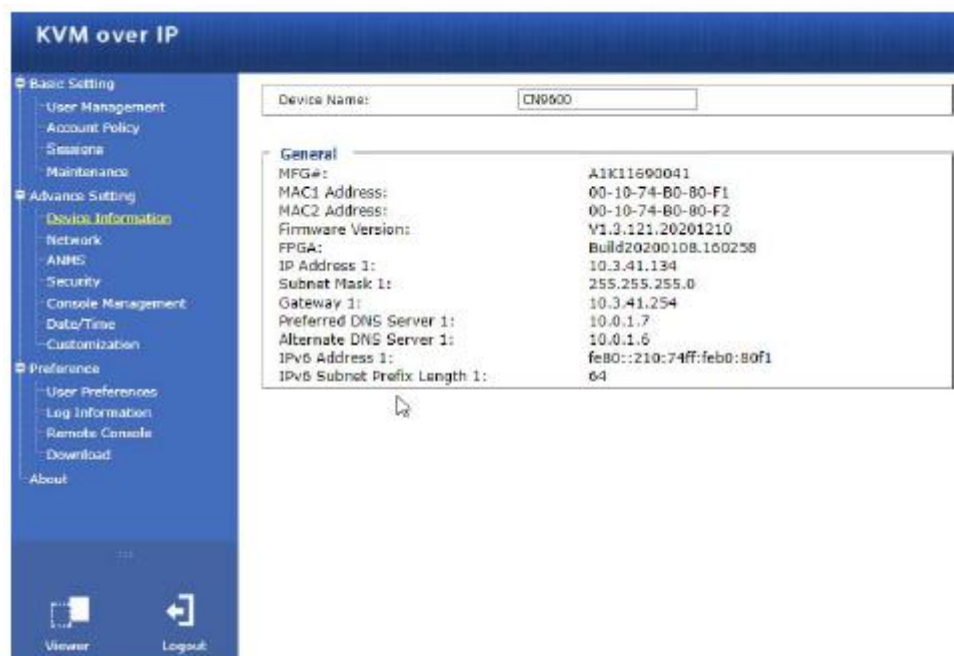
セキュリティ上の理由から、ログインパスワードの変更を求めるプロンプトが表示されます。このパスワードは、ログインパスワードとは異なるものに設定してください。

2. 無効なログインを指定した場合、認証ルーチンは「Invalid Username or Password. Please try again.」(ユーザーネームまたはパスワードが無効。再試行してください)というメッセージを返します。このメッセージが表示された場合は、ユーザーネームとパスワードに注意して再度ログインしてください。
-

ログインに成功すると、メイン画面が表示されます。

メイン画面

ログインに成功すると、CN9000/CN9600/CN9950 のメイン画面が表示されます。



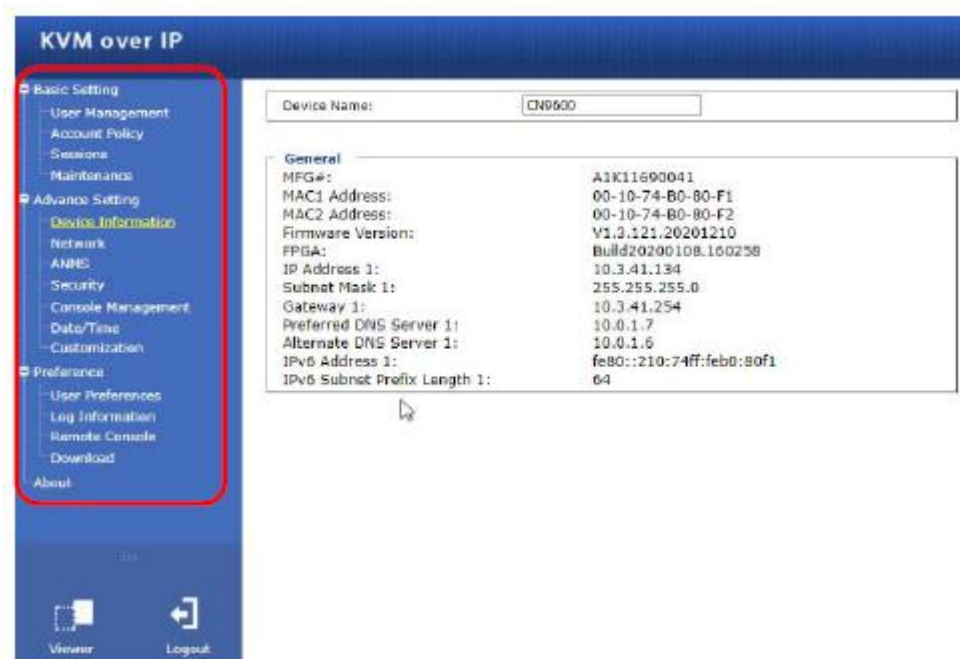
メイン画面は、ビューワーアイコン (Java または Win クライアントビューワーの起動用アイコン) がある左側パネルのユーザーメニューと、メニューの下部に表示されるログアウトアイコンから構成されています。

注意: ユーザーが操作権限を持っていない機能のメニューオプションは、表示されません。権限に関する詳細は p.46「ユーザー管理」を参照してください。

第4章 設定方法

はじめに

CN9000/CN9600/CN9950 の Web 画面の左パネルに位置するリンクとアイコンで構成される管理ユーティリティーは、デバイスの操作環境を設定する際に使用します。本章では、それぞれについて順に説明します。



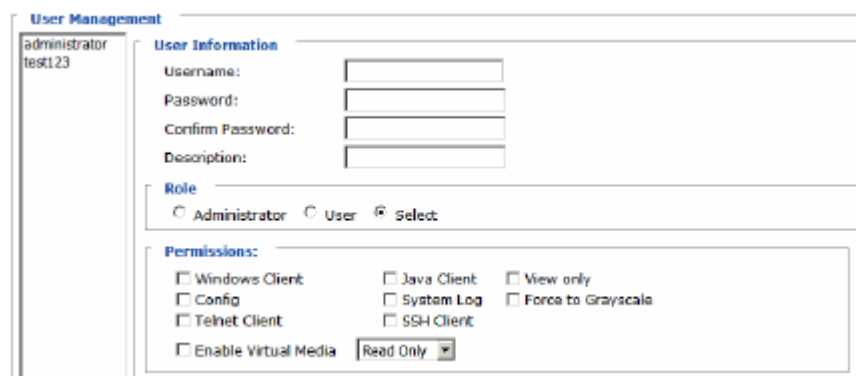
- 注意:**
1. 各ダイアログボックスで設定内容を変更する場合は、最後に「Save」(保存) ボタンをクリックして設定を適用してください。
 2. 設定内容によっては変更後に CN9000/CN9600/CN9950 をリセットして設定を適用する必要があります。変更を有効にするには、一旦ログアウトしてから再度ログインしてください。
 3. 設定権限がない場合、管理設定ダイアログはご利用いただけません(p.46「ユーザー管理」参照)。

基本設定

以下のセクションでは、基本設定の画面について説明します。左パネルメニューの「**User Management**」(ユーザー管理)、「**Account Policy**」(アカウントポリシー)、「**Sessions**」(セッション)、および「**Maintenance**」(メンテナンス)の各リンクをクリックすると、それぞれの画面を表示します。

ユーザー管理

「User Management」(ユーザー管理)画面では、CN9000/CN9600/CN9950 へのユーザーアカウントの追加、編集、削除や各アカウントの役割および操作権限を設定することができます。



ユーザー情報

- ◆ **Username** (ユーザーネーム) : これはアカウントのユーザーネームです。
- ◆ **Password / Confirm Password** (パスワード/パスワードの確認) : パスワードを変更する場合、新しいパスワードを入力し、確認用にその新しいパスワードを再入力してください。
- ◆ **Description** (説明) : アカウントを説明する語句を入力してください。

ロール

ここで、管理者はアカウントにどの操作権限を許可するかを選択することができます。

- ◆ **Administrator** (アドミニストレーター) : ユーザーに管理者レベルのアクセス権を付与します。「View Only」(参照のみ) および「Force to Grayscale」(強制的にグレースケールにする) 以外のすべての権限が付与されます(操作権限は下記参照)。
- ◆ **User** (ユーザー) : ユーザーレベルのアクセス権を付与します。Windows クライアントおよび Java クライアントの権限が付与されます(操作権限は下記参照)。
- ◆ **Select** (選択) : 「Permissions」(許可) セクションから操作権限を選択して、アクセス権を個別に選択することができます。

許可

CN9000/CN9600/CN9950 の操作を許可/不許可にするには、その項目のチェックボックスをクリックして、選択/選択解除してください。

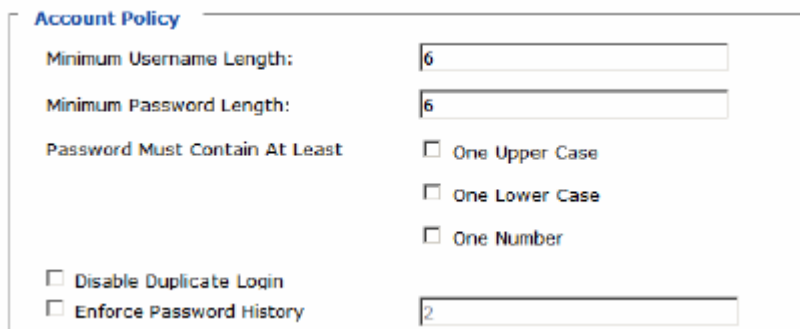
- ◆ **Windows Client** (Windows クライアント) :これにチェックを入れると、ユーザーは Windows クライアントソフトウェアを介して CN9000/CN9600/CN9950 にアクセスすることができます。
- ◆ **Config** (設定) :これにチェックを入れると、ユーザーは CN9000/CN9600/CN9950 の操作環境の設定や変更を行うことができます。
- ◆ **Telnet Client** (Telnet クライアント) :これにチェックを入れると、ユーザーは同じ名前のネットワークプロトコルを介して CN9000/CN9600/CN9950 にアクセスできます。
- ◆ **Enable Virtual Media** (バーチャルメディアを有効にする) :これにチェックを入れると、ユーザーは CN9000/CN9600/CN9950 のバーチャルメディア機能を使用することができます(詳細は p.119「バーチャルメディア」参照)。ドロップダウンメニューを使用して、ユーザーに「**Read/Write**」(読み/書き)または「**Read Only**」(読取専用)のどちらの権限を与えるかを選択してください。
- ◆ **Java Client** (Java クライアント) :これにチェックを入れると、ユーザーは Java クライアントソフトウェアを介して CN9000/CN9600/CN9950 にアクセスすることができます。
- ◆ **System Log** (システムログ) :これにチェックを入れると、ユーザーはログファイルの内容を参照することができます。
- ◆ **SSH Client** (SSH クライアント) :これにチェックを入れると、ユーザーは SSH セッションを介して CN9000/CN9600/CN9950 にアクセスすることができます。
- ◆ **View Only** (参照のみ) :これにチェックを入れると、ユーザーはユーザーはキーボードとマウスを操作できなくなります。
- ◆ **Force to Grayscale** (強制的にグレースケールにする) :これにチェックを入れると、リモート画面がグレースケールでレンダリングされます。これによって、バンド幅が低い状況において I/O 伝送速度を上げることができます。

許可項目を変更したら、CN9000/CN9600/CN9950 に適用するアクションをクリックしてください。

- ◆ **Reset** (リセット) - クリックすると、入力欄を消去します。
- ◆ **Add** (追加) - クリックすると、CN9000/CN9600/CN9950 に新規アカウントを追加します。
- ◆ **Update** (更新) - クリックすると、既存アカウントの設定を更新します。
- ◆ **Remove** (削除) - クリックすると、選択したアカウントを削除します。

アカウントポリシー

ユーザーネームとパスワードのパラメーターを設定します。



The screenshot shows a window titled "Account Policy". It contains several configuration options:

- Minimum Username Length: 6
- Minimum Password Length: 6
- Password Must Contain At Least:
 - ☐ One Upper Case
 - ☐ One Lower Case
 - ☐ One Number
- ☐ Disable Duplicate Login
- ☐ Enforce Password History: 2

- ◆ Minimum Username Length(ユーザーネーム最小文字数) : ユーザーネームの設定に最低限入力が必要な文字数(0～20)を設定します(デフォルトは 6)。
- ◆ Minimum Password Length(パスワード最小文字数) : パスワードの設定に最低限入力が必要な文字数(0～20)を設定します(デフォルトは 6)。
- ◆ Password Must Contain At Least(パスワードには以下が必須です) : これらの項目にチェックを入れると、パスワードに含めなければならない文字の条件を追加することができます。
 - One Upper Case(大文字 1 文字) - 半角英字の大文字を 1 文字以上入力
 - One Lower Case(小文字 1 文字) - 半角英字の小文字を 1 文字以上入力
 - One Number(数字 1 文字) - 半角数字を 1 文字以上入力

注意: このポリシーは、ポリシーの有効後に作成されたユーザーアカウントと、既存のユーザーアカウントに対するパスワードの変更にのみ影響します。

- ◆ Disable Duplicate Login(二重ログインを無効にする) - 同一アカウントによる二重ログインを許可しない場合は、この項目にチェックを入れてください。これにより、ユーザーが同じアカウントで同時にログインできなくなります。
- ◆ パスワードの再作成が要求されたときにユーザーが同じパスワードを使用できないようにするには、「Enforce Password History」(パスワード履歴を強制する)の項目にチェックを入れてください。テキストボックスには、以前のパスワードを再度使用するために必要となるパスワードの変更回数を入力してください。

セッション

「Session」(セッション)画面において、アドミニストレーターは、現在 CN9000/CN9600/CN9950 にログインしている全ユーザーを確認することができます。また、ここでは各セッション情報も提供されています。

Username	IP	Login Time	Client	Category	Devices	Ports
administrator	10.3.41.102	2013/03/21 02:51:12	Browser	Administrator	None	

各項目の詳細は下表のとおりです。

- ◆ 「Username」(ユーザーネーム)列には、ログインしているユーザー名が表示されます。
- ◆ 「IP」列には、ログインしているユーザーの IP アドレスが表示されます。
- ◆ 「Client」(クライアント)列には、ユーザーが CN9000/CN9600/CN9950 への接続に用いた手段(ブラウザー、Win クライアント AP、Java クライアント AP など)が表示されます。
- ◆ 「Category」(カテゴリ)列には、ログインユーザーのユーザータイプ(「Admin」(アドミニストレーター)、「User」(ユーザー)、「Select」(選択))が表示されます(ユーザータイプの詳細は p.92「ダウンロード」を参照)。

この画面では、アドミニストレーターが選択したユーザーを強制的にログアウトさせることもできます。これを実行するには、対象となるユーザーを選択し、「**End Session**」(セッション終了)ボタンをクリックしてください。

画面を更新するには、「**Refresh**」(再読込)をクリックしてください。

メンテナンス

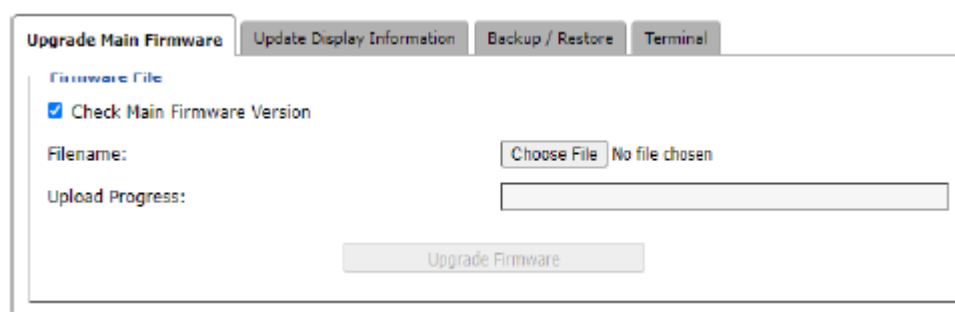
「Maintenance」(メンテナンス)画面において、アドミニストレーターは、CN9000/CN9600/CN9950のファームウェアアップグレード、本体における設定内容のバックアップ/リストア、ターミナルを使用したユニットの設定を行うことができます。

メインファームウェアのアップグレード

CN9000/CN9600/CN9950 の新しいファームウェアがリリースされると、弊社ダウンロードサイトに公開されます。弊社 Web サイト(<http://www.aten.com/jp/ja/>)にて、最新のファームウェアや関連情報を定期的にご確認ください。

ファームウェアをアップグレードする場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. 弊社 Web サイトから本製品の新しいファームウェアファイルをダウンロードし、お使いのコンピューターのハードディスクの適当な場所に保存してください。ダウンロードは、1) 製品ページ内の「サポートとダウンロード」メニューからアクセス、または、2) ホームページのトップページの右上に表示される(表示画面のサイズによっては画面左上に三本線のアイコンが表示されるので、それをクリックすると表示される)「サポートとダウンロード」→「ダウンロード」→「他の製品の資料をダウンロードする」に型番を入力して検索する方法で行えます。
2. ブラウザーを開いて CN9000/CN9600/CN9950 にログインし、左パネルにある「Maintenance」(メンテナンス)メニューをクリックして、下図のように「ファームウェアファイル」ダイアログボックスを表示してください。



3. 「Browse」(参照) ボタンをクリックして、新しいファームウェアが保存されているフォルダーに移動し、ファームウェアファイルを選択してください。
4. 「Upgrade Firmware」(ファームウェアのアップグレード) ボタンをクリックしてください。
「Check Firmware Version」(本体のファームウェアバージョンの確認)の項目にチェックが入っている場合、アップグレードの実行時に現在インストールされているファームウェアファイルと、

この画面で指定したファームウェアファイルの間でバージョンの比較を行います。現在インストールされているバージョンの方が新しい場合、処理を中止するという内容のメッセージがダイアログに表示されます。

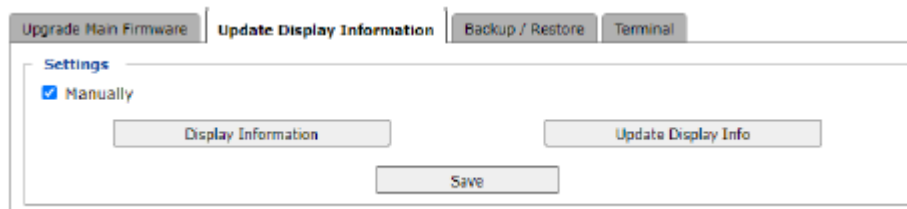
注意： 古いファームウェアをインストールする場合は、「Upgrade Firmware」(ファームウェアのアップグレード) ボタンをクリックする前に「Check Firmware Version」(本体のファームウェアバージョンの確認) の項目からチェックを外してください。

5. アップロードが完了すると、システムアップグレードの進捗状況を示すメッセージが画面に表示されます。
6. システムのアップグレードが完了すると、現在のユーザーは自動的にログアウトされ、システムがすぐに再起動することをユーザーに通知します。

注意： 再ログインする場合は、しばらく経ってから操作を行ってください。

ディスプレイ情報の更新

「Update Display Information」(ディスプレイ情報の更新) 画面には、使用されているビデオディスプレイおよびモニターに関する情報が表示されます。また、ユーザーはこの画面からビデオ解像度を変更することもできます。



- ◆ **Display Information (ディスプレイ情報) :** クリックすると、ビデオディスプレイに関する情報が表示されます。
- ◆ **Update Display Info (ディスプレイ情報の更新) :** クリックすると、ビデオディスプレイの解像度を変更することができます。
- ◆ **Save (保存) :** クリックすると、変更が適用されます。

バックアップ/リストア

「Backup/Restore」(バックアップ/リストア)画面では、CN9000/CN9600/CN9950 の設定とユーザープロフィール情報のバックアップを作成することができます。バックアップされたユーザーアカウントと設定情報は「Restore」(リストア)セクションに保存されます。リストアを実行すると、CN9000/CN9600/CN9950 で現在設定されている情報は復元した情報に置き換わります。

The screenshot shows the 'Backup / Restore' tab in a web interface. The 'Backup' section has a 'Password:' input field and a 'Backup' button. The 'Restore' section has a 'Filename:' input field with a 'Browse...' button, a 'Password:' input field, and three radio buttons: 'Select All' (selected), 'User Account', and 'User Select'. Below these is an 'Options' section with two columns of checkboxes: Device Information, ANMS, ODBC, Customization, Network, Security, Date/Time, and Account. All checkboxes are checked. A 'Restore' button is at the bottom of the 'Restore' section.

バックアップを作成する場合は、以下の手順に従って操作を行ってください。

1. (オプション)「Password」(パスワード)の項目に、ファイルのパスワードを入力してください。
注意: パスワードを設定する場合、ファイルの復元の際にこのパスワードが必要になりますので、忘れないように記録しておいてください。
2. 「Backup」(バックアップ)をクリックしてください。
3. ブラウザーからファイルの操作が要求された場合は、「Save」(保存)を選択し、お使いのコンピュータのドライブの適当な場所に保存してください。
注意: CN9000/CN9600/CN9950 は「sysconfig.cfg」という名前で作成されたバックアップファイルを作成します。複数のファイルにバックアップを行いたい場合は、保存する際に別名をつけて保存してください。

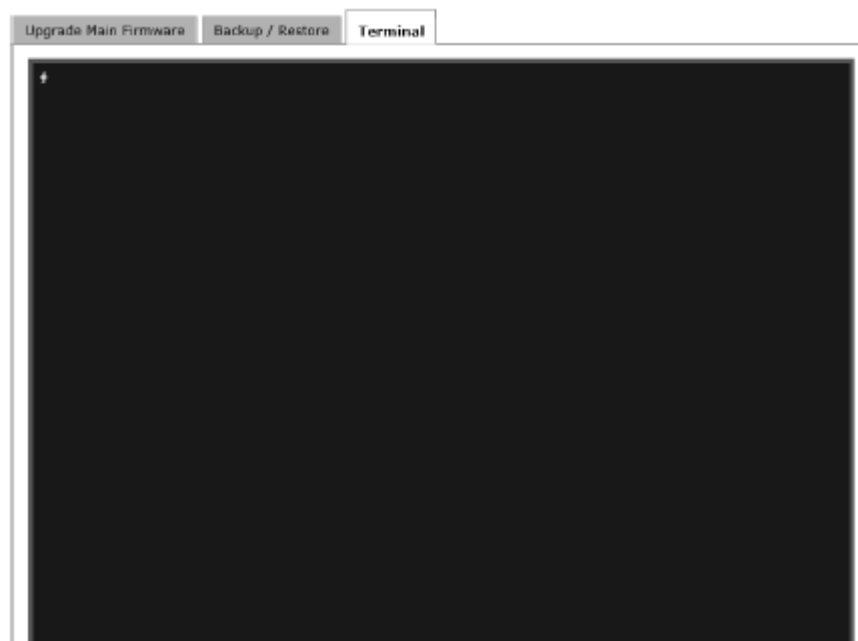
過去にバックアップした情報をリストアする場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. バックアップを作成時にパスワードが設定されていた場合は、このパスワードと同じ文字列を「Password」(パスワード)欄に入力してください。パスワードが設定されていない場合は、空白のままで構いません。
2. 「**Browse**」(参照)ボタンをクリックして、ファイルを選択してください。
3. 復元したいバックアップの内容を選択してください。
 - ◆ すべての設定情報を復元する場合は、「Select All」(すべて選択)を選択してください。
 - ◆ ユーザーアカウント情報のみを復元する場合は、「User Account」(ユーザーアカウント)を選択してください。
 - ◆ バックアップファイルに保存された内容のうち、復元する対象となる部分を個別に選択したい場合は、「User Select」(ユーザー選択)を選択し、対象項目をチェック/チェック解除してください。
4. 項目を選択したら、「**Restore**」(リストア)ボタンをクリックしてください。

ファイルがリストアされると、処理に成功したという内容のメッセージが表示されます。

ターミナル

「Terminal」(ターミナル)セクションでは、ターミナルコマンドを使用してユニットを設定することができます。



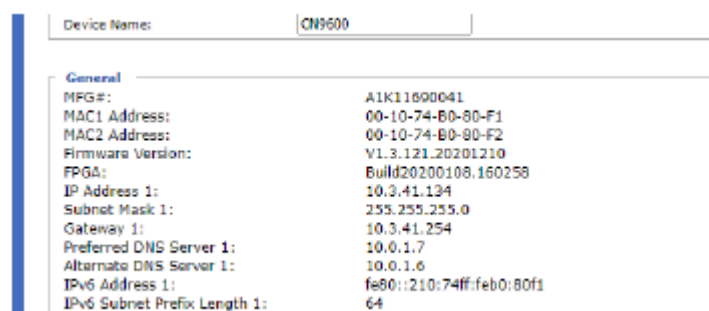
help と入力すると、設定可能なコマンドの一覧が確認できます。

詳細設定

以下のセクションでは、「**Device Information**」(デバイス情報)、「**Network**」(ネットワーク)、「**ANMS**」、「**Security**」(セキュリティ)、「**Console Management**」(コンソール管理)、「**Date/Time**」(日付/時刻)、「**Customization**」(カスタマイズ)の各画面を含む、「Advanced Setting」(詳細設定)の管理者用ユーティリティについて説明します。

デバイス情報

「Device Information」(デバイス情報)画面には、CN9000/CN9600/CN9950 のステータスに関する情報が表示されます。この画面ではデバイス名を変更することができます。



The screenshot shows the 'Device Information' screen. At the top, there is a 'Device Name' field with the value 'CN9600'. Below this is a 'General' section containing the following information:

MFG#:	A1K11690041
MAC1 Address:	00-10-74-B0-80-F1
MAC2 Address:	00-10-74-B0-80-F2
Firmware Version:	V1.3.121.20201210
FPGA:	Build20200108.160258
IP Address 1:	10.3.41.134
Subnet Mask 1:	255.255.255.0
Gateway 1:	10.3.41.254
Preferred DNS Server 1:	10.0.1.7
Alternate DNS Server 1:	10.0.1.6
IPv6 Address 1:	fe80::210:74ff:feb0:80f1
IPv6 Subnet Prefix Length 1:	64

全般

- ◆ **Device Name** (デバイス名): 複数の CN9000/CN9600/CN9950 を導入している場合、システムの管理を容易にするため、個々のユニットに名前を付けることができます。この欄に名前(半角英数字最大 16 文字)を入力したら「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。
- ◆ **MAC (1,2) Address** (MAC (1,2) アドレス): ここには CN9000/CN9600/CN9950 の MAC アドレスが表示されます。
- ◆ **Firmware Version / FPGA** (ファームウェアバージョン/FPGA): CN9000/CN9600/CN9950 の現在のファームウェアバージョンおよびビルドが実行された日付が表示されます。CN9000/CN9600/CN9950 の新しいバージョンのファームウェアは、使用可能になると、弊社 Web サイトからダウンロードできるようになります (p.50「メインファームウェアのアップグレード」参照)。この番号を参照すると、Web サイトで使用可能な新しいバージョンがあるかどうかを確認することができます。
- ◆ **IP Address** (IP アドレス): CN9000/CN9600/CN9950 の IPv4 (32 ビット) アドレス(レガシーフォーマット)を表示します。
- ◆ **Subnet Mask** (サブネットマスク): IP 接続用のサブネットマスクです。

- ◆ **Gateway**(ゲートウェイ) :CN9000/CN9600/CN9950 のゲートウェイアドレスです。
- ◆ **IPv6 Address / IPv6 Subnet Prefix Length**(IPv6 アドレス/IPv6 サブネットプレフィックス長) : CN9000/CN9600/CN9950 の IPv6(128 ビット)アドレス(新フォーマット)を表示します。詳細は p.156「IPv6」を参照してください。

ネットワーク

「Network」(ネットワーク)画面は、CN9000/CN9600/CN9950 のネットワーク環境を設定するのに使用します。

IP Installer
☐ Enabled
☒ View Only
☐ Disabled

Service Ports

Program:	9000
HTTP:	80
HTTPS:	443
SSH:	22
Telnet:	23

☒ Redundant NIC

1000M Network Adapter 1

IPv4 Settings

IP Address:
☐ Obtain IP address automatically [DHCP]
☒ Set IP address manually [Fixed IP]

IP Address:	172.17.17.21
Subnet Mask:	255.255.255.0
Default Gateway:	172.17.17.254

DNS Server:
☐ Obtain DNS server address automatically
☒ Set DNS server address manually

Preferred DNS server:	10.0.1.6
Alternate DNS server:	10.0.1.7

IPv6 Settings

IP Address:

☒ Obtain IPv6 address automatically [DHCP]

☐ Set IPv6 address manually [Fixed IP]

IPv6 Address:

Subnet Prefix Length:

Default Gateway:

DNS Server:

☒ Obtain DNS server address automatically

☐ Set DNS server address manually

Preferred DNS server:

Alternate DNS server:

Network Transfer Rate:

KBps

DDNS

☐ Enable

Host Name:

DDNS:

Username:

Password:

DDNS Retry Time:

hour

IP インストーラー

IP インストーラーは、CN9000/CN9600/CN9950 に外部から IP アドレスを設定することのできる、Windows 用ソフトウェアです。IP インストーラーの用途に応じて、「Enabled」(有効にする)、「View Only」(参照のみ)、「Disabled」(無効にする)のいずれかのラジオボタンをクリックしてください。IP インストーラーの詳細は p.153 を参照してください。

-
- 注意:**
1. 「View Only」(参照のみ)を選択した場合、CN9000/CN9600/CN9950 は IP インストーラーのデバイスリストで確認することができますが、この IP インストーラーから IP アドレスを変更することはできません。
 2. セキュリティ上の理由から、IP インストーラーの使用後には、この項目を「View Only」(参照のみ)または「Disabled」(無効にする)に設定することを強く推奨します。
-

サービスポート

CN9000/CN9600/CN9950 が各種ネットワークサービスで使用するポートを指定してください。

- ◆ **Program**(プログラム): Windows クライアントや Java アプレットビューワー、Windows/Java クライアント AP プログラムから CN9000/CN9600/CN9950 に接続する際に使用するポート番号です。デフォルトでは 9000 に設定されています。
- ◆ **HTTP**: ブラウザーによるログインで使用するポート番号です。デフォルトでは 80 に設定されています。
- ◆ **HTTPS**: セキュリティで保護されたブラウザーによるログインで使用するポート番号です。デフォルトでは 443 に設定されています。
- ◆ **SSH**: セキュアシェルログインで使用するポートです。デフォルトでは 22 に設定されています。
- ◆ **Telnet**: セキュアなコンソールログインでのアクセスに使用するポートです。デフォルトでは 23 に設定されています。

-
- 注意:**
1. 各サービスポートで有効な値は 1~65535 です。
 2. これらのポートはそれぞれ固有のポートを割り当て、項目間で値が重複しないように設定してください。
 3. ファイアーウォールが設置されている環境では、ネットワーク管理者とご相談の上、設定してください。
-

ファイアーウォールが使用されている場合、管理者はファイアーウォールの設定で許可されたポート番号を製品側でも設定する必要があります。デフォルト以外のポートが設定されている場合、ユーザーはログイン時に IP アドレスの一部としてポート番号を指定する必要があります。ポート番号が指定されていない場合や無効なポート番号が指定されている場合、あるいはポート番号が存在しない場合は、CN9000/CN9600/CN9950 を検索しても表示されません。

冗長 NIC

冗長 NIC は、プライマリー接続に障害が発生した場合に別のネットワークアダプターに切り替えることで、CN9000/CN9600/CN9950 が常にオンラインになるようにします。

- ◆ 2 番目の IP アドレスにセカンダリー LAN ポートを使用する場合は、「Redundant NIC」(冗長 NIC) にチェックを入れてください。
- ◆ 2 番目の IP アドレスにセカンダリー LAN ポートを使用する場合は、「Redundant NIC」(冗長 NIC) にチェックを入れないでください。この場合は、ドロップダウンメニューを使用して、「1000M Network Adapter 2」(1000M ネットワークアダプター2)を選択してから、その IP と DNS アドレスを設定してください。

IPv4 設定

CN9000/CN9600/CN9950 には、起動時に動的に割り当てられる IP アドレス(DHCP)、または固定 IP アドレスを割り当てることができます。

- ◆ IP アドレスを動的に割り当てる場合は、「**Obtain an IP address automatically**」(IP アドレスを自動的に取得する)ラジオボタンを選択します(デフォルト設定です)。
- ◆ 固定 IP アドレスを設定する場合は、「**Set IP address manually**」(IP アドレスを手動で設定する)のラジオボタンを選択し、IP アドレスを入力してください。

注意:

1. 「**Obtain an IP address automatically**」(IP アドレスを自動的に取得する)の項目を選択し、DHCP を使って製品の IP アドレスを自動的に取得する場合、製品は起動後に DHCP サーバーからの IP アドレスの割り当てを待機します。1 分経過しても IP アドレスが割り当てられない場合は、工場出荷時にデフォルトで設定された IP アドレス (192.168.0.60)に自動的に戻ります。
2. CN9000/CN9600/CN9950 が DHCP を使用してネットワークアドレスを割り当てるネットワーク上にあり、その IP アドレスを確認する必要がある場合は、IP インストーラーを使用できます。詳細については p.153「IP アドレスの設定」を参照してください。

CN9000/CN9600/CN9950 は、DNS サーバーアドレスを自動的に割り当てるか、または固定アドレスを指定することができます。

- ◆ DNS サーバーのアドレスを自動的に割り当てる場合は、「**Obtain DNS server address automatically**」(DNS サーバーアドレスを自動的に取得する)のラジオボタンを選択してください。

- ◆ DNS サーバーの固定アドレスを指定する場合は、「**Use the following DNS server address**」(以下の DNS サーバーアドレスを使用する)のラジオボタンを選択し、必要な情報を入力してください。

注意: 代替 DNS サーバーのアドレスは任意で設定してください。

IPv6 設定

CN9000/CN9600/CN9950 には、ブート時に動的 IPv6 アドレスを割り当てたり(DHCP)、固定 IPv6 アドレスを指定したりすることができます。

- ◆ 動的 IPv6 アドレスを割り当てる場合は、「**Obtain an IPv6 address automatically**」(IPv6 アドレスを自動的に取得する)のラジオボタンを選択してください(デフォルト設定です)。
- ◆ 固定 IP アドレスを設定する場合は、「**Set IPv6 address manually**」(IPv6 アドレスを手動で設定する)のラジオボタンを選択し、IP アドレスを入力してください。

CN9000/CN9600/CN9950 には DNS サーバーのアドレスを自動で割り当てすることも、手動で固定アドレスを設定することも可能です。

- ◆ DNS サーバーのアドレスを自動的に割り当てる場合は、「**Obtain DNS server address automatically**」(DNS サーバーアドレスの自動取得)のラジオボタンを選択してください。
- ◆ DNS サーバーの固定アドレスを指定する場合は、「**Use the following DNS server address**」(以下の DNS サーバーアドレスを使用する)のラジオボタンを選択し、必要な情報を入力してください。

注意: 代替 DNS サーバーのアドレスは任意で設定してください。

ネットワーク転送速度

この項目では、リモートコンピューターに対する CN9000/CN9600/CN9950 のデータ転送速度を設定することによって、ネットワークのトラフィック条件に合わせてデータ転送ストリーミングのサイズを調節することができます。指定できる値の範囲は 4～99999 キロバイト/秒(KBps)です。

DDNS

DDNS は、DHCP サーバーによって割り当てられた動的 IP アドレスをホスト名にマッピングします。CN9000/CN9600/CN9950 は、特定の時間間隔で DDNS サーバーの IP アドレスを更新することができます。CN9000/CN9600/CN9950 の DDNS 機能を有効にするには、下記の手順で操作を行ってください。

1. 「**Enable**」(有効にする)の項目にチェックを入れてください。
2. DDNS サービスプロバイダーに登録したホスト名を入力してください。

3. リストをドロップダウンして、登録する DDNS サービスを選択してください。
4. DDNS サービスの認証に使うユーザーネームとパスワードを入力してください。
5. 「DDNS Retry Time」(DDNS 再試行回数) 欄に DDNS サーバーを更新するまで CN9000/CN9600/CN9950 が待機する時間を入力してください。

注意: ネットワークの設定を変更したら CN9000/CN9600/CN9950 を再起動してください。

ANMS

「ANMS」(Advanced Network Management Settings)画面では外部システムからのログイン認証および権限管理に関するセットアップを行います。これは複数のセクションに分かれており、各内容については、後続のセクションで説明します。

イベントの宛先

このセクションでは、SMTP、ログサーバー、SNMPトラップ、および Syslog サーバーの設定を行います。

Event Destination **Authentication**

SMTP Settings
☐ Enable report from the following SMTP Server
SMTP Server:
Service Port:
☐ My server requires secure connection (SSL)
☐ My server requires authentication
Account Name:
Password:
From:
To:
☐ Report IP Address
☐ Report system reboot
☐ Report user login
☐ Report user logout

Log Server
☐ Enable
MAC Address:
Service Port:

SNMP Trap
☐ Enable
Server IP:
Service Port:

Syslog Server
☐ Enable
Server IP:
Service Port:

■SMTP 設定

SMTP サーバーから CN9000/CN9600/CN9950 のレポートをユーザーにメール通知する場合は、以下の手順に従って操作を行ってください。

1. 「**Enable report from the following SMTP server**」(以下の SMTP サーバーからの通知を有効にする)の項目にチェックを入れ、お使いの SMTP サーバーの IP アドレスおよびサービスポートを入力してください。
2. お使いの SMTP サーバーに SSL 接続が必要な場合は、「**My server requires secure connection (SSL)**」(サーバーはセキュアな接続(SSL)が必要)の項目にチェックを入れてください。
3. サーバーで認証が必要な場合は、「**My server requires authentication**」(サーバー認証が必要)の項目にチェックを入れて、「**Account Name**」(アカウント名)と「**Password**」(パスワード)の各欄にお使いの環境に適した値を設定してください。
4. レポートの差出人となるメールアドレスを「**From**」欄に入力してください。

注意: 「From」欄に設定できるメールアドレスは 1 つだけです。また、アドレスは半角英字 64 文字以内で設定してください。

5. SMTP レポートの宛先となるメールアドレスを「**To**」欄に入力してください。

注意: 複数の宛先にレポートを配信する場合は、アドレスをセミコロンで区切ってください。また、アドレス全体で半角英字 256 文字以内になるように設定してください。

6. レポートに含める情報にチェックマークを入れてください。
 - ◆ Report IP Address (IP アドレスを報告)
 - ◆ Report system reboot (システム再起動を報告)
 - ◆ Report user login (ユーザーログインを報告)
 - ◆ Report user logout (ユーザーログアウトを報告)

■ログサーバー

CN9000/CN9600/CN9950 で発生した重要な操作(ログインや内部ステータスメッセージなど)は、自動生成されたログファイルとしてログサーバーに保持されます。ログサーバーのセットアップの詳細については、第 9 章「ログサーバー」を参照してください。ログファイルについては、p.144 で説明します。

ログサーバー機能を有効にする場合は「**Enable**」(有効)にチェックを入れ、ログサーバーを実行するコンピューターの **MAC アドレス**と**サービスポート**を指定してください。

そうすると、ログサーバーはログの詳細をリッスンします。

注意: ポート番号の有効な値の範囲は 1~65535 です。デフォルトでは 9001 に設定されています。このポート番号は、プログラムポートで使用する番号とは異なるポートを指定してください(p.58「サービスポート」参照)。

■SNMPトラップ

SNMPトラップイベントを通知するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 「**Enable SNMP Agent**」(SNMP エージェントを有効にする)の項目にチェックを入れてください。
2. SNMPトラップイベントを通知するコンピューターのサーバーIPとサービスポートを入力してください。ポート番号の有効な値の範囲は 1~65535 です。また、デフォルトは 162 です。

注意: 送信の対象となる SNMPトラップのイベントは、システム電源投入とログイン失敗、およびシステムリセットです。

■Syslog サーバー

CN9000/CN9600/CN9950 で発生した全イベントを記録し、Syslog サーバーに書き込む場合は、下記の手順に従って設定を行ってください。

1. 「**Enable**」(有効にする)の項目にチェックを入れてください。
2. Syslog サーバーの IP アドレスとポート番号を入力してください。ポート番号の有効な値の範囲は 1~65535 です。また、デフォルトは 514 です。

認証

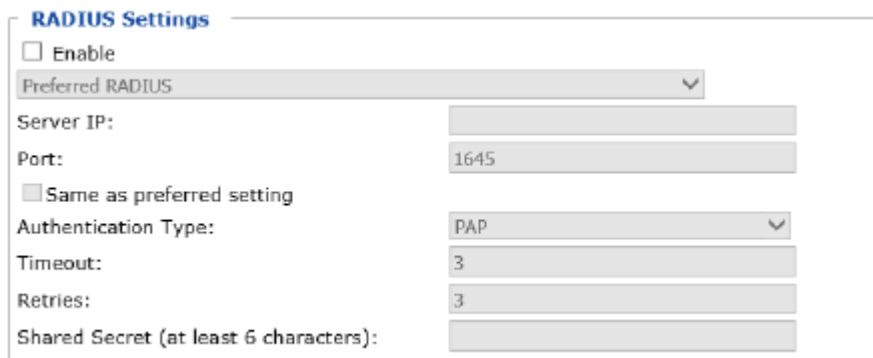
CN9000/CN9600/CN9950 では、外部プログラムによるログイン認証と権限設定が可能です。

この画面では、RADIUS、LDAP、および CC デバイス統合管理を設定できます。

CN9000/CN9600/CN9950 でデバイス認証を行う代わりに、RADIUS、LDAP、または CC デバイス統合管理で認証を行う場合は、「**Disable Device Authentication**」(デバイス認証を無効にする)にチェックを入れてください。このオプションを選択すると、CN9000/CN9600/CN9950 のローカルにおけるログイン認証を無効にします。

■ RADIUS 設定

RADIUS サーバー経由で CN9000/CN9600/CN9950 への認証と権限設定を行う場合は、以下の手順で操作してください。



The image shows a 'RADIUS Settings' configuration window. It contains the following fields and options:

- ☐ Enable
- Preferred RADIUS (dropdown menu)
- Server IP: (text input field)
- Port: (text input field with value 1645)
- ☐ Same as preferred setting
- Authentication Type: (dropdown menu with value PAP)
- Timeout: (text input field with value 3)
- Retries: (text input field with value 3)
- Shared Secret (at least 6 characters): (text input field)

1. 「**Enable**」(有効にする)の項目にチェックを入れてください。
2. ドロップダウンメニューをクリックして、優先 RADIUS と代替 RADIUS のどちらを使用するかを選択してください。
3. サーバーの **IP アドレス**と**ポート番号**を入力してください。
4. お使いの代替 RADIUS におけるタイプ、タイムアウト、再試行、シークレット文字列が優先設定と同じである場合は、「**Same as preferred setting**」(優先設定と同じ)の項目にチェックを入れてください。
5. 優先および代替 RADIUS サーバーの IP アドレスとポート番号を入力してください。
6. 「**Timeout**」(タイムアウト)の項目に、CN9000/CN9600/CN9950 が RADIUS サーバーからの応答を待機する最大時間(秒)を入力してください。
7. 「**Retries**」(再試行)の項目に、RADIUS サーバーを使ったログインの再試行可能回数を設定してください。
8. 「**Shared Secret**」(共有シークレット)の項目に、CN9000/CN9600/CN9950 と RADIUS サーバー間における認証で使用する共有シークレットの文字列を入力してください。

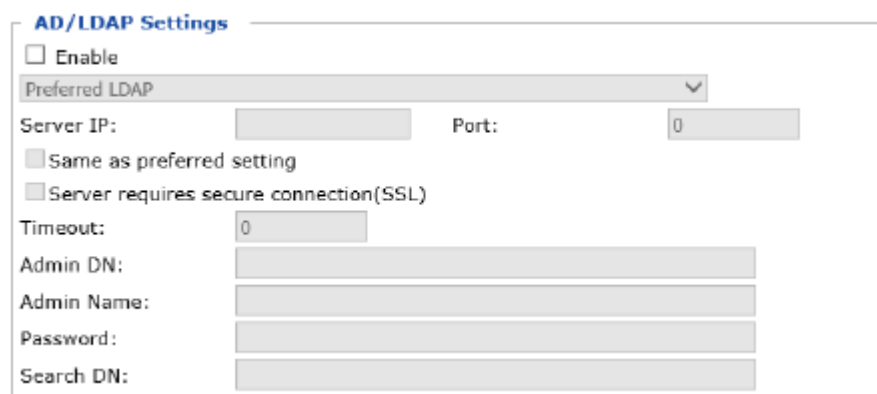
■LDAP 設定

LDAP や LDAPS 経由して認証や権限設定を行うには、CN9000/CN9600/CN9950 の拡張属性ネームである「iKVM50-userProfile」または「iKVM57-userProfile」が、「person」クラスに対するオプションの属性として追加されるよう、Active Directory の LDAP スキーマを拡張しなければなりません。

ユーザーは、ターミナル画面において **get** コマンドを実行することで、CN9000/CN9600/CN9950 の属性名を検索することができます (p.54 参照)。

LDAP サーバーを設定するには、以下の手順を完了する必要があります。

1. Windows サーバーサポートツールのインストール
2. Active Directory スキーマスナップインのインストール
3. Active Directory スキーマの拡張と更新



CN9000/CN9600/CN9950 の認証および権限設定を LDAP や LDAPS で行う場合は、下表の情報を参照してください。

項目	アクション
Enable (有効にする)	LDAP/LDAPS による認証および権限設定を行う場合は、この項目にチェックを入れてください。
Preferred / Alternate LDAP (優先/代替 LDAP)	ドロップダウンメニューをクリックして、優先 LDAP または代替 LDAP を選択してください。
Server IP (サーバーIP)	LDAP または LDAPS サーバーの IP アドレスとポート番号を入力してください。デフォルトのポート番号は、LDAP では 389、LDAPS では 636 にそれぞれ設定されています。
Port(ポート)	
Timeout(Seconds) (タイムアウト(秒))	CN9000/CN9600/CN9950 が LDAP または LDAPS サーバーからの応答を待機する時間(秒数)を設定してください。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Admin DN (アドミニストレーターDN)	この項目は LDAP または LDAPS サーバーの管理者にご確認の上、設定してください。以下、設定例です。 例: cn=LDAPAdmin,ou=CN9600,dc=aten,dc=com
Admin Name (アドミニストレーター名)	CN9000/CN9600/CN9950 管理者ユーザーのグループ名を入力してください。
Password(パスワード)	LDAP サーバー管理者のパスワードを入力してください。
Search DN(サーチ DN)	サーチベースの識別名 (DN)を設定してください。これはユーザーネームの検索開始位置となるドメイン名です。 「Enable Authorization」(認証を有効にする)の項目にチェックが入っていない場合、この項目に CN9000/CN9600/CN9950 の管理グループが作成された場所を表すエントリーを含める必要があります。設定する値については LDAP/LDAPS サーバー管理者までご相談ください。

- ◆ RADIUS および LDAP 設定には、次のキーワードを使用します。su/[ユーザーネーム]
 - ユーザーネームは、ローカルアカウントに存在する実際のユーザーアカウントを指定してください。
- ◆ CN9600 を使用している場合は「iKVM50-userProfile」を、CN9000/CN9950 を使用している場合は「iKVM57-userProfile」をそれぞれ LDAP 属性として使用し、su/[ユーザーネーム]をその属性値として使用してください。

■CC 管理の設定

CN9000/CN9600/CN9950 の認証を CC (コントロールセンター) サーバー経由で行う場合は、「Enable」(有効にする)の項目にチェックを入れて、CC サーバーの IP アドレスと、通信をリッスンするポート番号をそれぞれの項目に入力してください。

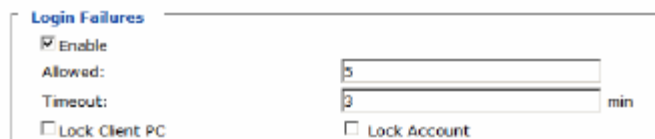
注意: 「authentication」(認証)とはログインユーザーの信頼性を判断することを、また、「authorization」(認可)とはユーザーに対してデバイスの各種機能の使用権限を定義することを、それぞれ指しています。

セキュリティ

「Security」(セキュリティ)画面では、CN9000/CN9600/CN9950 へのアクセスを制御し、ログインエラーポリシー、フィルター設定、暗号化設定、セキュリティレベル、作業モード、プライベート証明書、および証明書署名要求を、それぞれ設定することができます。

ログイン失敗

セキュリティを強化するために、「Login Failures」(ログイン失敗)のセクションではユーザーのログイン失敗を処理する際に適用されるポリシーを設定することができます。



各項目の意味は以下のとおりです。

- ◆ **Login Fail Policy** (ログイン失敗ポリシー) : CN9000/CN9600/CN9950 が適用するログイン失敗ポリシーを選択してください。

Lock Client PC (クライアントPCのロック) - この項目にチェックが入っていると、ログイン連続試行回数を超過してしまった場合に、ログインしようとするコンピューターが自動的に締め出され、ログインできなくなります。デフォルトではこの項目が無効になっています。この機能はクライアントコンピューターの IP アドレスに基づいて処理されています。IP アドレスが変更されると、そのコンピューターはロックされなくなります。

Lock Account (アカウントのロック) - この項目にチェックが入っていると、ログイン連続試行回数を超過してしまった場合に、そのアカウントは自動的に締め出され、失敗したユーザーネームとパスワードからのログインは拒否されてしまいます。デフォルトではこの項目が無効になっています。

- ◆ **Allowed** (許可) - リモートコンピューターからのログイン連続試行可能回数を設定します。デフォルトでは 5 回に設定されています。
- ◆ **Timeout** (タイムアウト) - ログイン連続試行回数を超過してしまった場合、次のログインを行うのに待機しなければならない時間 (分) を設定します。デフォルトでは 3 分に設定されています。

ます。

注意: この「Login Failures」(ログイン失敗)の項目を設定していないと、ユーザーは無制限で何度でもログインを試行することが可能になってしまいます。セキュリティ上の理由から、この機能を有効にし、ロックアウトポリシーを設定することを推奨します。

フィルター

IP および MAC フィルター機能は CN9000/CN9600/CN9950 への接続を試みるコンピュータの IP アドレスや MAC アドレスに基づいて、このユニットへのアクセスを制御するものです。フィルターは IP、MAC 各フィルターともそれぞれ最大で 100 項目作成することができます。フィルターの設定が行われると、IP フィルターは上部のリストボックスに、MAC フィルターは下部のリストボックスにそれぞれ表示されます。

The screenshot shows a 'Filter' configuration window. It has two main sections: 'IP Filter' and 'MAC Filter'. Each section includes a checkbox to 'Enable' the filter, radio buttons to select 'Include' or 'Exclude', a list box for entries, and 'Add', 'Modify', and 'Delete' buttons. The 'Login String' field is located between the two filter sections.

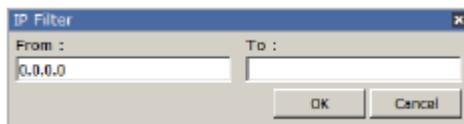
IP フィルター機能を有効にする場合は、「Enable IP Filter」(IP フィルターを有効にする)の項目に、MAC フィルター機能を有効にする場合は「Enable MAC Filter」(MAC フィルターを有効にする)の項目にそれぞれチェックを入れてください。

- ◆ 「Include」(含む)ボタンを選択すると、フィルター範囲内におけるすべてのアドレスからのアクセスは許可されますが、その他のアドレスはすべて拒否されます。
- ◆ 「Exclude」(除く)ボタンを選択すると、フィルター範囲内におけるすべてのアドレスからのアクセスが拒否されますが、その他ののアドレスはすべて許可されます。

■フィルター項目の追加

IP アドレスのフィルター項目は以下の手順で追加してください。

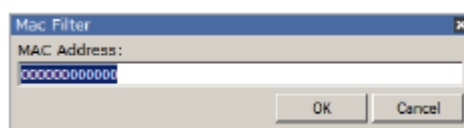
1. 「Add」(追加)ボタンをクリックし、フィルタリングの対象となる IP アドレスの範囲を入力したら「OK」をクリックしてください。



2. 他にもフィルター項目がある場合は、上記手順を繰り返して設定してください。

MAC アドレスのフィルター項目は下記の手順で追加してください。

1. 「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。そうすると、次のようなダイアログボックスが表示されます。



2. ダイアログボックスで MAC アドレスを入力したら、「OK」ボタンをクリックしてください。
3. フィルタリングする追加の MAC アドレスに対して、これらの手順を繰り返してください。

注意: あるコンピューターが IP アドレスによるフィルタリングではアクセスが許可されているにもかかわらず、MAC アドレスによるフィルタリングではアクセスが禁止されているといったように、フィルタリングの内容に競合が発生している場合、そのコンピューターからのアクセスはブロックされます。つまり、どちらかのフィルターがブロックされていると、設定内容にかかわらず、そのコンピューターからのアクセスがブロックされるということになります。

■フィルターの変更

フィルターを変更する場合は、対象となる項目をフィルターリストボックスから選択して、「Modify」(変更)ボタンをクリックしてください。そうすると、フィルター追加時に表示されるものと同様のダイアログボックスが表示されますので、古いアドレスを削除して新しいアドレスに変更してください。

■フィルターの削除

フィルターを削除する場合は、対象となる項目をフィルターリストボックスから選択して、「Delete」(削除)ボタンをクリックしてください。

また、フィルターセクションでは、管理者がブラウザでCN9000/CN9600/CN9950にアクセスする際に(IP アドレスに加えて)ユーザーが含まれる必要があるログイン文字列を指定することもできます。次に例を示します。

192.168.0.126/CN9600

◆ 以下の文字は使用可能です。

- 0～9、a～z、A～Z および次の記号
~!@ \$ ^ & * () _ + ' - = [] { } ; ' < > , . |

◆ 以下の文字は使用できません。

- 次の記号
% ” : / ? # ¥
- 半角スペース
- 複合文字(É Ç ñ など)

注意: 1. IP アドレスと文字列の間にはスラッシュが必要です。
2. この文字列を設定していないと、誰でも IP アドレスだけで簡単に CN9000/CN9600/CN9950 ログインページにアクセスできてしまいます。これにより、お使いのシステムの安全性が低下することになります。

セキュリティ上の理由から、この文字列を定期的に変更することを推奨します。

暗号化

本製品では、キーボード/マウス、ビデオ、バーチャルメディアデータの各信号を柔軟に暗号化できるオプションを提供しており、いずれの信号もそれぞれ DES、3DES、AES、RC4、ランダムを自由に組み合わせて設定することができます。



The screenshot shows a window titled "Encryption" with three sections: "Keyboard/Mouse", "Video", and "Virtual Media". Each section contains five checkboxes for different encryption methods: DES, 3DES, AES, RC4, and Random. All checkboxes are currently unchecked.

Category	DES	3DES	AES	RC4	Random
Keyboard/Mouse	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Video	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Virtual Media	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

暗号化を有効にするとシステムのパフォーマンスに影響を及ぼします。システムは暗号化が設定されていない場合に最も高いパフォーマンスを提供しますが、暗号化を強化すればするほど、パフォーマンスは低下します。暗号化を有効にする場合は、パフォーマンスに与える影響を一読の上、お使いの環境に最適な設定を行ってください。注意点は下記のとおりです。

- ◆ パフォーマンスに与える影響が最も少ない暗号化は RC4 で、その後は DES、3DES、または AES の順に影響が大きくなります。
- ◆ 複数の暗号化を組み合わせて使う場合、最もシステムに与える影響が小さい組み合わせは RC4 と DES です。

セキュリティレベル

セキュリティを強化するために、「High」(高)、「Medium-high」(中高)、「Medium」(中)または「Custom」(カスタム)のラジオボタンを選択してください。

1. High(高) – SSHv2、HTTPS(TLS v1.2)を除く、すべてのサービスを無効にします。
2. Medium-high(中高) – SSHv2、HTTP から HTTPS へのリダイレクト、HTTPS(TLS v1.2)、ICMP を有効にします。
3. Medium(SSHv2 を有効にし、HTTP を HTTPS、HTTPS(TLS v1.0、1.1、1.2)、ICMP にリダイレクトします)(デフォルト)
4. Custom(カスタム) : 次のセキュリティオプションから、適用したいものをクリックしてチェックを入れてください。
 - ◆ Enable ICMP service (ICMP サービスを有効にする)
 - ◆ Enable Telnet service (Telnet サービスを有効にする)
 - ◆ Enable SSH session (SSH セッションを有効にする)
 - ◆ Enable HTTP session (HTTP セッションを有効にする)
 - ◆ Enable HTTPS session (HTTPS セッションを有効にする)
(「TLS 1.2」、「TLS 1.0、1.1、1.2」のいずれかから選択)

動作モード

このセクションでは動作モードのパラメーターを設定します。



Working Mode

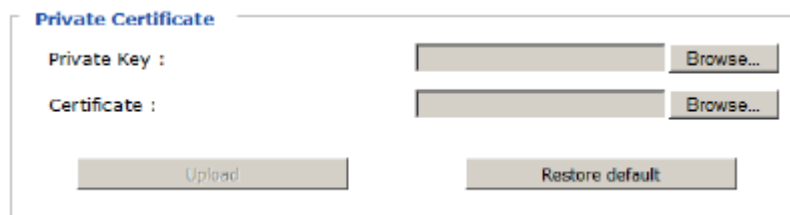
- ☐ Enable FIPS
- ☒ Enable Multiuser Operation
- ☒ Enable Virtual Media Write
- ☐ Disable Authentication

- ◆ 「**Enable FIPS**」(FIPS を有効にする)にチェックを入れると、FIPS 140-2 Level 1 セキュリティ標準を有効にします。デフォルトでは**無効**に設定されています。
- ◆ 「**Enable Multiuser Operation**」(マルチユーザーオペレーションを有効にする)にチェックを入れると、複数のユーザーが同一の CN9000/CN9600/CN9950 にログインできるようになります。デフォルトでは**有効**に設定されています。
- ◆ 「**Enable Virtual Media Write**」(バーチャルメディア書き込みを有効にする)にチェックを入れると、ユーザーシステムのリダイレクトされたバーチャルメディアデバイスから、リモートサーバーにデータを送信できるだけでなく、リモートサーバーからデータを書き込むこともできます。デフォルトでは**有効**に設定されています。
- ◆ 「**Disable Authentication**」(認証を無効にする)にチェックを入れると、ユーザーのログイン認証を行いません。ユーザーは、ユーザーネームとパスワードを入力するだけで、アドミニストレーターとしてアクセスすることができます。デフォルトでは**無効**に設定されています。

注意： この設定を有効にすることは、セキュリティ面において極めて危険な影響を及ぼすことがありますので、特別な環境以外では設定しないようにしてください。

プライベート証明書

SSL 接続でログインすると、ユーザーが意図するサイトにログインしようとしているかどうかを検証するために署名済み証明書が使われます。デフォルトの ATEN 証明書を使うのではなく、このセクションで自分のプライベート暗号キーと署名済み証明書を使うように設定することで、セキュリティを強化することができます。



Private Certificate

Private Key :

Certificate :

プライベート証明書を発行するには、自己署名された証明書を作成する方法と、サードパーティーの証明局(CA)によって署名された証明書をインポートする方法の2つの方法があります。

自己署名済証明書の作成

自己署名済証明書は、「openssl.org.」で公開されている「Win32 OpenSSL」などで作成できます。OpenSSLを使って独自のプライベートキーとSSL 証明書を作成する方法の詳細については、p.166「自己署名 (プライベート) 証明書」を参照してください。

CA 署名済 SSL サーバー証明書の取得

セキュリティを強化するために、サードパーティーの認証局 (CA) によって署名された証明書を使うことを推奨します。サードパーティーによって署名された証明書を取得する場合は、認証局の Web サイトにアクセスし、SSL 証明書を申請してください。CA から証明書が送られてきたら、お使いのコンピューターのハードディスクドライブの適当なフォルダーに保存してください。

プライベート証明書のインポート

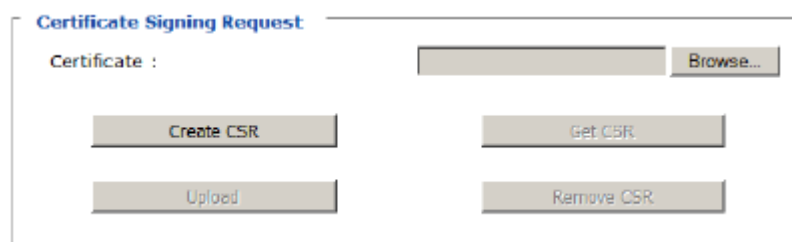
プライベート証明書をインポートする場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 「**Private Key**」(プライベートキー)の隣にある「**Browse**」(参照)ボタンをクリックして、プライベート暗号キーのファイルがあるフォルダーに移動し、このファイルを選択してください。
2. 「**Certificate**」(証明書)の隣にある「**Browse**」(参照)ボタンをクリックして、証明書のファイルがあるフォルダーに移動し、このファイルを選択してください。
3. 「**Upload**」(アップロード)ボタンをクリックして操作を完了してください。

注意: プライベート暗号キーと署名済証明書は同時にインポートしてください。

証明書署名要求

「Certificate Signing Request(CSR)」(CSR 証明書署名要求)セクションでは、CA 署名済 SSL サーバー証明書の取得とインストールを自動的に行います。

A screenshot of a 'Certificate Signing Request' dialog box. It has a title bar with the text 'Certificate Signing Request'. Inside, there is a label 'Certificate :' followed by a text input field and a 'Browse...' button. Below this, there are four buttons arranged in a 2x2 grid: 'Create CSR' (top-left), 'Get CSR' (top-right), 'Upload' (bottom-left), and 'Remove CSR' (bottom-right).

この操作を実行するには、次の手順に従ってください。

1. 「**Create CSR**」(CSR の作成)をクリックしてください。下図のようなダイアログボックスが表示されます。

2. 下表の例を参考にしながら、お使いのサイトで有効な値をフォームに入力してください。

情報	記入例
Country(2 letter code) (国名 (2 バイトコード))	TW
State or Province (都道府県)	Taiwan
Locality (市区町村)	Taipei
Organization (会社名)	Your Company, Ltd.
Unit (部署名)	Techdoc Department
Common Name (コモンネーム)	mycompany.com ここには証明書を有効にしたいサイトのドメイン名を正確に入力してください。例えば、サイトのドメイン名が「 www.mycompany.com 」で、「mycompany.com」だけしか入力しなかった場合、この証明書は有効にはなりません。
Email Address (メールアドレス)	administrator@youcompany.com

3. フォームへの入力(全項目への入力が必須)が完了したら、「**Create**」(作成)をクリックしてください。

そうすると、入力した情報に基づいて作成された自己署名済み証明書が、CN9000/CN9600/CN9950 に保存されます。

4. 「**Get CSR**」(CSR を取得する)をクリックし、証明書ファイル(csr.cer)をお使いのコンピューターの適当なフォルダーに保存してください。

これは、署名済み SSL 証明書の申請の際にサードパーティーの認証局へ提出が必要となるファイルです。

5. 認証局から証明書が送られて来たら、この証明書をお使いのコンピューターの適当なフォ

ルダーに保存してください。そうしたら、「**Browse**」(参照)をクリックして、ファイルの場所へ移動し、「**Upload**」(アップロード)をクリックして、これを CN9000/CN9600/CN9950 に保存してください。

注意: ファイルをアップロードすると、CN9000/CN9600/CN9950 ではファイルのチェックを行い、特定の情報が一致しているかどうかを確認します。一致した場合、ファイルは受け入れられ、一致しない場合は、拒否されます。

証明書を削除する場合(ドメイン名の変更などにより新しい証明書に置き換える場合)は、「**Remove CSR**」(CSR を削除)をクリックしてください。

コンソール管理

このセクションでは、OOBC またはシリアル接続を介して CN9000/CN9600/CN9950 コンソールを開く方法について説明します。

OOBC

まず、この機能が正しく動作するように、CN9000/CN9600/CN9950 の本体にある CPUCOM (RS-232 DTE) ポートにシリアルデバイスを接続してください。

LAN 経由による通常の方法で CN9000/CN9600/CN9950 にアクセスできない場合は、製品本体のモデムポート経由でアクセスすることができます。PPP(モデム)動作のサポートを有効にするには、「Enable Out of Band Access」(アウトオブバンドアクセスを有効にする)の項目にチェックを入れてください。

OOBC (COM CPU) Serial Console (COM CPU)

PPP Settings

☐ Enable Out of Band Access

Dial Back

☐ Enable Dial Back

☒ Enable Fixed Number Dial Back

Phone Number:

☐ Enable Flexible Dial Back

Use dial back phone number for the Username

Password:

Dial Out

☐ Enable Dial Out

ISP Settings

Phone Number:

Account Name:

Password:

Dial Out Schedule

☒ Every:

☐ Daily at: :

PPP online time: minute(s)

Emergency Dial Out

☒ PPP stays online until network recovery

☐ PPP online time: minute(s)

Dial Out Mail Configuration

SMTP Server IP Address:

Service Port:

☐ SMTP server requires secure connection (SSL)

☐ SMTP server requires authentication

Account Name:

Password:

Email From:

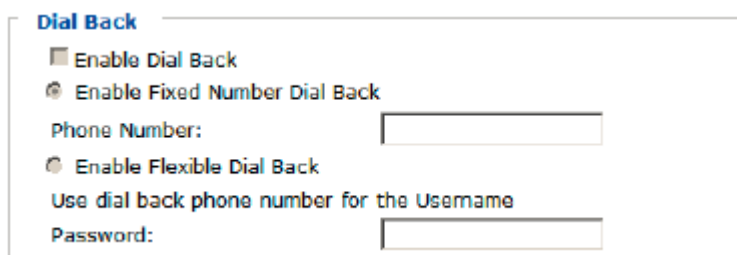
To:

■PPP 設定

アウトオブバンドアクセスを有効にすると、「**Enable Dial Back**」(ダイヤルバックを有効にする)と「**Enable Dial Out**」(ダイヤルアウトを有効にする)の各項目が使用可能になります。内容については、以下のセクションで説明します。

ダイヤルバック

この機能を有効にすると、本製品はダイヤルイン中の通話を切断し、次のオプションに従ってダイヤルバックを行います。



Dial Back

☒ **Enable Dial Back**

☐ **Enable Fixed Number Dial Back**

Phone Number:

☐ **Enable Flexible Dial Back**

☐ **Use dial back phone number for the Username**

Password:

- ◆ **Enable Fixed Number Dial Back**(固定番号ダイヤルバックを有効にする): 有効にすると、CN9000/CN9600/CN9950 は着信中にモデムをハングアップし、「**Phone Number**」(電話番号)欄で電話番号が指定されているモデムにダイヤルバックします。
「**Phone Number**」(電話番号)欄には、CN9000/CN9600/CN9950 が再ダイヤルするモデムの電話番号を入力してください。
- ◆ **Enable Flexible Dial Back**(フレキシブルダイヤルバックを有効にする): 有効にすると、CN9000/CN9600/CN9950 はユーザーに好都合なモデムにダイヤルバックします。
「**Password**」(パスワード)欄に、ユーザーが指定する必要があるパスワードを入力してください。
また、CN9000/CN9600/CN9950 のモデムに接続する場合、ユーザーは CN9000/CN9600/CN9950 がユーザーネームとしてダイヤルバックするモデムの電話番号とパスワードを、それぞれ該当欄に指定してください。

ダイヤルアウト

ダイヤルアウト機能を使用する場合は、ISP（インターネットサービスプロバイダー）と契約を結び、この ISP で発行されたアカウントに対して、モデム経由でダイヤルアップ接続してください。ダイヤルアウトを有効にする項目の説明を以下の表に示します。

The screenshot shows a 'Dial Out' configuration window with the following sections:

- Enable Dial Out:** A checkbox that is checked.
- ISP Settings:** A section containing three input fields: 'Phone Number' (with the value '986969879'), 'Account Name', and 'Password'.
- Dial Out Schedule:** A section with three options: 'Every' (selected with a radio button and a dropdown menu set to 'Never'), 'Daily at' (with two input fields for hours and minutes, both set to '0'), and 'PPP online time' (with an input field set to '100' and the unit 'minute(s)').
- Emergency Dial Out:** A section with two options: 'PPP stays online until network recovery' (selected with a radio button) and 'PPP online time' (with an input field set to '0' and the unit 'minute(s)').
- Dial Out Mail Configuration:** A section containing: 'SMTP Server IP Address' (input field with '198.168.0.0'), 'Service Port' (input field with '465'), two checkboxes ('SMTP server requires secure connection (SSL)' is checked, 'SMTP server requires authentication' is unchecked), and four input fields for 'Account Name', 'Password', 'Email From', and 'To'.

- ◆ **ISP Settings** (ISP 設定) : お使いの ISP に接続する際に使用する電話番号、アカウントネーム（ユーザーネーム）、パスワードをそれぞれ該当欄に入力してください。
- ◆ **Dial Out Schedule** (ダイヤルアウトスケジュール) : ISP 接続で CN9000/CN9600/CN9950 がダイヤルアウトする頻度を設定します。
 - 「**Every**」(繰り返し) では、1～4 時間ごとに定時で実行するように設定できます。
 - 例えば、2 時間ごとに設定した場合、CN9000/CN9600/CN9950 は次の 00 分から 2 時間おきにダイヤルアウト接続を行います。
 - 決まったスケジュールで CN9000/CN9600/CN9950 にダイヤルアウトさせたくない場合は、リストから「**Never**」(なし) を選択してください。
 - 「**Daily**」(毎日) のラジオボタンを選択すると、指定された時刻に日次でダイヤルアウト接続

を行います。時刻の時と分をセミコロンで区切り、「hh:mm」のフォーマットで設定してください。

- 「**PPP online time**」(PPP オンライン時間)欄では、セッションが終了し、モデムとの接続を切断するまで ISP 接続のオンライン状態を持続する時間を設定します。0 を設定すると、常にオンラインになります。

- ◆ **Emergency Dial Out (緊急ダイヤルアウト)** : CN9000/CN9600/CN9950 がネットワークから切断された、またはネットワークがダウンした場合、この機能を使うと、ISP のダイヤルアップ接続で CN9000/CN9600/CN9950 をオンラインにすることができます。

- 「**PPP stays online until network recovery**」(ネットワーク回復まで PPP オンラインを維持する)を選択すると、ネットワークが復旧するか、CN9000/CN9600/CN9950 がネットワークに再接続するまで ISP への PPP 接続が持続します。
- 「**PPP online time**」(PPP オンライン時間)を選択すると、ここで設定した時間が経過した後に ISP への接続が終了します。0 を設定すると、常にオンラインになります。

- ◆ **Dial Out Mail Configuration (ダイヤルアウトメール設定)** : このセクションで設定を行うと、CN9000/CN9600/CN9950 のポートに接続された機器で発生した問題を電子メールで通知します。

注意: このメール通知機能は、社内のメールサーバーではなく ISP のメールサーバーを使って処理を行うため、SMTP 設定での通知機能とは若干異なります。

- 「**SMTP Server IP Address**」(SMTP サーバーIP アドレス)欄に SMTP サーバーの IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、またはドメイン名を入力し、「**Service Port**」(サービスポート)欄に対応するポート番号を入力してください。
- サーバーに SSL 接続する必要がある場合は、「**SMTP server requires secure connection (SSL)**」(SMTP サーバーはセキュアな接続が必要)の項目にチェックを入れてください。
- サーバーで認証が必要とされる場合は、「**SMTP server requires authentication**」(SMTP サーバーは認証が必要)にチェックを入れて、認証に適切なアカウントネームとパスワードを該当欄に入力してください。
- 「**Email From**」欄に、SMTP サーバーの責任者またはアドミニストレーターと同等の権限を持ったユーザーのメールアドレスを入力してください。
- 「**To**」欄に、宛先となるメールアドレスを入力してください。複数のアドレスに送信する場合は、コンマまたはセミコロンでアドレスを区切ってください。

シリアルコンソール

まず、この機能が正しく動作するように、CN9000/CN9600/CN9950 の本体にあるローカルコンソール COM (RS-232 DCE) ポートにシリアルデバイスを接続してください。

接続されたシリアルデバイスと通信するように CN9000/CN9600/CN9950 を設定するには、そのパラメーターをポートプロパティ設定におけるデバイスのパラメーターと一致するように設定する必要があります。

OOBC Serial Console(COM1)

Port Property Settings:

Bits per second: 115200 Data bits: 8

Parity: None Stop bits: 1

Flow control: None

☐ Enable Serial Port Bypass

Port Alert Settings:

Alert String 1:

Alert String 2:

Alert String 3:

Alert String 4:

Alert String 5:

Alert String 6:

Alert String 7:

Alert String 8:

Alert String 9:

Alert String 10:

接続したシリアルコンソールデバイスで使用している値に合致するものを選択してください。
CN9000/CN9600/CN9950 がサポートするポートのプロパティ設定は次のとおりです。

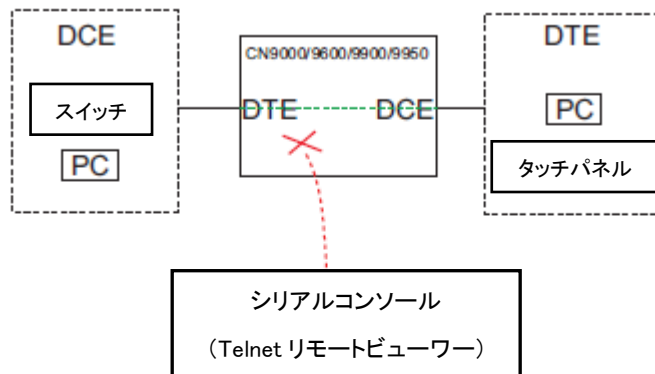
- ◆ **Baud Rate** (ボーレート) : ポートのデータ通信速度を設定します。設定できる値は 300～115200 です (設定可能な値はドロップダウンメニューの内容を参照のこと)。この設定は、シリアルコンソールデバイスのボーレート設定に合わせてください。デフォルトでは (多くのシリアルデバイスの基本設定である) 115200 に設定されています。
- ◆ **Data Bits** (データビット) : データ 1 文字を転送するのに使用されるビット数を設定します。設定できる値は、7 または 8 です。この設定は、シリアルコンソールデバイスのデータビット設定に合わせてください。デフォルトでは (大半のシリアルコンソールデバイスのデフォルト設定である) 8 に設定されています。

- ◆ **Parity** (パリティ) : このビットは、送信データの整合性をチェックします。設定できる値は、「None」(無)、「Odd」(奇数)、「Even」(偶数)です。この設定は、シリアルコンソールデバイスのパリティ設定に合わせてください。デフォルトでは「None」(無)に設定されています。
- ◆ **Stop Bits** (ストップビット) : 文字が送信されたことを示すものです。この設定は、シリアルコンソールデバイスのストップビット設定に合わせてください。設定できる値は、1 または 2 です。デフォルトでは、(大半のシリアルコンソールデバイスのデフォルト設定である) 1 に設定されています。
- ◆ **Flow Control** (フローコントロール) : データフローの制御方法を選択できます。設定できる値は、「None」(無)、「Hardware」(ハードウェア)、「XON/XOFF」です。この設定は、シリアルコンソールデバイスにおけるフローコントロールの設定に合わせてください。デフォルトでは「None」(無)に設定されています。

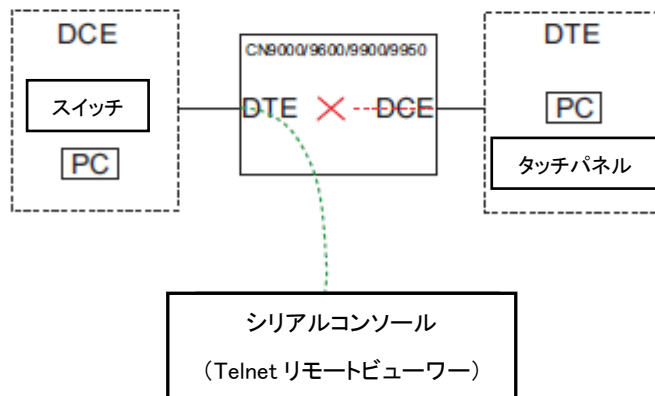
注意: 「None」(無)は 9600 以下のボーレートでのみサポートされます。ボーレートが 9600 を超える場合は、「Hardware」(ハードウェア)または「XON/XOFF」を選択してください。

- ◆ **Enable Serial Port Bypass** (シリアルポートのバイパスを有効にする) : シリアルポートのバイパスを有効にする場合はチェックを入れ、無効にする場合はチェックを外してください。この機能を有効にすると、接続されている DTE デバイスが DCE デバイスを制御できるようになり (ローカル制御)、反対にシリアルコンソール制御 (リモート制御) が無効になります。下図は、シリアルポートのコンソール制御を有効/無効にする方法を簡単に説明したものです。

シリアルポートのバイパスを有効にする場合(ローカル制御)



シリアルポートのバイパスを無効にする場合(リモート制御)



注意: シリアルポートのバイパスを有効にすると、ポート警告設定が無効になります。

- ◆ **Port Alert Settings**(ポート警告設定): 最大 10 種類のイベント(例: 電源 ON)を指定できます。「Alert String(1~10)」「警告文字列(1~10)」欄に入力してください。

日付/時刻

「Date/Time」(日付/時刻)ダイアログ画面では、CN9000/CN9600/CN9950 の時刻パラメーターを設定します。

The screenshot shows a configuration window with the following sections:

- Time Zone:** A dropdown menu showing "(GMT-12:00) Eniwetok Kwajalein". Below it is a checkbox for "Daylight Savings Time".
- Date:** A calendar for March 2013. The days of the week are Su, Mo, Tu, We, Th, Fr, Sa. The date 7 is highlighted in yellow.
- Time:** Input fields for hours (20), minutes (32), and seconds (03), followed by a "Set" button.
- Network Time:** A section with several options:
 - ☒ Enable auto adjustment
 - Preferred time server: AU | ntp1.cs.mu.OZ.AU
 - ☐ Preferred custom server IP
 - ☐ Alternate time server: AU | ntp1.cs.mu.OZ.AU
 - ☐ Alternate custom server IP
 - Adjust time every 1 days
 - Adjust Time Now button

パラメーターは下記を参考にしながら設定してください。

タイムゾーン

- ◆ ドロップダウンメニューを使用して、現在地に最も近い都市を選択してください。
- ◆ この場所が属している国または地域がサマータイムを導入している場合は、「Daylight Saving Time」(サマータイム)の項目にチェックを入れてください。

日付/時刻

- ◆ ドロップダウンリストから適切な月を選択してください。
- ◆ 前の年に移動する場合は「<」を、次の年に移動する場合は「>」をそれぞれクリックしてください。
- ◆ カレンダーから適切な日をクリックしてください。
- ◆ 時刻は 24 時間制で「HH:MM:SS」のフォーマットで入力してください。
- ◆ 設定内容を保存する場合は「Set」(設定) ボタンをクリックしてください。

ネットワークタイム

時刻をネットワークタイムサーバーに自動同期させる場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. 「**Enable auto adjustment**」(自動調整を有効にする)の項目にチェックを入れてください。
2. ドロップダウンメニューをクリックして、希望のタイムサーバーをタイムサーバーリストから選択してください。
 - または–「**Preferred custom server IP**」(優先カスタムサーバーIP)の項目にチェックを入れて、任意のタイムサーバーの IP アドレスを入力してください。
3. 代替タイムサーバーを設定する場合は、「**Alternate time server**」(代替タイムサーバー)の項目にチェックを入れて、手順 2 の要領で代替タイムサーバーに関するパラメーターを設定してください。
4. 時刻同期を行う間隔となる日数を、「**Adjust time every n days**」(n 日おきに調整する)の項目に入力してください。
5. 時刻調整をすぐに実行する場合は、「**Adjust Time Now**」(今すぐ時刻調整)ボタンをクリックしてください。

カスタマイズ

このセクションでは、さらにカスタマイズ可能なオプションについて説明します。

The image shows a software configuration window with several sections:

- Mode**: Contains two checkboxes: "Force All to Grayscale" (unchecked) and "Enable Client AP Device List" (checked).
- USB IO Settings**: Contains three dropdown menus: "OS:" (Win), "Language:" (US English), and "Mode:" (Virtual Media).
- Multiuser Mode**: Contains two fields: "Multiuser Mode:" (Share) and "Occupy Timeout:" (3) with a unit of "sec (0-255)".
- Exit Macro**: Contains a dropdown menu set to "None".
- Reset**: Contains a checkbox "Reset on exit" (unchecked) and a button labeled "Reset Default Values".

モード

「Force All to Grayscale」(すべてグレースケールに強制表示)の項目にチェックを入れると、CN9000/CN9600/CN9950 に接続されているすべてのクライアントのリモート表示がグレースケールに変更されます。これにより、帯域幅が低い状態で I/O 転送を高速化することができます。

「Enable Client AP Device List」(アプリケーションのデバイスを一覧を有効にする)の項目にチェックを入れると、Win クライアントまたは Java クライアントアプリケーションを使用する際に CN9000/CN9600/CN9950 がサーバーリストで検出可能になります (p.96「起動」参照)。この機能を無効にすると、サーバーリストでユニットが検出不能になりますが、接続は可能です。

USB IO 設定

OS: 接続ポートのサーバーが使用している OS を設定します。オプションは Win、Mac、Sun および「Other」(その他)です。デフォルトは Win です。

Language(言語): 接続ポートのサーバーが使用している OS の言語を設定します。利用可能な項目を参照するにはリストをドロップダウンしてください。デフォルトは英語 (US) です。

Mode(モード): システムにバーチャルメディアを許可するか(詳細は p.119「バーチャルメディア」参照)、また、LUC ポート経由でローカルラップトップ USB コンソール(LUC)にアクセスさせるか(p.141

「ラップトップ USB コンソール(LUC)」参照)を、ドロップダウンメニューから選択することができます。

マルチユーザーモード

- ◆ **Multiusers Mode**(マルチユーザーモード) : 複数のユーザーがログインした際にどのようにポートがアクセスされるかを、下記のように設定します。
 - **Exclusive (排他)** : ポートに最初に切り替えたユーザーは、そのポートに対して排他的に制御することができます。他のユーザーはこのポートを参照することができません。
 - **Occupy (占有)** : 最初にポートに切り替えたユーザーが操作を独占できますが、他のユーザーもそのポートのビデオ出力を参照することができます。
 - **Share (共有)** : 複数のユーザーで同時にポートを共有して操作することができます。ユーザーからの入力はキューに格納され、古い順に実行されます。この設定でお使いの場合、ユーザーはメッセージボード機能を使うことで、共有ポートにおけるキーボードとマウス、またはキーボード/マウス/ビデオ操作の競合を避けることができます (p.116「メッセージボード」参照)。

Occupy Timeout (占有タイムアウト) : ここで指定した時間内にユーザー入力がない場合、制御権は解放され、次にマウスまたはキーボードを使用したユーザーに転送されます。

終了マクロ

ドロップダウンメニューをクリックして、使用するユーザー作成のシステム終了マクロを選択したら、保存をクリックしてください。終了マクロの作成の詳細については、p.110「システムマクロ」を参照してください。

リセット

CN9000/CN9600/CN9950 を工場出荷時のデフォルト設定にリセットするには、「**Reset Default Values**」(デフォルト値のリセット)をクリックしてください。ログアウト後にデバイスを再起動する場合は、「**Reset on exit**」(終了時にリセット)の項目にチェックを入れてください。

設定

以下のセクションでは「User Preferences」(ユーザー設定)、「Log Information」(ログ情報)、「Remote Console」(リモートコンソール)および「Download」(ダウンロード)の各画面を含む管理ユーティリティについて説明します。

ユーザー設定

「User Preferences」(ユーザー設定)画面では、デバイスのパスワードおよび各種パラメーター(言語、OSD、ログアウトタイムアウト、ビューワーなど)を設定することができます。

The screenshot shows the 'Settings' window with the following configuration:

- Language: English
- OSD Hotkey: [Scroll Lock] [Scroll Lock]
- Logout Timeout: 30 min
- Launch viewer after login: ☐
- Viewer: #1 Web Client (selected), #2 Win Client, #3 Java Client
- Buttons: Save, Change Password...
- Fields: Old Password, New Password, Confirm Password

■ Language(言語)

ド롭ダウンメニューをクリックして、インターフェースの表示言語を選択してください。

■ OSD Hotkey(OSD ホットキー)

OSD 機能呼び出すキーボードの組み合わせを選択してください。

■ Logout Timeout(ログアウトタイムアウト)

セッションがアイドル状態の場合、ここで設定した時間によって、CN9000/CN9600/CN9950 がセッションを終了するまでの待ち時間が決まります。

■ Viewer(ビューワー)

リモートサーバーの画面を表示する際に使用するビューワーを選択してください。

- ◆ 「Save」(保存)ボタンをクリックすると、設定が適用されます。

■ Password(パスワード)

以下の欄を使用して、パスワードを変更してください。

- ◆ Old Password(旧パスワード):旧パスワードを入力してください。
- ◆ New Password(新パスワード):新パスワードを入力してください。
- ◆ Confirm Password(確認用パスワード):新パスワードをもう一度入力してください。

設定内容を適用するには、「Change Password」(パスワードの変更)をクリックしてください。

ログ

CN9000/CN9600/CN9950 で発生したイベントは、すべて製品内部でログとして記録されます。リセットすると、すべてのログがクリアされます。ログを表示するには、「Log Information」(ログ情報)をクリックしてください。

Time	Severity	Area	Log Information
2013/12/18 09:58:32	Low	System	DP: User administrator from 18.3.41.138 (04-C6-91-90-2F-4D) attempting to login via browser.
2013/12/18 09:27:46	Low	System	DP: User administrator from 18.3.41.138 (04-C6-91-90-2F-4D) attempting to login via browser.
2013/12/17 18:34:23	Low	System	DP: Session of user administrator (10.3.41.138 04-C6-91-90-2F-4D) has expired.
2013/12/17 18:33:34	Low	System	DP: Session of user administrator (10.3.41.138 04-C6-91-90-2F-4D) has expired.
2013/12/17 18:29:52	Low	System	DP: Session of user administrator (10.3.41.138 04-C6-91-90-2F-4D) has expired.
2013/12/17 18:18:51	Low	System	DP: User administrator from 18.3.41.138 (04-C6-91-90-2F-4D) attempting to login via browser.
2013/12/17 14:44:36	Low	System	DP: Session of user administrator (10.3.200.41 00-08-E5-FF-FC-04) has expired.
2013/12/17 14:39:05	Low	System	DP: User administrator from 18.3.200.41 (00-08-E5-FF-FC-04) attempting to login via browser.
2013/12/17 09:45:45	Low	System	DP: User administrator from 18.3.41.138 (04-C6-91-90-2F-4D) attempting to login via browser.
2013/12/17 09:45:13	Low	System	DP: User administrator from 18.3.41.138 (04-C6-91-90-2F-4D) attempting to login via browser.
2013/12/16 18:34:56	Low	System	DP: Session of user administrator (10.3.41.138 04-C6-91-90-2F-4D) has expired.
2013/12/16 18:31:57	Low	System	DP: Session of user administrator (10.3.41.138 04-C6-91-90-2F-4D) has expired.
2013/12/16 11:52:56	Low	System	DP: User administrator from 18.3.41.138 (04-C6-91-90-2F-4D) attempting to login via browser.
2013/12/16 10:46:57	Low	System	DP: Session of user administrator (10.3.41.55 00-08-55-C3-19-34) has expired.
2013/12/16 10:43:41	Low	System	DP: User administrator from 18.3.41.55 (00-08-55-C3-19-34) attempting to login via browser.
2013/12/16 09:47:25	Low	System	DP: User administrator from 18.3.41.138 (04-C6-91-90-2F-4D) attempting to login via browser.
2013/12/16 08:38:16	Low	System	DP: Session of user administrator (10.3.41.138 04-C6-91-90-2F-4D) has expired.
2013/12/13 18:38:12	Low	System	DP: Session of user administrator (10.3.41.138 04-C6-91-90-2F-4D) has expired.
2013/12/13 18:08:27	Low	administrator	SNS: User administrator backup system configuration.
2013/12/13 17:20:13	Low	administrator	DP: User administrator modified account policy.
2013/12/13 17:23:06	Low	administrator	DP: User administrator modified account policy.
2013/12/13 16:38:03	Low	administrator	DP: User administrator deleted user administrator account.
2013/12/13 16:37:51	Low	administrator	DP: User administrator create account for user administrator.
2013/12/13 16:37:43	Low	administrator	DP: User administrator create account for user administrator.
2013/12/13 16:32:45	Low	System	DP: User administrator from 18.3.41.138 (04-C6-91-90-2F-4D) attempting to login via browser.
2013/12/13 15:05:13	Low	System	DP: User administrator from 18.3.41.138 (04-C6-91-90-2F-4D) attempting to login via browser.
2013/12/13 15:04:49	Low	System	DP: User administrator from 18.3.41.138 (04-C6-91-90-2F-4D) logged out via browser.
2013/12/13 14:35:19	Low	System	DP: Session of user administrator (10.3.200.111 00-08-E3-FF-FC-04) has expired.
2013/12/13 14:30:13	Low	System	DP: Session of user administrator (10.3.41.124 14-2B-3C-4D-07-08) has expired.
2013/12/13 13:56:12	Low	administrator	SNS: Find session for user administrator.

最大 1024 のイベントがログファイルに保持されます。新しいイベントが記録されると、リストの一番下に書き込まれます。ログファイルに 1024 件のイベントが記録された後に新しいイベントが記録されると、リスト内の最も古いイベントは破棄されます。

注意: (直近の 1024 件だけでなく)発生したすべてのイベントの記録を保持して参照するには、ログサーバーAP プログラムを設定してください。詳細は p.145「ログサーバー」を参照してください。

ログファイルを消去するには、画面の右下にある「Clear Log」(ログのクリア)アイコンをクリックしてください。

リモートコンソール

このセクションでは、リモートコンソール関連の設定オプションについて説明します。

リモートコンソールのプレビュー

この画面のプレビューには、サーバーの表示のスナップショットが次のように表示されます。



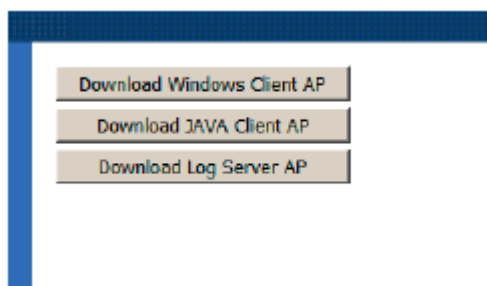
リモートディスプレイのスナップショットを更新するには、「**Refresh**」(更新)をクリックしてください。

Telnet ビューワー

シリアルコンソールが有効で、ユーザーが Telnet のアクセス権を持っている場合、リモートコンソール画面に「Open Telnet Client」(Telnet クライアントを開く)ボタンが表示されます。組み込みの Telnet クライアント AP を起動するには、このボタンをクリックしてください。

ダウンロード

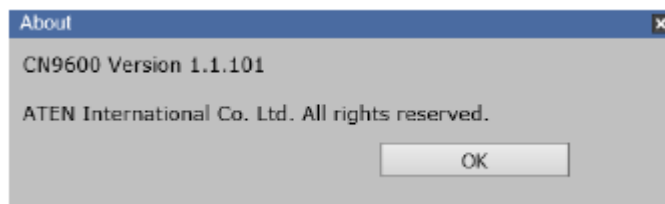
ダウンロード画面では、スタンドアロン Windows クライアント AP、Java クライアント AP およびログサーバー AP をダウンロードすることができます。



1. ダウンロードしたい AP のボタンをクリックしてください。
2. 画面の指示に従ってインストールを完了し、デスクトップにプログラムのアイコンを置いてください。
 - ◆ Windows クライアント AP および Java クライアント AP に関する詳細は、p.94「第 5 章 リモートサーバーへのアクセス」を参照してください。
 - ◆ ログサーバー AP に関する詳細は、p.145「第 9 章 ログサーバー」を参照してください。

バージョン情報

「About」(バージョン情報)をクリックすると、CN9000/CN9600/CN9950 の現在のファームウェアバージョンと著作権情報が表示されます。



ビューワー

ビューワーアイコンをクリックすると、リモートクライアント(Web クライアント、Win クライアント、またはJavaクライアント)を呼び出して、別ウィンドウでリモートサーバーのコンソール画面を確認することがます。

ビューワーアイコンをクリックしてから 1～2 秒経つと、リモートサーバーのデスクトップ画面が、お使いの PC 上でウィンドウ表示されます。ビューワーの種類は、環境設定と使用ブラウザの種類によって異なります。

ログアウト

CN9000/CN9600/CN9950 の動作環境の設定が終了したら、ログアウトアイコンをクリックしてください。そうすると、CN9000/CN9600/CN9950 の GUI からログアウトします。

第5章

リモートサーバーへのアクセス

はじめに

リモートサーバーには、ローカルシステムと同じようにアクセスすることができます。ウィンドウが表示されると、リモートサーバーがこのウィンドウ内に表示されます。

- ◆ ウィンドウを最大化したり、枠をドラッグしてウィンドウのサイズを変更したり、スクロールバーを使用して画面内を移動したりすることができます。
- ◆ [Alt] + [Tab]キーでローカルプログラムとリモートプログラムを切り替えることができます。

-
- 注意:**
1. ネットラグのため、キーストロークが表示されるまで少し遅れることがあります。また、クリックする前に、リモートマウスがローカルマウスに追いつくまで少し時間がかかる場合があります。
 2. ネットラグ、あるいはローカルマシン上の処理能力不足により、画像(特に動画)の画質が劣化する場合があります。
-

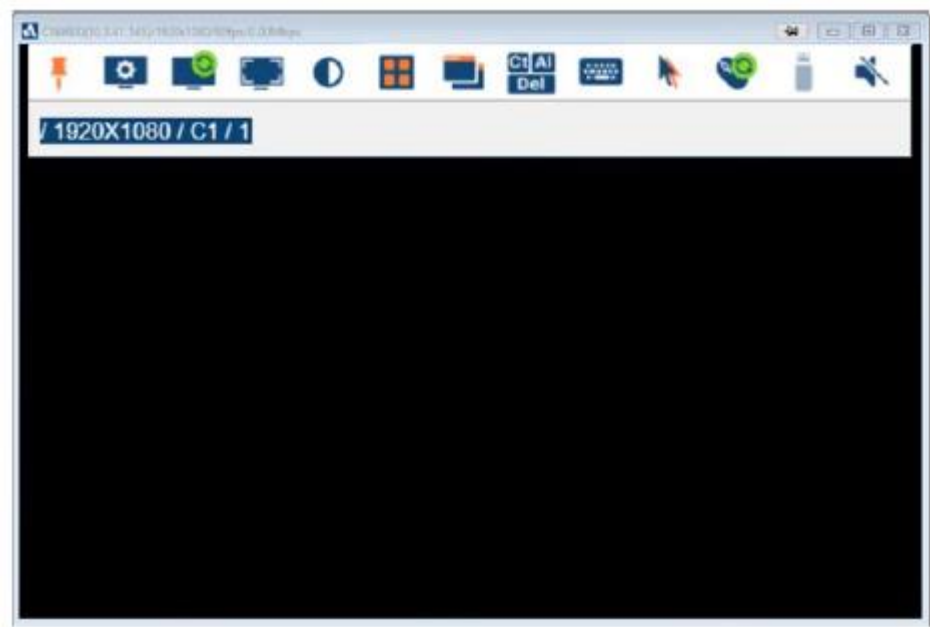
リモートサーバーへのアクセス方法はいくつかあります。以下に一覧を示します。

1. Web ブラウザーGUI から直接アクセスする **Web クライアントビューワー** (詳細は p.95 「Web/Windows/Java クライアントビューワー」を参照)
2. Web ブラウザーGUI から直接アクセスする **Windows ビューワー** (詳細は p.95 「Web/Windows/Java クライアントビューワー」を参照)
3. Web ブラウザーGUI から直接アクセスする **Java ビューワー** (詳細は p.95 「Web/Windows/Java クライアントビューワー」を参照)
4. **Windows クライアントビューワーAP** (ブラウザ不使用)
リモートサーバーへのアクセス方法とビューワーの使用方法については、p.96「Windows クライアントAP」および p.100「Windows クライアントビューワー」をそれぞれ参照してください。
5. **Java クライアントビューワーAP** (ブラウザ不使用)
リモートサーバーへのアクセス方法とビューワーの使用方法については、p.99「Java クライアントAP」を参照してください。操作方法は Windows クライアントと同じであるため、ビューワーインターフェースの操作方法については p.100「第6章 Windows クライアントビューワー」を参照してください。

Windows クライアント AP および Java クライアント AP を Web GUI からダウンロードする方法の詳細については、p.92「ダウンロード」を参照してください。

Web/Windows/Java クライアントビューワー

Web/Windows/Java クライアントビューワーは、Web ブラウザーでアクセスすることができます。Web 設定画面にログインしたら(p.42 参照)、左パネルメニューのビューワーアイコンをクリックしてください。2 回目以降は、リモートサーバーのデスクトップ画面が、お使いの PC のデスクトップ上にウィンドウ形式で表示されます。



リモートサーバーの操作やアクセスは、コントロールパネルから行います。操作やアクセスに関する情報は、p.100「Windows/Java クライアントのコントロールパネル」を参照してください。

デフォルトでは、Web クライアントビューワーが使用されます。

ビューワー設定の優先順位を変更すると(p.89「ユーザー設定」参照)、別のクライアントを使用することができます。

詳細は p.89「ユーザー設定」を参照してください。

Windows クライアント AP

Windows クライアント AP は、ブラウザーの設定ページを介さずに Windows クライアントにアクセスできる Windows クライアントプログラムです。

ダウンロード

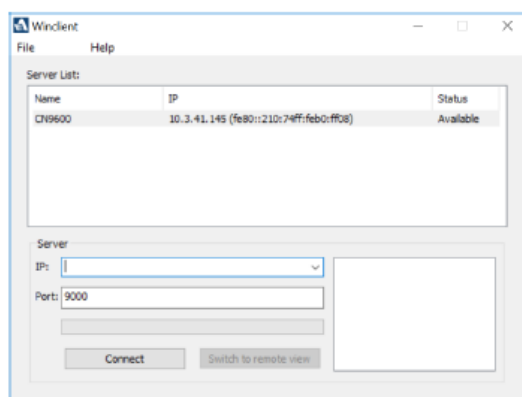
スタンドアロンの Windows クライアントプログラムをダウンロードするには、次の手順で操作を行ってください。

1. Web GUI で、「Download」(ダウンロード)画面に移動してください。詳細については p.92「ダウンロード」を参照してください。
2. 「**Download Windows Client AP**」(Windows クライアント AP をダウンロードする)ボタンをクリックしてください。
3. ファイルを使い勝手の良い場所に保存するか、デスクトップにショートカットを作成してください。

起動

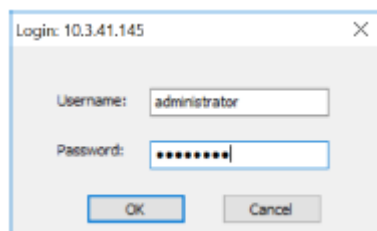
AP の初回実行時には、Windows クライアント AP を右クリックし、「Run as administrator」(アドミニストレーターとして実行)をクリックして起動してください。

Windows クライアントの接続画面は下図のとおりです。また、各コンポーネントについては次の表で説明します。



項目	説明
Server List (サーバーリスト)	CN9000/CN9600/CN9950 の Windows クライアントを起動すると、そのツールがインストールされているコンピューターと同じネットワークセグメントにあるユニットを自動検出し、リストに表示します。ユニットにアクセスする場合は、対象となるデバイスを ダブルクリック して接続してください。
Server (サーバー)	接続したい CN9000/CN9600/CN9950 が離れた場所にある場合、LAN 上には見つかりません。このような場合には、ご自身で IP アドレスとポートを入力してください。 ポート番号がご不明な場合は、CN9000/CN9600/CN9950 の管理者にご確認ください。 接続対象となるユニットの IP アドレスとポート番号を指定したら、「 Connect 」(接続)をクリックして接続を開始してください。
Connect (接続)	CN9000/CN9600/CN9950 への接続を開始します。
Disconnect (切断)	これらのボタンは、CN9000/CN9600/CN9950 にログインするとアクティブになります。詳細は p.98 を参照してください。
Switch to remote view (リモート表示に切替)	
メッセージパネル	「Server」(サーバー) セクションの右側にある空白のボックスには、サーバー接続の現在の状態が表示されます。

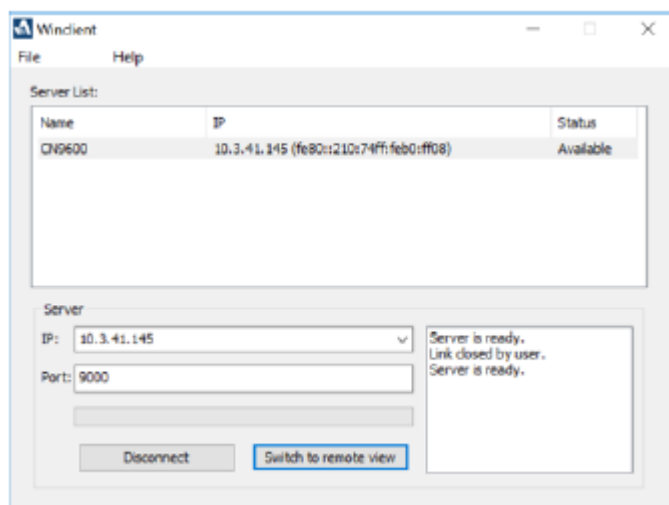
1. ユニットのダブルクリックしてください。CN9000/CN9600/CN9950 に接続すると、ログイン画面が表示されます。



2. 有効なユーザーネームとパスワードを入力し、「OK」をクリックして操作を続行してください。

注意: デフォルトのユーザーネームは「administrator」、パスワードは「password」です。

ログインに成功すると、接続画面に戻ります。



このとき、2つのボタンがアクティブになります。説明は下表のとおりです。

ボタン	アクション
Disconnect (切断)	CN9000/CN9600/CN9950 への接続を切断します。
Switch to remote view (リモート表示に切替)	環境によっては、管理者がユーザーにブラウザーからCN9000/CN9600/CN9950 に接続してほしい場合があります。このリモート表示への切替機能を使うと、ユーザーのデスクトップ上にウィンドウが開いて、ブラウザーベースのWindows クライアントと同じようにリモートサーバーの画面が表示されるため、この問題が解消されます。操作の詳細については、p.100「第6章 Windows クライアントビューワー」を参照してください。

3. 「Switch to remote view」(リモート表示に切替)をクリックして、リモートサーバーにアクセスしてください。

リモートアクセスのインターフェースの詳細については、p.100「Windows/Java クライアントのコントロールパネル」を参照してください。

Java クライアント AP

Java クライアント AP は、すべてのプラットフォームから CN9000/CN9600/CN9950 に対するアクセスを可能する AP プログラムです。これは、Windows クライアント AP と同様に、ブラウザー設定画面を経由せずに Java クライアントにアクセスできるプログラムです。

JRE 6 Update 3 以降がインストールされているシステムであれば接続可能です。Java は、Java Web サイト(<https://www.java.com/ja/>)から無償でダウンロードできます。

Java クライアントの接続画面とその操作手順は、Windows クライアント AP と同じです。詳細は p.96 「Windows クライアント AP」を参照してください。

Java クライアント AP を使用したリモートサーバーの操作/アクセスも Windows クライアントと同じであるため、詳細は p.100「Windows/Java クライアントのコントロールパネル」を参照してください。

第6章

Windows クライアントビューワー

Windows/Java クライアントのコントロールパネル

Windows クライアントと Java クライアントのコントロールパネルは、ほとんど同じですが、一部の機能が異なります。

- ◆ 「Macros」(マクロ)ダイアログボックスにおける「Toggle Mouse Display」(マウス表示の切替)は、Windows クライアントでのみ利用可能です。
- ◆ マウスポインターの「Dot」(ドット)タイプは、Windows クライアントでのみ利用可能です。
- ◆ Java クライアントビューワーには、メッセージボード機能におけるユーザーリストやメッセージパネルを表示したり非表示にしたりする「Show/Hide」(表示/非表示)ボタンがあります。この機能は、メインパネルからユーザーリストパネルを分離するバー 上部の矢印をクリックすることでも同様に実行することができます。
- ◆ Java クライアントでサポートされるバーチャルメディアは、ISO とフォルダーのみです。

コントロールパネルは、画面の上部または下部中央で非表示になっています(デフォルトは上)。これはマウスポインターを重ねると表示されます。

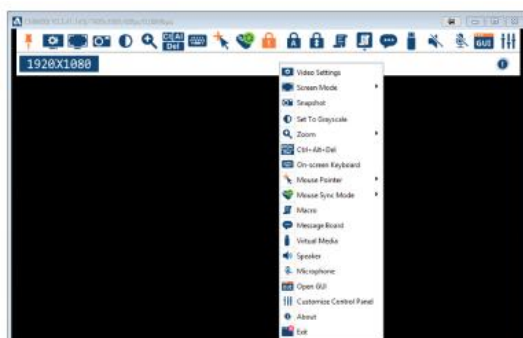


- 注意:**
1. 上のイメージはコントロールパネル全体を示しています。表示されるアイコンはカスタマイズできます。詳細については、p.127「コントロールパネルのカスタマイズ」を参照してください。
 2. コントロールパネルを画面上の別の場所に移動するには、テキストバーの領域上にマウスポインターを重ね、クリックしてドラッグしてください。

- ◆ パネルは2つの行から構成されています。
- ◆ 2行目には、リモートデスクトップのビデオ解像度、ユーザーが使用しているバス、およびコントロールパネルツールバーのメニュー形式版用にクリックできる情報ボタンが表示されます(以








下を参照)。

- ◆ メニュー形式のコントロールパネルは、2 行目の領域を右クリックすることでも表示できます。このメニューでは、スクリーンモード、ズーム、マウスポインターの種類、およびマウス同期モードのオプションを選択できます。これらの機能については、以降のセクションで説明します。









コントロールパネルの機能





コントロールパネルの機能を以下の表に示します。

アイコン	機能
	これはトグルボタンです。クリックすると、コントロールパネルを常に他の画面要素の上に表示します。もう一度クリックすると、通常の状態に戻します。
	クリックすると、「Video Options」(ビデオオプション)ダイアログボックスを表示します(詳細は p.113「ビデオ設定」参照)。
	フルスクリーンモードとウィンドウモードを交互に切り替えます。
	クリックすると、リモート画面のスナップショット(画面キャプチャ)を取得します。スナップショットに関するパラメーターの設定方法については p.130「スナップショット」を参照してください。
	クリックすると、リモート画面の表示をカラーとグレースケールで交互に切り替えます。
	クリックすると、リモート画面のウィンドウをズーム表示します。 注意: この機能はウィンドウモード(フルスクリーンモードが OFF)でのみ使用できます。詳細については p.123「ズーム」を参照してください。
	クリックすると、[Ctrl] + [Alt] + [Delete]の信号がリモートシステムに送信されます。
	クリックすると、オンスクリーンキーボード(p.124 参照)を起動します。

(表は次のページに続きます)

アイコン	機能
	<p>クリックすると、マウスポインターの種類を選択します。</p> <p>注意:このアイコンは、選択されたマウスポインターの種類に応じて変わります (p.125「マウスポインターの種類」参照)。</p>
	<p>クリックすると、マウスの自動同期と手動同期を交互に切り替えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「Automatic」(自動)を選択すると、アイコンに緑色のマークが表示されます。 ◆ 「Manual」(手動)を選択すると、アイコンに赤色のマークが表示されます。 <p>この機能に関する詳細については、p.126「マウスダイナシクモード」をご参照ください。</p>
	<p>これらのアイコンは、リモートコンピューターにおける[Num Lock]、[Caps Lock]、[Scroll Lock]各キーの状態を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ロック状態が ON の場合、LED は明るいオレンジ色に点灯します。 ◆ ロック状態が OFF の場合、LED は鈍い青色になります。 <p>アイコンをクリックすると、状態を切り替えます。</p> <p>注意:これらのアイコンとローカルキーボードのアイコンは同期しています。アイコンをクリックすると、それに応じてキーボードの対応する LED が変化します。同様に、キーボードのロックキーを押すと、アイコンの色がそれに応じて変化します。</p>
	<p>クリックすると、マクロダイアログボックスを表示します(詳細は p.104「マクロ」を参照)。</p>
	<p>クリックすると、メッセージボード (p.116 参照) を起動します。</p>
	<p>クリックすると、「Virtual Media」(バーチャルメディア)ダイアログボックスを表示します。バーチャルメディアのデバイスがポートにマウントされると、アイコンが変わります。詳細については p.119「バーチャルメディア」を参照してください。</p> <p>注意:この機能が無効、または利用不可の状態になると、このアイコンはグレーで表示されます。</p>

(表は次のページに続きます)

アイコン	機能
	<p>クリックすると、スピーカーの電源を ON または OFF にします。ローカルコンソールに接続されているスピーカーが有効になると、このアイコンの表示はグレースケールになり、機能も無効になります。ローカルコンソールの OSD からスピーカーを有効/無効にする方法については、p.140「ローカル OSD」を参照してください。</p>
	<p>クリックすると、マイクの電源を ON または OFF にします。ローカルコンソールに接続されているマイクが有効になると、このアイコンの表示はグレースケールになり、機能も無効になります。ローカルコンソールの OSD からマイクを有効/無効にする方法については、p.140「ローカル OSD」を参照してください。</p>
	<p>クリックすると、ビューワーベースの設定にアクセスします (p.128「GUI を開く(設定)」を参照)。</p>
	<p>クリックすると、コントロールパネルの設定ダイアログを表示します。コントロールパネルの設定の詳細については、p.127 を参照してください。</p>

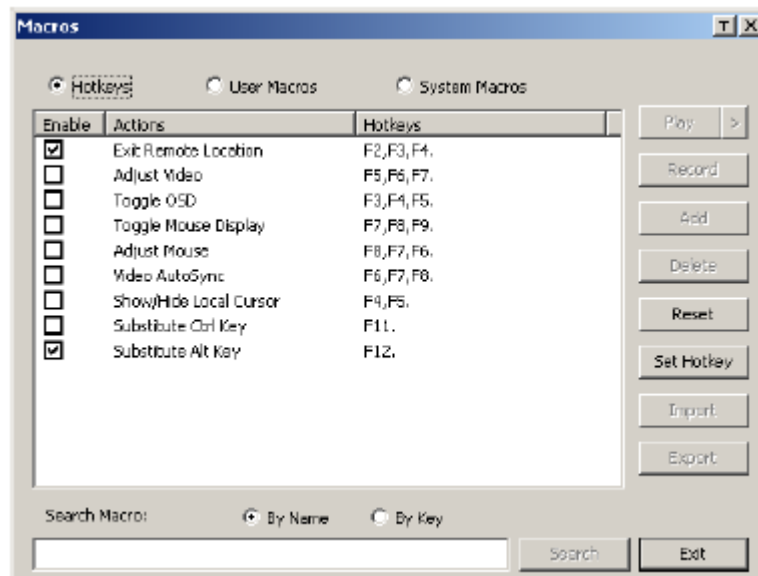


マクロ

マクロアイコンは、マクロダイアログボックスの3つの機能(ホットキー、ユーザーマクロ、システムマクロ)にアクセスすることができます。これらの機能については、以下のセクションで説明します。

ホットキー

コントロールパネルのアイコンをクリックして実行されるアクションは、キーボードから入力されたホットキーで直接実行することができます。「Hotkeys」(ホットキー)のラジオボタンを選択すると、アクションを実行するホットキーを設定することができます。アクションは左側に、また、そのアクションを行うホットキーはその右側に、それぞれ表示されます。アクション名の左側のチェックボックスを使用してホットキーの有効/無効を設定してください。



デフォルトのホットキーの組み合わせでは不都合が生じる場合は、下記の手順でホットキーを変更することができます。

1. 対象となるアクションをリストから選択し、「Set Hotkey」(ホットキーの設定)をクリックしてください。
2. 選択したファンクションキーを 1 つずつ押してください。そうすると、押されたキーの名前が「Hotkey」(ホットキー)欄に表示されます。
 - ◆ キー入力の順番が同じでなければ、同一ファンクションキーを複数のアクションに使用することができます。
 - ◆ ホットキーの設定を取り消す場合は「Cancel」(キャンセル)ボタンをクリックしてください。

また、アクションの「Hotkey」(ホットキー) 欄を消去するには「**Clear**」(クリア)ボタンをクリックしてください。

3. マクロキーの順番を入力し終えたら、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。

ホットキーの設定をすべてデフォルト値にリセットするには、「**Reset**」(リセット) ボタンをクリックしてください。

ホットキーアクションの内容は下表のとおりです。

アクション	説明
リモート操作の終了	リモートビューを終了します。これは、コントロールパネルの「Exit」(終了)アイコンをクリックするのと同じです。デフォルトでは、[F2][F3][F4]に設定されています。
ビデオの調整	「Video Settings」(ビデオ設定)ダイアログボックスを表示します。これは、コントロールパネルの「Video Settings」(ビデオ設定)アイコンをクリックするのと同じです。デフォルトでは[F5][F6][F7]に設定されています。
コントロールパネルの切替	コントロールパネルの ON と OFF を切り替えます。デフォルトでは[F3][F4][F5]に設定されています。
マウス表示の切替	ローカルとリモートの2つのマウスポインターが表示されて操作しづらい場合は、この機能を使用して、機能しない方のマウスポインターを最小化することで見やすくすることができます。この機能はトグル式であるため、同じホットキーを再度入力するとマウス表示を元の設定に戻します。これは、コントロールパネルの「Mouse Pointer」(マウスポインター)アイコンをクリックし、「Dot」(ドット)ポインターの種類を選択するのと同じです。デフォルトでは[F7][F8][F9]に設定されています。 注意: Java コントロールパネルにはこの機能はありません。
マウスの調整	これにより、ローカルとリモートのマウスの動きが同期されます。デフォルトでは[F8][F7][F6]に設定されています。
ビデオの自動同期	この組み合わせは、自動同期操作を実行します。これは、コントロールパネルの「Video Autosync」(ビデオの自動同期)アイコンをクリックするのと同じです。デフォルトでは[F6][F7][F8]に設定されています。
ローカルカーソルの表示/非表示	ローカルマウスのポインターの表示の ON と OFF を切り替えます。これは、コントロールパネルにある「Mouse Pointer」(マウスポインター)アイコンから「Null」(無)ポインタータイプを選択するのと同じです。デフォルトでは[F4][F5]に設定されています。

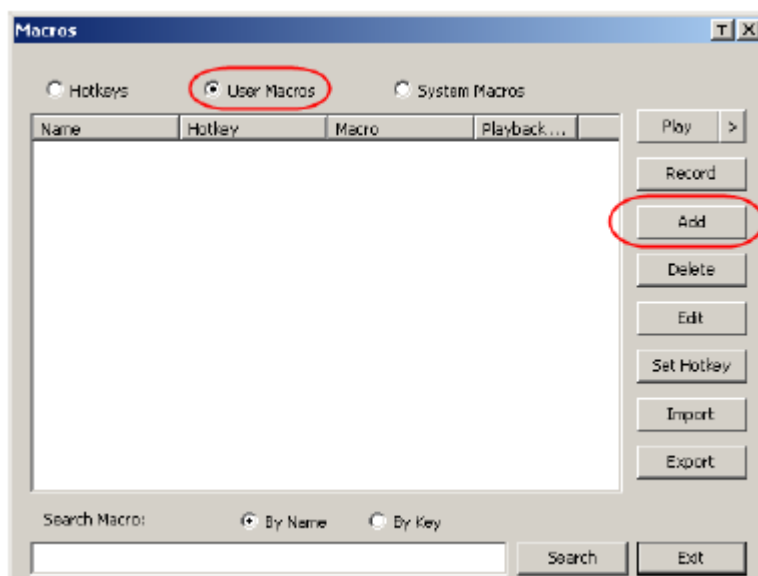
(表は次のページに続きます)

アクション	説明
代替 Ctrl キー	ローカルコンピュータが[Ctrl]キーの組み合わせをキャプチャし、ホットキーがリモートシステムに送信されない場合は、[Ctrl]キーの代わりとして使用するファンクションキーを指定することでリモートシステムに送信することができます。例えば、[F11]キーを[Ctrl]キーの代わりに使用する場合、[F11] + [5]と入力すると、リモートシステムでは[Ctrl] + [5]キーが押されたことになります。デフォルトでは[F11]キーに設定されています。
代替 Alt キー	基本的にキーボードの入力はキャプチャされ、リモートシステムへ送られますが、[Alt] + [Tab]と[Ctrl] + [Alt] + [Del]はローカルコンピュータでのみ動作します。リモートシステムに対して[Alt] + [Tab]と[Ctrl] + [Alt] + [Del]の機能を実行したい場合には、任意のファンクションキーを[Alt]キーの代わりに設定することができます。例えば、[F12]を代替キーにした場合、[F12] + [Tab]と[Ctrl] + [F12] + [Del]と入力します。デフォルトでは[F12]に設定されています。

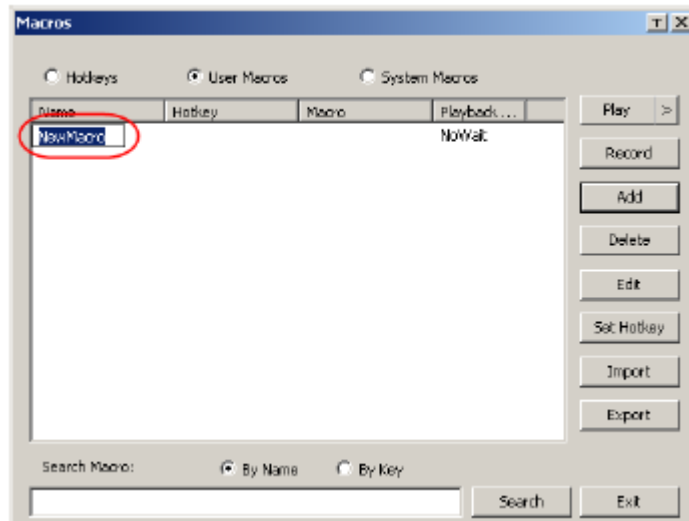
ユーザーマクロ

ユーザーマクロは、リモートサーバーで特定のアクションを実行するのに使用されます。マクロを作成するには以下の手順に従って操作を行ってください。

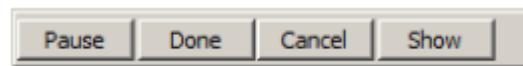
1. 「User Macros」(ユーザーマクロ)ラジオボタンを選択し、「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。



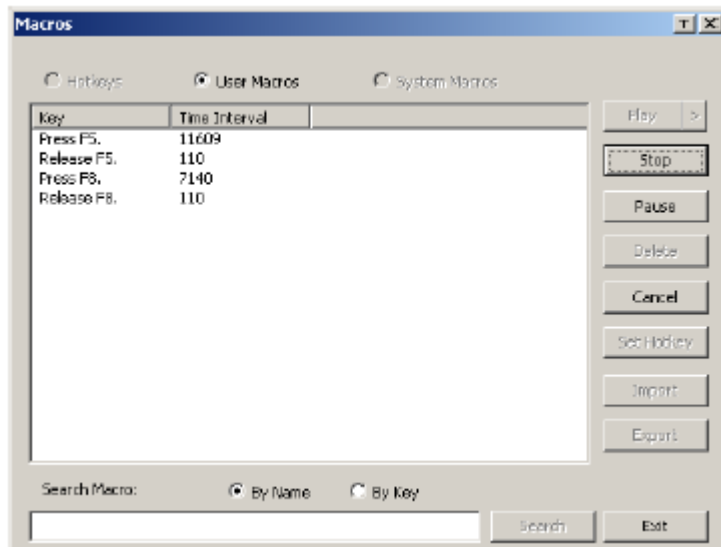
2. 新しいマクロはデフォルトで「New Macro」という名前で作成されるので、必要であれば、ダイアログボックスでこの名前を変更してください。



3. 「**Record**」(記録)をクリックしてください。
ダイアログボックスが終了すると、下図のような小さいパネルが画面左上に表示されます。



4. マクロのキーを押してください。
- ◆ マクロの記録を一時停止する場合は、「**Pause**」(一時停止)をクリックしてください。再開するには、もう一度「**Pause**」(一時停止)ボタンをクリックします。
 - ◆ 「**Show**」(表示する)をクリックするとダイアログが立ち上がり、作成したすべてのキー入力と、それぞれに要した時間が一覧表示されます。

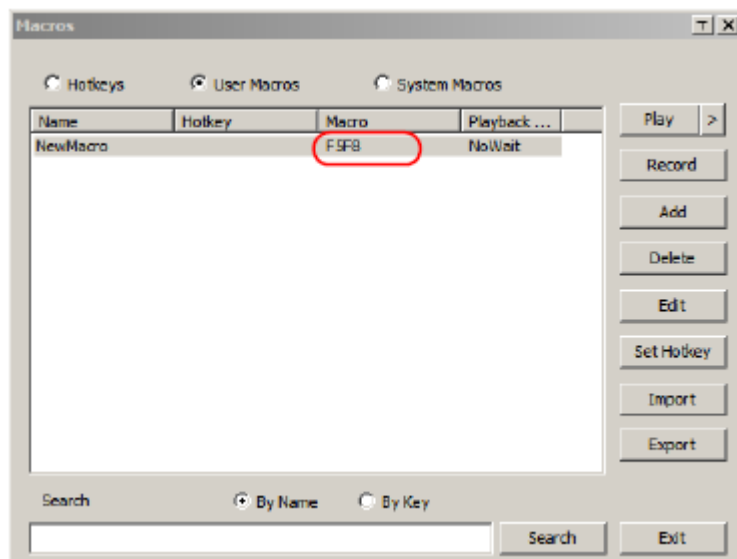


- ◆ 「Cancel」(キャンセル)をクリックすると、すべてのキー入力を取り消します。
- ◆ 入力が完了したら「Stop」(停止)をクリックしてください。これは、手順 5 の「Done」(完了)をクリックするのと同じです。

注意:

- ◆ 大文字や小文字は区別されません。[A]または[a]を入力しても同じ結果となります。
- ◆ マクロを記録する場合は、リモート画面を選択しておいてください。マクロダイアログボックスを選択した状態では記録できません。
- ◆ マクロとして記録できるのは直接入力のキーのみで、代替文字は使用できません。日本語入力が有効になっている場合の文字は使用することができません。例えば、キーボードが日本語で[A]キーを押した場合、日本語入力が ON になっている場合の[あ]の文字は記録されません。

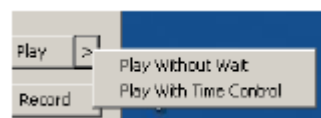
5. 「**Show**」(表示)ダイアログを立ち上げていない場合は、「**Done**」(完了)をクリックしてマクロの記録を終了してください。この時、手順 1 で示した「**Macros**」(マクロ)ダイアログに戻ります。



6. p.104「ホットキー」で示したように、各マクロに対して、ホットキーを設定することができます
7. また、再生モードを割り当てて、「**Play Without Wait**(Nowait)」(すぐに再生)または「**Play with Time Control**」(タイムコントロール再生)のいずれかを選択することもできます。

このダイアログボックスからマクロを実行する場合、マクロの実行方法を指定するオプションがあります。

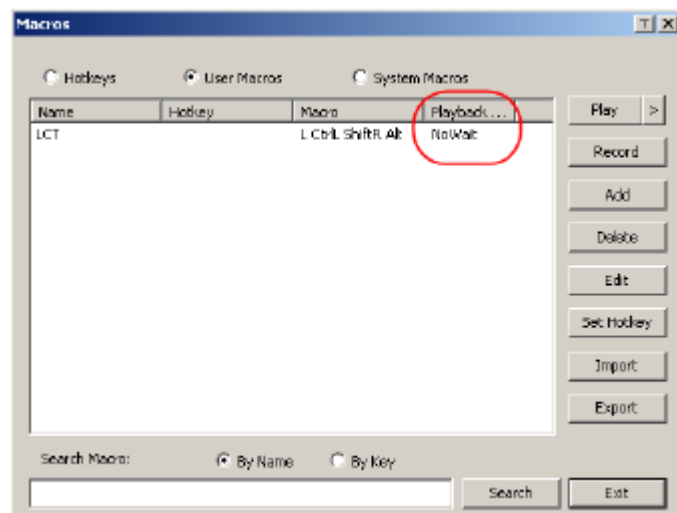
- ◆ 「**Play Without Wait**」(すぐに再生)を選択した場合、マクロは入力キーの遅延時間なしで実行します。
- ◆ 「**Play with Time Control**」(タイムコントロール再生)を選択した場合、マクロを記録した際のキー入力とその時のキー入力時間の間隔を再現しながら実行します。オプションを選択する場合は「**Play**」(再生)ボタンの隣にある矢印ボタンをクリックしてください。
- ◆ 一覧を開かずに「**Play**」(再生)ボタンをクリックすると、マクロはデフォルトの方法で実行されます。デフォルトの選択内容(すぐに実行またはタイムコントロール)が「**Playback**」(再生)列に表示されます。



8. 入力キーを変更する場合は、対象となるマクロを選択し、「**Edit**」(編集)ボタンをクリックしてください。これにより、「**Show**」(表示)を押した時と同様のダイアログボックスが表示されるため、入力キーの種類や順番を変更することができます。

9. 他のマクロを作成する場合も、上記の手順を繰り返してください。

作成したマクロは、下記 3 つの方法のいずれかで実行することができます。



1. アクションに割り当てられたホットキーを使用する(ホットキーを割り当てている場合)。
2. コントロールパネルのマクロリストを開き、対象となるマクロをクリックする(p.102 参照)。
3. このダイアログボックスを開いて、「**Play**」(再生)ボタンをクリックする。

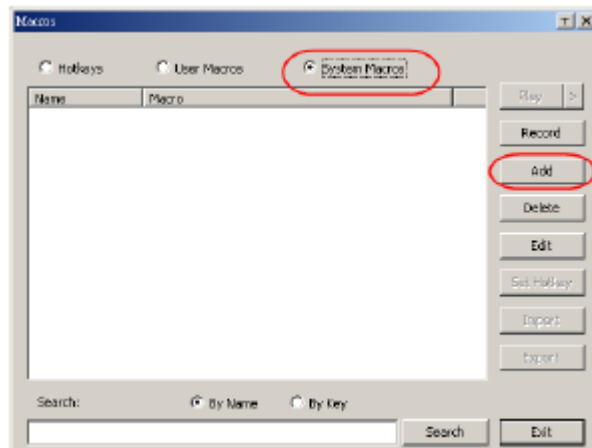
注意: ユーザーマクロは、各ユーザーのローカルクライアントコンピューターに保存されます。したがって、マクロの数、マクロ名の長さや実行ホットキーの構成に制限はありません。

「**Search**」(検索)ボタンを使うと、上部の大きいパネルに表示されるマクロ一覧の内容をフィルタリングして再生や編集を行うことができます。フィルタリングの条件を名前にするかキーにするかをラジオボタンで選択し、検索に使用する文字列をテキストボックスに入力したら、「**Search**」(検索)ボタンをクリックしてください。この文字列に合致するものが、すべて上部パネルに表示されます。

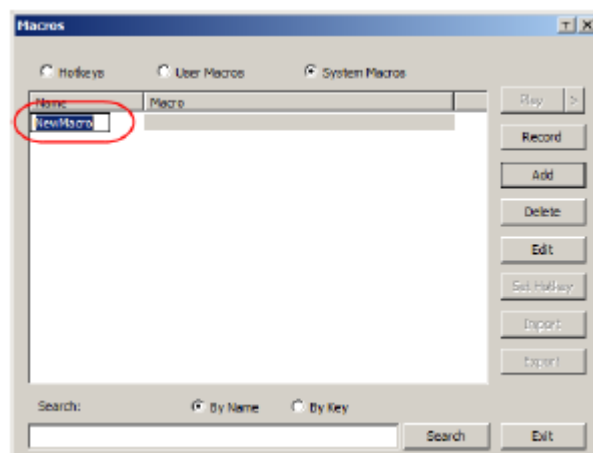
システムマクロ

システムマクロはセッション終了時に実行される終了マクロを作成する際に使用します。例えば、[Windows] + [L]キーをログアウト時に実行するマクロを作成しておくと、ユーザーがその後にデバイスにアクセスした際には必ずリモートデバイスのログイン画面を表示することができるため、セキュリティを強化することができます。マクロを作成するには以下の手順に従って操作を行ってください。

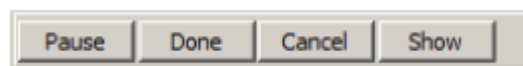
1. 「System Macros」(システムマクロ)ラジオボタンを選択し、「**Add**」(追加)ボタンをクリックしてください。



2. 新しいマクロはデフォルトで「New Macro」という名前で作成されるので、必要であれば、ダイアログボックスでこの名前を変更してください。



3. 「Record」(記録)ボタンをクリックしてください。
ダイアログボックスが終了すると、下図のような小さいパネルが画面左上に表示されます。

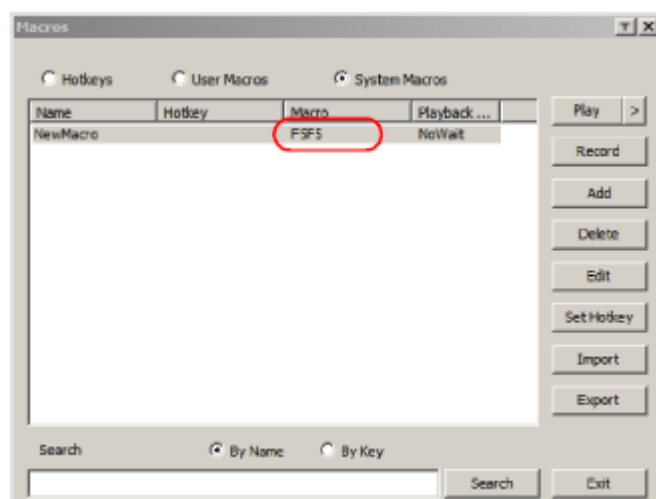


4. マクロのキーを押してください。
- ◆ マクロの記録を一時停止する場合は、「Pause」(一時停止)をクリックしてください。再開するには、もう一度「Pause」(一時停止)ボタンをクリックします。
 - ◆ 「Show」(表示する)をクリックするとダイアログが立ち上がり、作成したすべてのキー入力と、それぞれに要した時間が一覧表示されます(p.111 参照)

注意: ◆ 大文字や小文字は区別されません。[A]または[a]を入力しても同じ結果となります。

-
- ◆ マクロを記録する場合は、リモート画面を選択しておいてください。マクロダイアログボックスを選択した状態では記録できません。
 - ◆ マクロとして記録できるのは直接入力キーのみで、代替文字は使用できません。日本語入力が有効になっている場合の文字は使用できません。例えば、キーボードが日本語で[A]キーを押した場合、日本語入力が ON になっている場合の[あ]の文字は記録されません。
-

5. 「**Show**」(表示)ダイアログを立ち上げていない場合は、「**Done**」(完了)をクリックしてマクロの記録を終了してください。この時、「**Macros**」(マクロ)ダイアログボックスに戻ると、リストには先程入力したシステムマクロキーが表示されます。



6. 入力キーを変更する場合は、対象となるマクロを選択し、「**Edit**」(編集) ボタンをクリックしてください。これにより、「**Show**」(表示)を押した時と同様のダイアログボックスが表示されるため、入力キーの種類や順番を変更することができます。
7. 他のマクロを作成する場合も、上記の手順を繰り返してください。

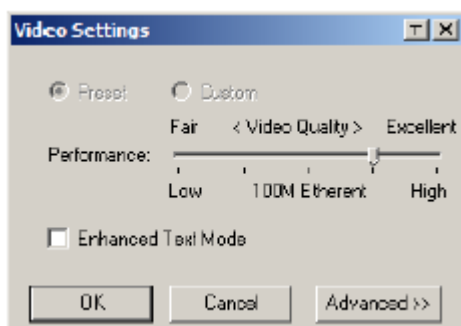
システムマクロを作成すると、CN9000/CN9600/CN9950 のログアウト時にそのマクロを実行することもできます(p.110「システムマクロ」参照)。

-
- 注意:**
1. 検索機能については、p.110 を参照してください。
 2. システムマクロは CN9000/CN9600/CN9950 内部に保存されるため、マクロ名は半角英数字 64 文字以内で、ホットキーの組み合わせは 256 バイト以内(キー1つの入力で通常 3~5 バイト使用)でそれぞれ設定してください。
-



ビデオ設定

「Video Settings」(ビデオ設定)ダイアログボックスでは、モニター上のリモート画面における表示位置および画質の調整を行います。



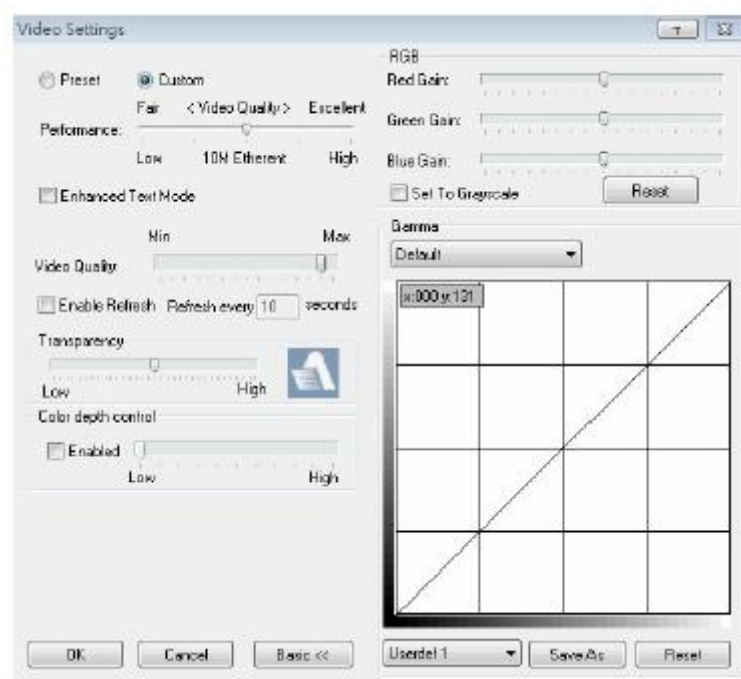
調整オプションは次のとおりです。

オプション	使用方法
	クリックすると、ビデオ設定ダイアログボックスの透明度を調節します。
Performance (パフォーマンス)	ローカルクライアントコンピューターと CN9000/CN9600/CN9950 の間で使用されているインターネット接続のタイプを選択します。CN9000/CN9600/CN9950 はここで選択した項目によって、ビデオ画質と検出許容値の各項目を自動的に調整し、ビデオの表示画質を最適化します。 ネットワークの状態が異なるため、プリセットのオプションでは不都合が生じるかもしれません。そのような場合には、「Customize」(カスタマイズ)を選択し、「Video Quality」(ビデオ画質)と「Detect Tolerance」(検出許容値)のスライダバーを使って、お使いの環境に適した値に調節してください。
Enhanced Text Mode (拡張文字列処理モード)	この項目にチェックを入れると、一部のインターフェースシステム (例: Sun Blade1000 サーバー) に影響するビデオ画面の解像度に関連するビデオ表示の問題を解決できます。
Advanced (詳細設定)	詳細は、p.114 を参照してください。

ガンマ調整

操作を強化したり、リモート表示画面のガンマレベルを調整したりする必要がある場合は、「Advanced」(詳細) ボタンをクリックして、詳細ビデオ設定のガンマ機能を使用してください。

ガンマレベルには、10 種類のプリセットと4種類のユーザー定義レベルがあり、そこから選択することができます。ドロップダウンメニューをクリックして、最適なものを選択してください。



詳細設定画面の追加オプションは次のとおりです。

オプション	使用方法
RGB	スライダーバーをドラッグして RGB(赤、緑、青)の値を調整します。 RGB の値の増加に伴って、画像の RGB 要素も増加します。 「Set to Grayscale」(グレースケールに設定)の項目を有効にすると、 リモート画面をグレースケールで表示します。

(表は次のページに続きます)

オプション	機能
Gamma (ガンマ)	<p>このセクションでは、ビデオ表示のガンマレベルを調節できます。</p> <p>満足いく表示出力が得られるよう、希望する数のポイントで対角線をクリックしてドラッグしてください。</p> <p>上記の方法で変更した値をユーザー定義の設定として保存する場合は「Save As」(名前をつけて保存)をクリックしてください。ユーザー定義の値は最大 4 種類まで保存することができます。保存された値は、後でリストボックスから呼び出すことができます。</p> <p>変更内容を破棄し、ガンマ線を元の状態に戻す場合は、「Reset」(リセット)ボタンをクリックしてください。</p>
Video Quality (ビデオ品質)	<p>スライダーバーをドラッグしてビデオ全体の画質を調整します。値が大きくなるにつれて、画像はより鮮明に、また、ネットワークに転送されるビデオデータの量はより大きくなります。ネットワークのバンド幅によっては、高い値を設定すると逆にレスポンス時間に影響を与える可能性があります。</p>
Enable Refresh (再読込を有効にする)	<p>CN9000/CN9600/CN9950 は、1～99 秒毎に画面を再描画し、ブロックノイズなどの歪みを除去します。「Enable Refresh」(再読込を有効にする)の項目にチェックを入れて、再描画の時間間隔を1～99の整数で入力してください。CN9000/CN9600/CN9950 はここで設定された時間間隔で、画面を再描画します。この機能はデフォルトでは無効です。この機能を有効にするには、「Enable Refresh」(再読込を有効にする)の項目にチェックを入れてください。</p> <p>注意:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ユニットは、マウスの動作が止まったタイミングでインターバル時間の計測を開始します。 2. この機能を有効にするとネットワーク上に送信されるビデオデータの量が増加します。また、設定するインターバル時間の値が小さくなるに従って、ビデオデータの転送頻度が高くなります。この値を小さくしすぎると処理全体のレスポンスに影響を与える可能性がありますので、ご注意ください。
Transparency (透明度)	<p>スライダーバーをドラッグして、コントロールパネルの透明度を調節します。</p>
Color Depth Control (色深度コントロール)	<p>この設定は、色情報の量を調整することによって、ビデオ表示の豊かさを決定します。</p>

変更内容を保存し、ダイアログボックスを終了する場合は「OK」をクリックしてください。

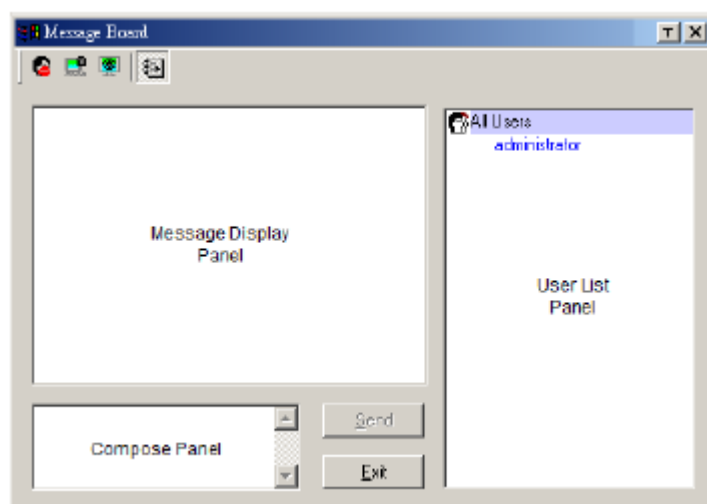
変更内容を破棄し、ダイアログボックスを終了する場合は「Cancel」(キャンセル)をクリックしてください。

注意: 最適な結果を得るには、リモートコンピュータの画面を見ながら設定値の変更を行ってください。







メッセージボード

CN9000/CN9600/CN9950 は、複数ユーザーログインによるアクセス競合の可能性を緩和するために、ユーザーが互いに通信できるメッセージボードを提供しています。



ボタンバー

ボタンバーにあるボタンはトグルボタンです。各ボタンとその機能は下表のとおりです。

ボタン	機能
	チャット機能を 有効/無効 にします。チャット機能が無効になっている場合、メッセージボードに投稿されたメッセージは表示されず、このボタンは網がけされた表示になります。ユーザーがチャット機能を無効にすると、ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されます。
	キーボード/ビデオ/マウスを 占有/解放 します。このボタンを使用して KVM を占有することができます。あるユーザーが KVM を占有している場合、他のユーザーは画面の参照およびキーボード/マウスからの入力ができなくなり、このボタンは網がけされた表示になります。ユーザーが KVM を占有している場合、ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されます。
	キーボード・マウスを 占有/解放 します。あるポートが「Share」(共有)モードに設定されている(p.74「動作モード」参照)場合、このボタンを使用して KM を占有することができます。あるユーザーが KM を占有している場合、他のユーザーは画面の参照は可能ですが、キーボードやマウスからの入力ができなくなります。また、このボタンは網がけされた表示になります。ユーザーがキーボード/マウスを占有していると、ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されます。
	ユーザーリストを 表示/非表示 にします。ユーザーリストを非表示にすると、ユーザーリストパネルが終了します。また、ユーザーリストが表示されている時、このボタンは網がけされた表示になります。

メッセージ表示パネル

ユーザーがメッセージボードに投稿したメッセージ(およびシステムメッセージ)は、このパネルに表示されます。ただし、チャットを無効にすると、ボードに投稿されたメッセージは表示されません。

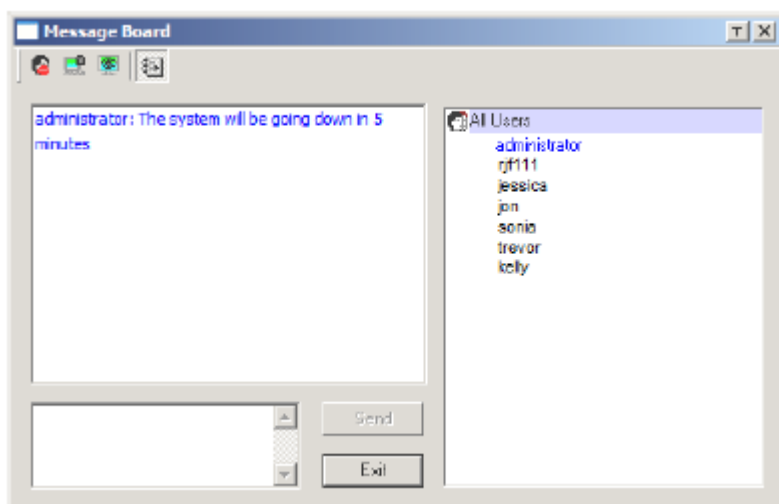
メッセージ編集パネル

メッセージボードに送信したいメッセージをこのパネルで編集してください。そうしたら、「Send」(送信)をクリックするか、「Enter」キーを押して、メッセージをボードに投稿してください。

ユーザーリストパネル

このパネルには、ログインしているすべてのユーザーの名前が表示されます。

- ◆ 自身の名前は青色で、その他のユーザーの名前は黒色でそれぞれ表示されます。
- ◆ デフォルトでは、メッセージはすべてのユーザーに宛に投稿されます。特定のユーザー宛にメッセージを送信したい場合は、宛先となるユーザーを選択してからメッセージを送信してください。
- ◆ 一旦、ユーザーの名前が選択された状態で再び全員宛にメッセージを送信したい場合は、「All Users」(すべてのユーザー)を選択してからメッセージを送信してください。
- ◆ ユーザーがチャット機能を無効にしている場合、機能を無効にしていることを示すアイコンがそのユーザーの名前の前に表示されます。
- ◆ ユーザーがキーボード/ビデオ/マウス、またはキーボード/マウスを占有している場合、デバイスを占有していることを示すアイコンがそのユーザーの名前の前に表示されます。








バーチャルメディア

バーチャルメディア機能を使用すると、ローカルクライアントコンピューター上のドライブ、フォルダー、イメージファイル、またはリムーバブルディスクを表示して、リモートサーバーにインストールされているかのように動作させることができます。この機能を有効にするには、あらかじめ「USB IO Settings」(USB IO 設定)にて、モードを「Virtual Media」(バーチャルメディア)に設定しておいてください(p.87 参照)。

バーチャルメディアは、スマートカードリーダーにも対応しています。これにより、クライアントPCに接続されたリーダーを、リモートサーバーに接続されているのと同様の感覚で操作することができます。

バーチャルメディアのアイコン

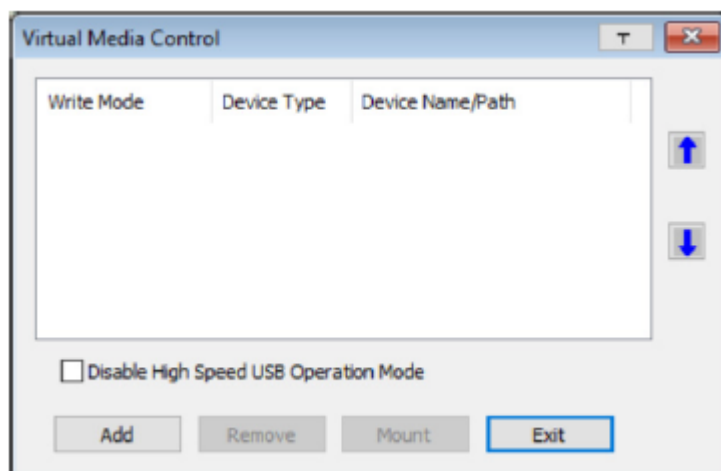
コントロールパネルのバーチャルメディアアイコンは、バーチャルメディア機能が利用可能かどうか、バーチャルメディアデバイスがリモートサーバーにマウントされたかどうかを表します。各アイコンが示す機能の詳細は下表のとおりです。

アイコン	機能
	バーチャルメディア機能が無効または利用できない場合、このアイコンが表示されます。
	バーチャルメディア機能が利用可能である場合、このアイコンが表示されます。このアイコンをクリックするとバーチャルメディアのダイアログボックスを表示します。
	バーチャルメディアデバイスがリモートサーバー側にマウントされていると、このアイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、リダイレクトされているデバイスはすべてマウントが解除されます。

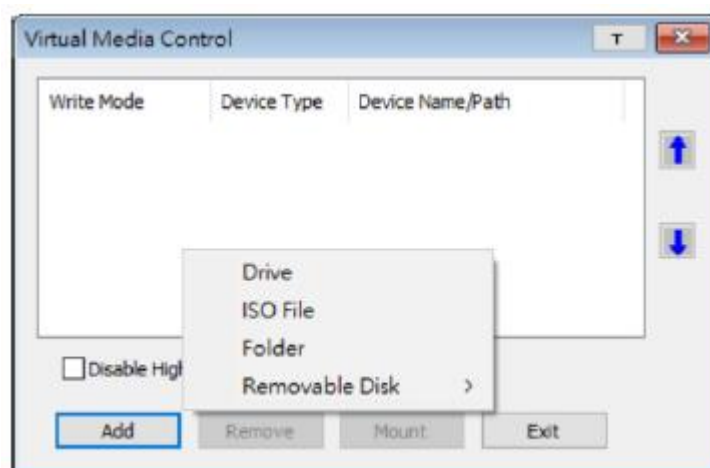
バーチャルメディアのリダイレクト

バーチャルメディアのリダイレクト機能を実行する場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. バーチャルメディアのアイコンをクリックして、「Virtual Media Control」(バーチャルメディア操作)ダイアログボックスを表示してください。



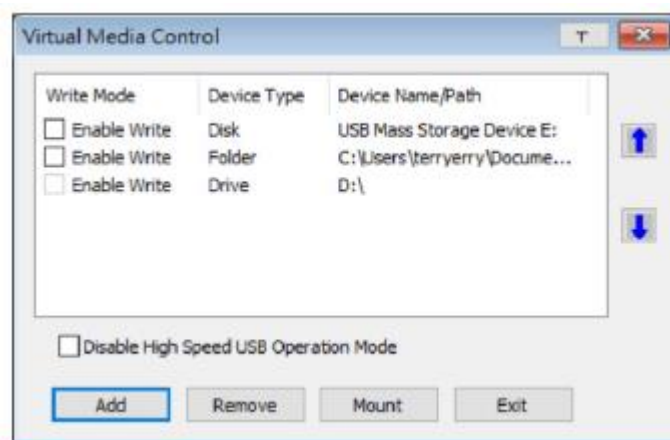
2. 「Add」(追加)ボタンをクリックし、ソースメディアを選択してください。



選択した項目によっては、ドライブ、ファイル、フォルダー、リムーバブルディスクを選択するダイアログボックスが追加で表示されます。各メディアのマウント方法の詳細については、p.178「対応バーチャルメディア」を参照してください。

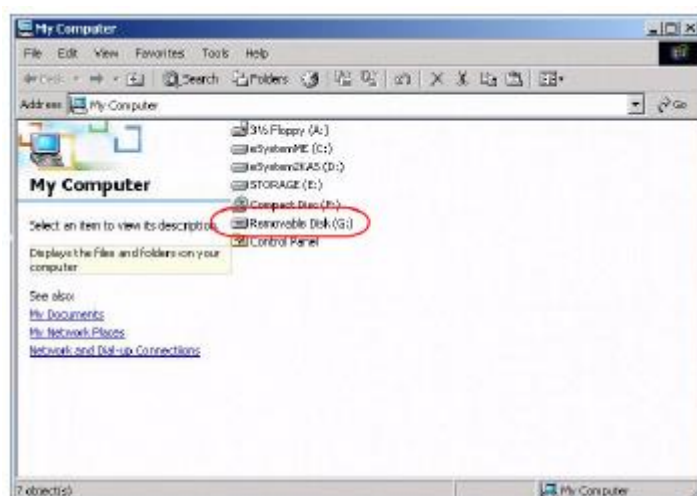
3. ソースメディアを追加する場合は、「Add」(追加)ボタンをクリックして必要となるメディアをすべて選択してください。
バーチャルメディアは最大 3 つまでマウントすることができます。また、リストの上位 3 つの項目は、選択済みのものです。選択された項目の順番を入れ替える場合は、移動対象となるデバイスを選択し、上下の矢印ボタンをクリックしてリスト内で位置を移動させてください。
4. 「Read」(読込)はリモートサーバーにデータを送信することのできるリダイレクトされたデバイスを、また「Write」(書込)はリモートサーバーからのデータが書き込み可能な状態になっているリダイレクトされたデバイスをそれぞれ指しています。デフォルトの設定では、**書き込みは無効**

になっています(読み取り専用)。リダイレクトされたデバイスの読み取りと書き込みを同時に許可する場合は、「Enable Write」(書き込を有効にする)の項目にチェックを入れてください。



-
- 注意:**
1. リダイレクトされたデバイスに書き込みができない場合、またはユーザーに書き込みの操作権限がない場合、リスト中ではグレーで表示され、選択不可になります。
 2. 本製品が対応しているバーチャルメディアの種類については、p.178「対応バーチャルメディア」を参照してください。
-

5. リストから項目を削除する場合は、対象となる項目を選択してから、「**Remove**」(削除)ボタンをクリックしてください。
6. ソースメディアの選択後に「**Mount**」(マウント)ボタンをクリックすると、ダイアログボックスは終了します。選択されたバーチャルメディアのデバイスはリモートシステムにリダイレクトされ、リモートシステムのドライブ、ファイル、およびフォルダーとして表示されます。



マウントされると、そのメディアがあたかもリモートサーバー上に存在するように扱うことができるため、ファイルをリモートサーバーにドラッグ&ドロップしたり、リモートシステムのファイルを開いて編集後にリダイレクトされたメディアに保存したりすることができます。

リダイレクトされたメディアに保存したファイルは、実際にはローカル側のファイルシステムに保存されます。また、リダイレクトされたメディアからドラッグしたファイルは、実際にローカルシステム側から取得することになります。

7. リダイレクトを終了するには、コントロールパネルを表示してバーチャルメディアのアイコンをクリックしてください。そうすると、マウントされたデバイスはすべて自動的にマウントが解除されます。

スマートカードリーダー

注意: この機能は Win クライアントビューワーまたは Windows クライアント AP の使用時にのみ利用可能です。

スマートカードリーダー機能を使うと、ローカルクライアントコンピューターの USB ポートに接続されたリーダーをリダイレクトし、リモートサーバーに接続されているかのように見せることができます。スマートカード(コモンアクセスカードなど)の目的の 1 つは、ローカルクライアントからリモートサーバーへの認証を許可することです。

スマートカードリーダーがローカルクライアントコンピューターに接続されている場合、このエントリは「**Virtual Media Control**」(バーチャルメディア操作)ダイアログボックスを起動し「**Add**」(追加)ボタンをクリックした時に表示されます。



メニューから適切なものを選択したら、「**Mount**」(マウント)をクリックしてリダイレクトを完了させてください。



ズーム

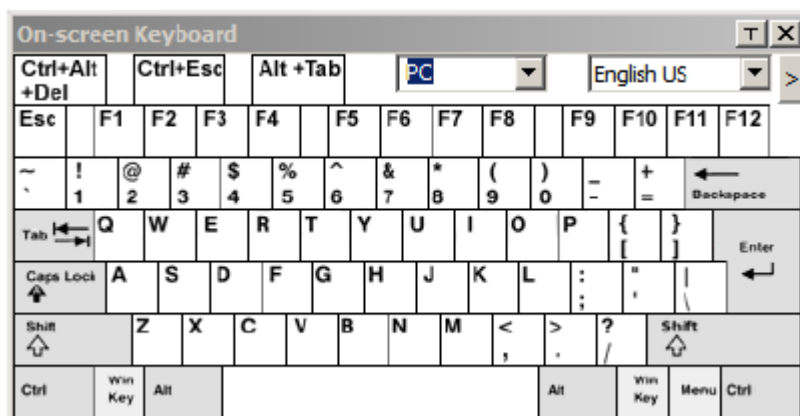
ズームアイコンは、リモートビューウィンドウのズーム倍率を制御します。リモートビューのウィンドウをズーム表示します。設定内容は以下のとおりです。

設定	説明
100%	リモートビューのウィンドウを 100%の倍率で表示します。
75%	リモートビューのウィンドウを 75%の倍率で表示します。
50%	リモートビューのウィンドウを 50%の倍率で表示します。
25%	リモートビューのウィンドウを 25%の倍率で表示します。
1:1	リモートビューのウィンドウを 100%の倍率で表示します。この設定と100%設定の違いは、リモートビューウィンドウのサイズが変更されても、その内容はサイズ変更されず、元のサイズのままになることです。表示されていない部分を操作したい場合は、マウスをウィンドウの端に移動させ、画面をスクロールしてください。



オンスクリーンキーボード

CN9000/CN9600/CN9950 は、サポートされている各言語のすべての標準キーとともに、複数の言語で使用可能なオンスクリーンキーボードをサポートしています。このアイコンをクリックすると、オンスクリーンキーボードがポップアップ表示されます。

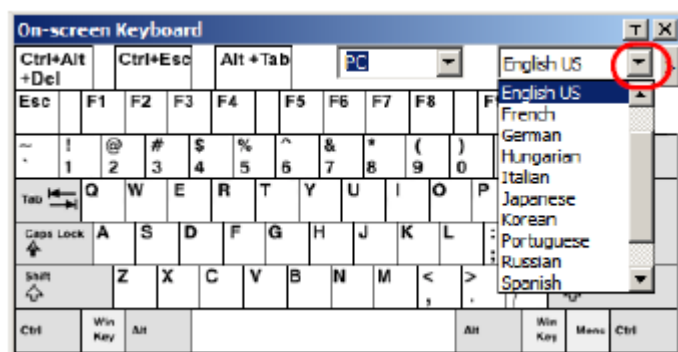


オンスクリーンキーボードの主な利点の 1 つは、リモートシステムとローカルシステムのキーボード言語が同じでない場合、どちらのシステムの構成設定も変更する必要がないことです。ユーザーは画面上のキーボードを呼び出すだけで、アクセスしているポートでコンピューターが使用している言語を選択し、画面上のキーボードを使用して通信することができます。

注意: オンスクリーンキーボードの操作はマウスで行ってください。実際のキーボードで操作することはできません。

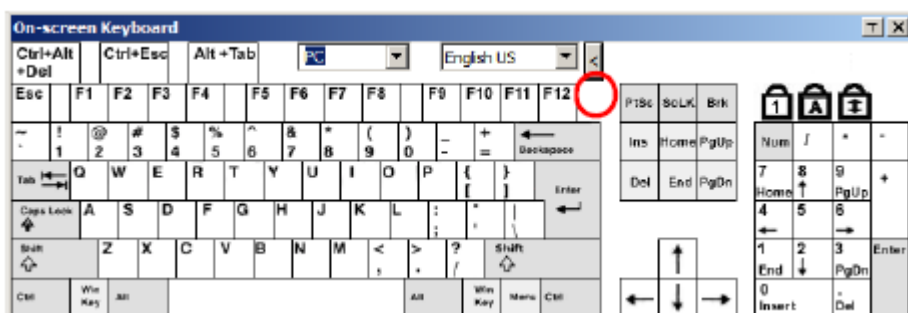
言語を変更するには、以下の手順で操作を行ってください。

1. 現在選択されている言語の隣にある三角ボタンをクリックし、リストを展開してください。



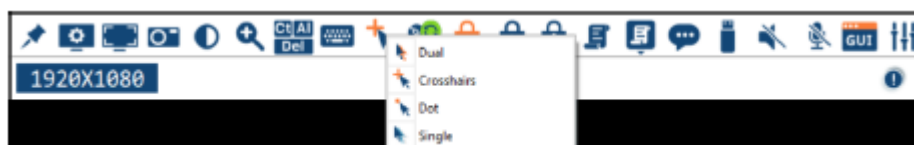
2. リストから新しい言語を選択してください。

展開したオンスクリーンキーボードのキーの表示/非表示を切り替えるには、言語選択リストの右隣にある矢印ボタンをクリックしてください。



マウスポインターの種類

CN9000/CN9600/CN9950 は、リモート画面で使用するマウスカーソルのポインターを数種類提供しています。ポインターを変更する場合は、アイコンをクリックして、リストからポインターを選択してください。





-
- 注意:**
1. ポートにアクセスする前に Windows ビューワーで利用できるポインターは、デュアルと十字のみです。ポートにアクセスすると、3 種類のポインターが使用可能になります。
 2. シングルポインターは、Java クライアントビューワーや Java クライアント AP では使用できません。
 3. シングルポインターを選択すると、マウスポインターは「マウス表示の切替」のホットキーを実行した時と同じ状態になります(p.105 参照)。
 4. コントロールパネルのアイコンは、現在使用しているポインターの種類に応じて変わります。
-



マウスダイナシンクモード

このアイコンをクリックすると、ローカルとリモートのマウスポインターの同期を自動と手動のどちらで行うかを選択することができます。

ツールバーのアイコンは、同期モードの状態を次のように示します。

アイコン	機能
	このアイコンの緑色のマークは、マウスダイナシンク機能が使用可能で、かつ 有効 であることを示します。これは、マウスダイナシンクが使用可能な場合のデフォルト設定です。
	このアイコンの赤いマークは、マウスダイナシンク機能は使用可能ではあるものの、 無効 であることを示します。

マウスダイナシンクが使用可能な場合、アイコンをクリックすると有効または無効が切り替わります。マウスのダイナシンクモードを無効にする場合は、次のセクションで説明する手動同期の手順を実行する必要があります。

マウスの自動同期(ダイナシンク)

マウスのダイナシンク機能は、リモート/ローカルマウスのポインターを自動的に同期します。これにより、両者の動きを定期的に再同期する手間が軽減されます。

手動設定によるマウス同期

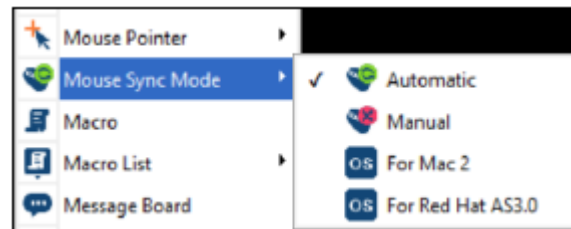
自動同期のマウスダイナシンクではなく、手動のマウス同期を行い、かつローカルとリモートのマウスポインターが同期を失った場合、いくつかの方法で再同期することができます。

1. 「**Adjust Mouse**」(マウス調整)ホットキーを使用して、マウス調整機能を起動してください(詳細は p.105「マウスの調整」参照)。
2. 画面の四隅にマウスポインターを動かしてください(動かす順序は問いません)。
3. 画面上のコントロールパネルをドラッグして別の位置に移動させてください。
4. 製品に接続されているコンピューターのうち、マウスの同期に問題あるものを対象に、マウスポインターのオプション(速度、精度)の設定を行ってください。手順の詳細は p.175「その他のマウス同期方法」を参照してください。

-
- 注意:**
1. マウスダイナシンクが使用できない時は、一度セッションを終了してから再度ビューワーを立ち上げて使用できるか、お試しください。
 2. まれにビューワー起動時に USB デバイスの認識が失敗することがあります。
-

Mac/Linux の環境における注意事項

- ◆ Mac OS バージョン 10.4.11 以降をお使いの場合、マウスダイナシンク機能が有効であれば、別の方法でダイナシンク機能の設定を行うことができます。デフォルト設定の同期方法で十分な結果が得られなかった場合は、「**Mac 2**」の設定をお試しください。「Mac 2」の項目を選択する場合は、コントロールパネルのテキスト部分を右クリックし、「Mouse Sync Mode」(マウスシンクモード)→「Automatic for Mac 2」(Mac2 用に自動同期)を選択してください。

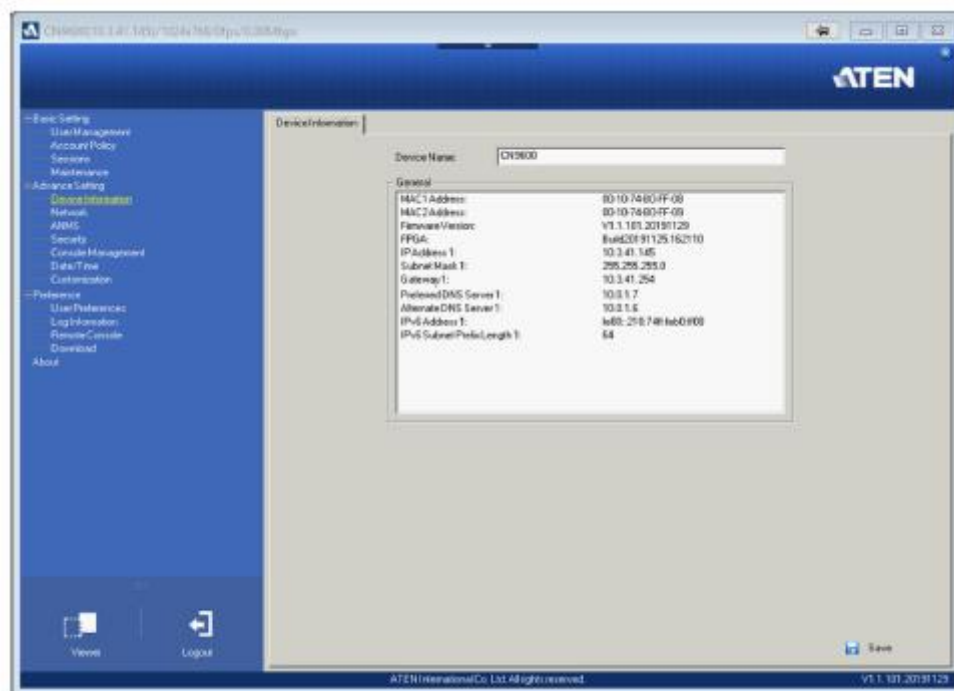


- ◆ Linux をお使いの場合、ダイナシンクモードはサポートされませんが、マウスシンクモードメニュー(Red hat AS 3.0)の設定を行うことで同期が可能です。AS 3.0 の環境で USB タイプのコンピューターモジュール(前頁の注意書き参照)を使用し、デフォルトのマウス同期の方法では十分な結果が得られなかった場合は、Red hat AS3.0 の設定をお試しください。ただし、上記のいずれの場合においても、次のセクション記載の手動によるマウス同期の方法で設定を行う必要があります。



GUI を開く(設定)

ビューワベースで設定を行うには、「Open GUI」(GUI を開く)のアイコンをクリックします。

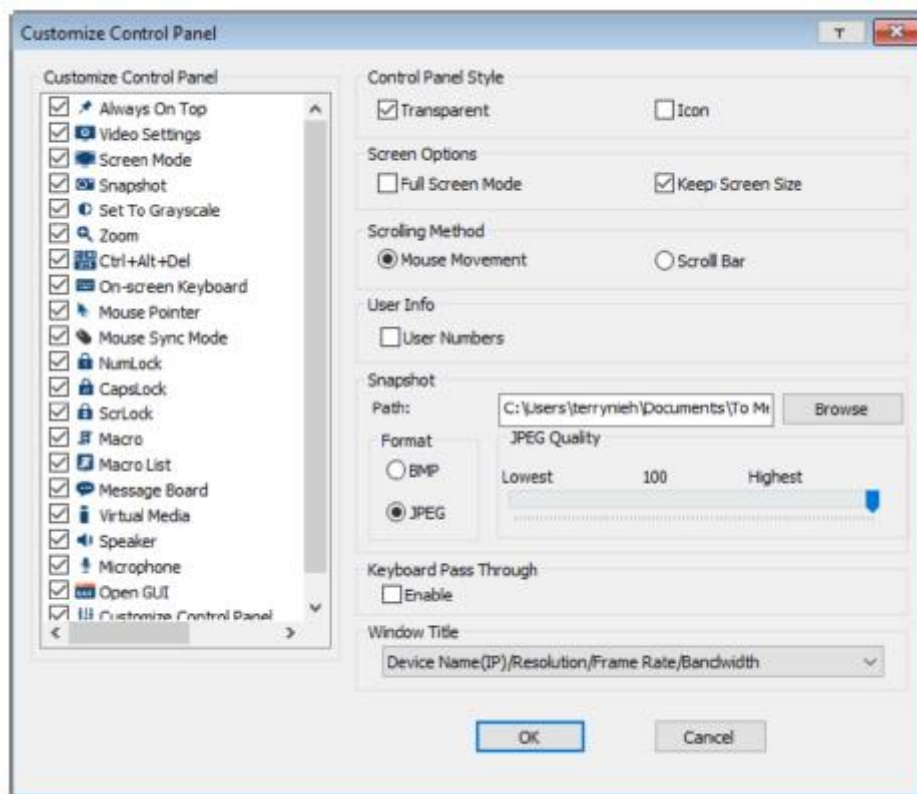


この画面で利用できるサイドバーのメニュー項目は、ユーザーの操作権限に基づいています。これらの機能の使用方法については、p.45「第4章 設定方法」を参照してください。



コントロールパネルのカスタマイズ

コントロールパネルのカスタマイズのアイコンをクリックすると、コントロールパネルに表示するアイコンやコントロールパネルの外観の設定を行うダイアログボックスが表示されます。



ダイアログボックスは主に 5 つのセクションから構成されています。各部分の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
Customize Control Panel (コントロールパネルのカスタマイズ)	コントロールパネルに表示するアイコンを選択することができます。
Control Panel Style (コントロールパネルのスタイル)	◆ 「Transparent」(透明)の項目にチェックを入れると、コントロールパネルが半透明になり、下にあるオブジェクトを確認することができます。 ◆ 「Icon」(アイコン)の項目にチェックを入れると、コントロールパネルの上にマウスを置くまでコントロールパネルがアイコンとして表示されます。マウスをアイコンの上に置くと、パネル全体が表示されます。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Screen Options (画面オプション)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「Full Screen Mode」(フルスクリーンモード)の項目にチェックが入っている場合、リモート画面はお使いのモニターにフルサイズで表示されます。 ◆ 「Full Screen Mode」(フルスクリーンモード)の項目にチェックが入っていない場合、リモート側の画面はローカルデスクトップのプログラムのようにウィンドウ形式で表示されます。リモート画面がウィンドウに収まりきらない大きさの場合は、スクロールバーが表示されます。 ◆ 「Keep Screen Size」(画面サイズを保持する)の項目にチェックが入っている場合、リモート画面のサイズは変更されません。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ リモート側の画面の解像度がローカルモニターの画面の解像度より小さい場合、リモート側のデスクトップ画面はウィンドウ形式で画面の中央に表示されます。 ➤ リモート側の画面の解像度がローカルモニターの画面の解像度よりも大きい場合、リモート側のデスクトップ画面はローカルモニターの大きさに合わせてサイズ調整されます。 ◆ 「Keep Screen Size」(画面サイズを保持する)の項目にチェックが入っていない場合、リモート側のデスクトップ画面はローカルモニターの解像度に合わせてサイズ変更されます。
Scrolling Method (スクロール方法)	<p>リモート画面の表示がモニターよりも大きい場合、画面外の領域にスクロールする方法を選択することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「Mouse Movement」(マウスの動き)を選択すると、マウスポインターを画面の境界に移動したときに画面がスクロールします。 ◆ 「Scroll Bar」(スクロールバー)を選択すると、画面の境界線の周りに表示されたスクロールバーを使用して画面外の領域にスクロールすることができます。
User Info (ユーザー情報)	<p>「User Numbers」(ユーザー数)の項目にチェックが入っている場合、現在CN9000/CN9600/CN9950 にログインしているユーザーの合計がコントロールパネルの 2 行目にある解像度の隣に表示されます(表示例は p.100 のコントロールパネルの図を参照)。</p>

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Snapshot (スナップショット)	<p>この部分は、CN9000/CN9600/CN9950 の画面キャプチャに関連する設定項目を定義します(詳細は p.100「Windows/Java クライアントのコントロールパネル」のスナップショットを参照)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「Path」(パス)は、キャプチャした画面が自動的に保存されるディレクトリを選択できます。パスを指定する場合は、「Browse」(参照)ボタンをクリックし、対象となるフォルダーをフォルダーの選択ダイアログから選択して「OK」ボタンをクリックしてください。ここでディレクトリを指定しない場合、スナップショットはデスクトップに保存されます。 ◆ キャプチャした画面のイメージの保存形式(BMP、JPEG)をラジオボタンで選択してください。 ◆ JPEG を選択した場合は、キャプチャした画像の画質をスライダーバーで調整することができます。画質を上げるとより鮮明な画像になりますが、ファイルサイズが大きくなります。
Keyboard Pass Through (キーボードパススルー)	<p>この項目が有効になっていると、[Alt] + [Tab]のキー入力のリモートデバイスに送られて実行されます。この項目が有効になっていない場合は、[Alt] + [Tab]のキー操作がローカルクライアントコンピューター上で実行されます。</p>
Window Title (ウィンドウタイトル)	<p>ドロップダウンメニューを使用して、ウィンドウタイトルに表示させるリモートサーバー情報を選択してください。</p>









Web クライアントのコントロールパネル

Web クライアントのコントロールパネルは、下図のように Windows クライアントのコントロールパネルを簡易的にしたものです。






ただし、Web クライアントにおいて OSD ホットキーはサポートされていません (p.89「ユーザー設定」参照)。



機能

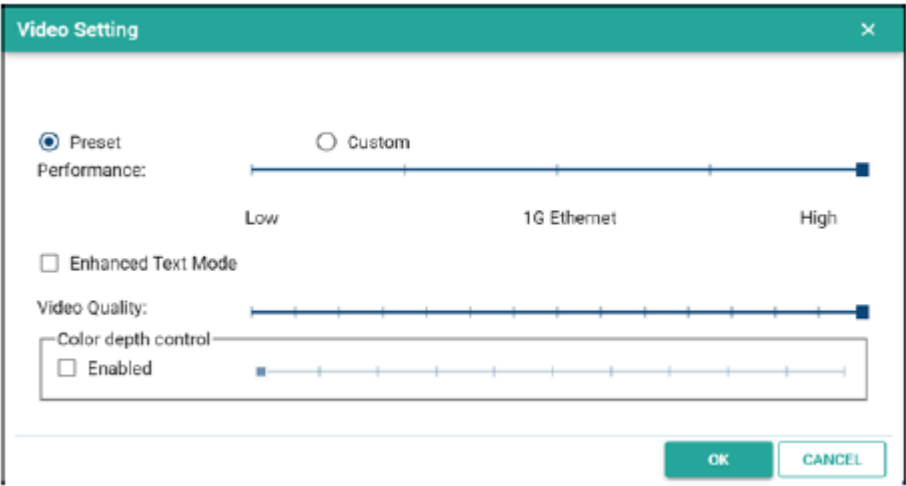
アイコン	機能
	これはトグルボタンです。クリックすると、コントロールパネルを常に他の画面要素の上に表示します。もう一度クリックすると、通常の状態に戻します。
	クリックすると、「Video Settings」(ビデオ設定) ウィンドウを表示します (詳細は p.134「Web クライアントのビデオ設定」参照)。
	ビデオの自動同期操作を実行します。
	スクリーンモードのドロップダウンメニューを表示します。このメニューでは、フルスクリーンモードを使用するのか、ウィンドウに合わせるのかを選択することができます。
	クリックすると、リモート画面の表示をカラーとグレースケールで交互に切り替えます。
	※パネルアレイモードは、CN9000/CN9600/CN9950 ではご利用いただけません。
	クリックすると、利用可能なオンラインポートのドロップダウンメニューを呼び出し、接続対象となるポートを選択することができます。
	クリックすると、[Ctrl] + [Alt] + [Delete] の信号がリモートシステムに送信されます。

(表は次のページに続きます)

アイコン	機能
	クリックすると、オンスクリーンの英語キーボードを起動します(詳細は p.135「Web クライアントのオンスクリーンキーボード」を参照)。
	クリックすると、マウスポインターの種類を選択します。 注意: このアイコンは、選択されたマウスポインターの種類に応じて変わります (p.135「Web クライアントのマウスポインターの種類」参照)。
	クリックすると、マウスの同期モードのメニューを表示します(詳細は p.137「Web クライアントのマウス同期モード」を参照)。
	クリックすると、「Virtual Media」(バーチャルメディア)ダイアログボックスを表示します。アイコンの表示は、バーチャルメディアの状態に応じて変わります(詳細は p.119「バーチャルメディア」を参照)。
	クリックすると、リモートサーバーで出力された音声をクライアント側のスピーカーで出力するか、出力を OFF にするかを切り替えることができます。スピーカーが OFF になっていると、アイコンに禁止マークが表示されます。

Web クライアントのビデオ設定

このアイコンをクリックすると、Web クライアントのビデオ設定画面が表示されます。



調整オプションは次のとおりです。

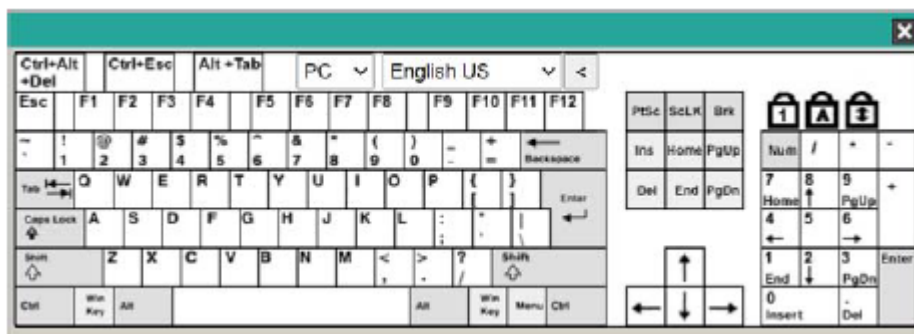
オプション	使用方法
Performance (パフォーマンス)	ローカルクライアントコンピューターが使用するインターネット接続のタイプを、スライダーバーを使って選択します。 CN9000/CN9600/CN9950 はこの設定値によって、ビデオ画質と検出許容値の各項目を自動的に調整し、ビデオの表示画質を最適化します。 ネットワークの状態は変化するため、プリセットのオプションでは不都合が生じるかもしれません。そのような場合には、「Advanced」(詳細)を選択し、「Video Quality」(ビデオ画質)のスライダーバーを使って、お使いの環境に適した値に調節してください。
Enhanced Text Mode (拡張文字列処理モード)	この項目にチェックを入れると、一部のインターフェースシステム (例:Sun Blade1000 サーバー) に影響するビデオ画面の解像度に関連するビデオ表示の問題を解決できます。ディスプレイによっては、この設定を行うことでイメージ色を改善することができる場合があります。 デフォルト YUV : 4:1:1 拡張文字列処理モード YUV : 4:4:4

(表は次のページに続きます)

オプション	使用方法
Video Quality (ビデオ品質)	スライダーバーをドラッグしてビデオ全体の画質を調整します。値が大きくなるにつれて、画像はより鮮明に、また、ネットワークに転送されるビデオデータの量はより大きくなります。ネットワークのバンド幅によっては、高い値を設定すると逆にレスポンス時間に影響を与える可能性があります。
Color Depth Control (色深度コントロール)	この設定は、色情報の量を調整することによって、ビデオ表示の豊かさを決定します。

Web クライアントのオンスクリーンキーボード

このアイコンをクリックすると、オンスクリーンの英語キーボードを起動します。



Web クライアントのマウスポインターの種類

CN9000/CN9600/CN9950 は、リモートディスプレイで動作するマウスポインターのオプションを複数提供しています。このアイコンをクリックすると、利用可能なオプションから選択することができます。



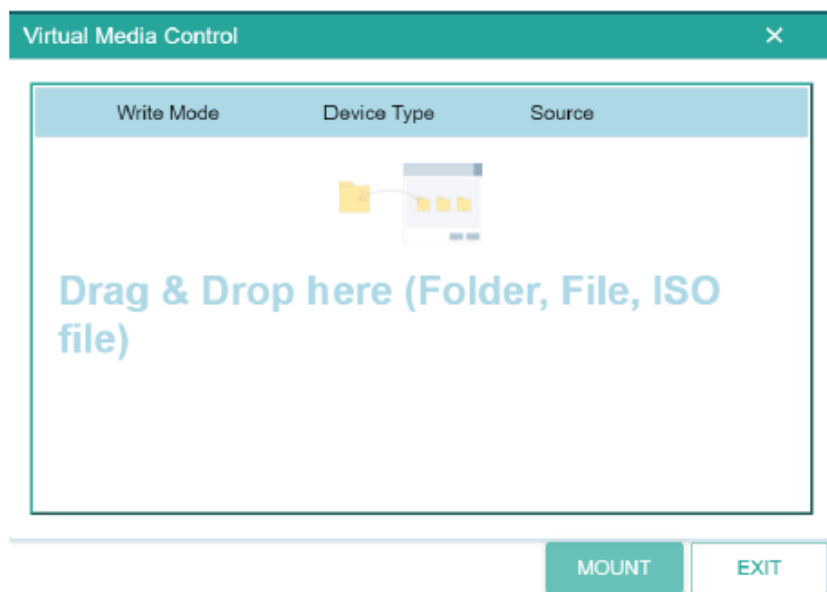
-
- 注意:**
1. 利用可能なオプションはブラウザによって異なります。例えば、Internet Explorer ではデュアルと十字が、Chrome ではデュアルと十字とシングルが、それぞれ利用可能です。
 2. コントロールパネルのアイコン表示は、選択したポインターに応じて変わります。
-

バーチャルメディア

バーチャルメディアデバイスをセットアップするには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. **バーチャルメディア**アイコンをクリックして、「Virtual Media Control」(バーチャルメディア操作)画面を起動してください。

注意: Web ブラウザーに Internet Explorer を使用している場合、サポートされるのは ISO ファイルのみです (p.119「バーチャルメディア」参照)。

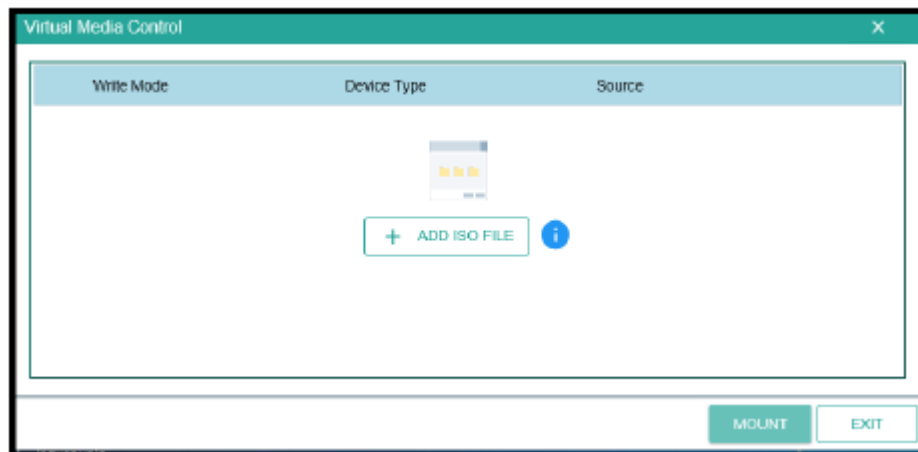


2. 選択したファイルを、「Virtual Media Control」(バーチャルメディア操作)ダイアログボックスにドラッグ&ドロップしたら、「Mount」(マウント)をクリックしてください。
3. リダイレクトを終了するには、バーチャルメディアアイコンをクリックしてください。そうすると、マウントされているデバイスが、すべて自動的にマウント解除されます。

Internet Explorer を介したバーチャルメディアの追加

Internet Explorer を使ってバーチャルメディアデバイスをセットアップするには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. バーチャルメディアアイコンをクリックして、「Virtual Media Control」(バーチャルメディア操作)画面を起動してください。



2. 「+ ADD ISO FILE」をクリックして ISO ファイルを選択したら、「Open」(開く)をクリックしてください。
3. 「Mount」(マウント)をクリックして、バーチャルメディアデバイスをマウントしてください。
4. リダイレクトを終了するには、バーチャルメディアアイコンをクリックしてください。そうすると、デバイスのマウントが、すべて自動的に解除されます。

Web クライアントのマウス同期モード

ローカルとリモートのマウスポインターは、手動でも自動でも同期させることができます。詳細は p.126「マウスダイナシンクモード」を参照してください。

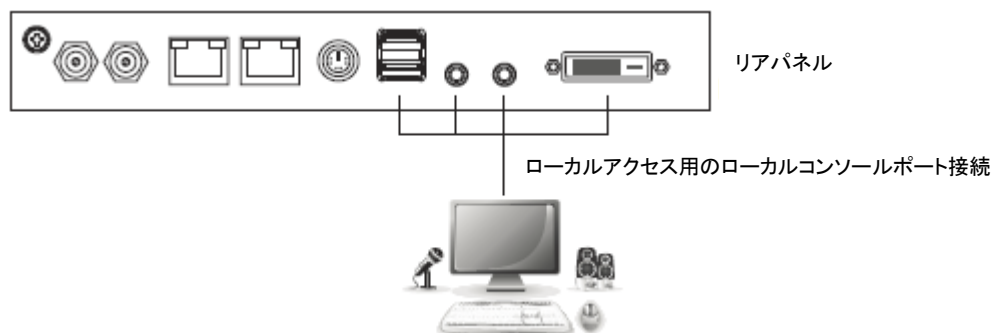
第7章

ローカルアクセス

CN9000/CN9600/CN9950 には、ローカルコンソールのキーボード/マウス/モニター、またはローカル側ののラップトップアプリケーション(AP)プログラムから直接アクセスすることができます。

ローカルコンソール

CN9000/CN9600/CN9950 が接続されているサーバー/コンピューターに直接アクセスするには、キーボード、マウス、モニターをCN9000/CN9600/CN9950 のローカルコンソールポートに接続します。以下は CN9600 を例にした図です。

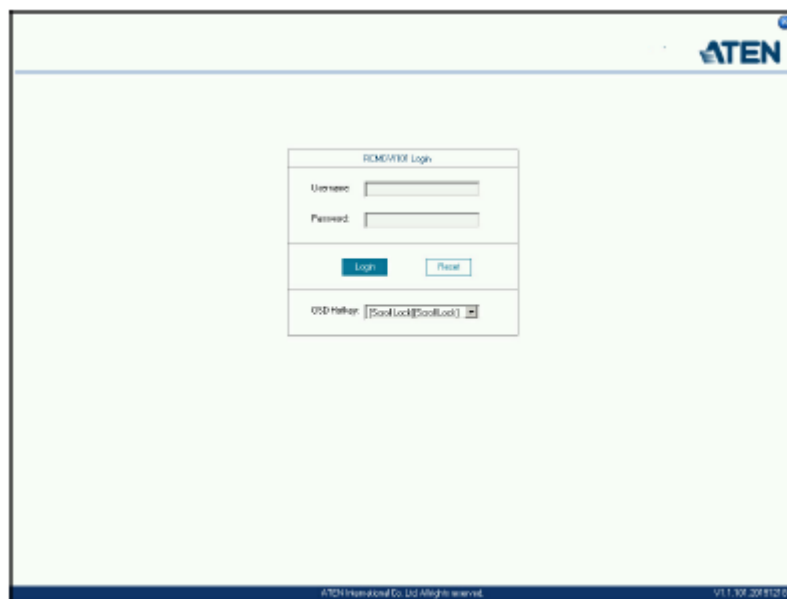


このアクセス方法は、サーバー/コンピューターを直接使用するのに似ています。
CN9000/CN9600/CN9950 は、ローカルコンソールとリモートコンソールの両方に信号を分配することができます。

- ◆ デフォルトでは、ローカルコンソールが優先されます。
- ◆ ローカルコンソールユーザーとリモートコンソールユーザーの同時使用を設定するには、p.88「マルチユーザーモード」を参照してください。

CN9000/CN9600/CN9950 のリアパネルにあるスイッチを使用して、USB Mini ポートの操作方法を選択することができます。CN9000/CN9600/CN9950 の設定を行いたい場合は、設定画面の OSD ホットキー（デフォルトは[Scroll Lock] [Scroll Lock])を押してください。

そうすると、最初にログイン画面が表示されます。

The image shows a web-based login interface for ATEN. At the top right is the ATEN logo. The main content area is light green and contains a white login box titled "REMOTE Login". Inside this box, there are two input fields: "Username:" and "Password:". Below these fields are two buttons: "Login" (in blue) and "Forgot" (in white). At the bottom of the login box is a "USB Hider" dropdown menu with the text "[Serial Lock][Serial Lock]" and a small arrow icon. The footer of the page is dark blue and contains the text "© 2011 ATEN International Co., Ltd. All rights reserved." on the left and "V01.1.001.20110216" on the right.

ユーザー名とパスワードを入力すると、設定画面に進みます。

注意： アドミニストレーターとして初回ログインを行う場合、デフォルトユーザーのアカウント(administrator)とパスワード(password)でログインしてください。セキュリティ上の理由から、ログインパスワードの変更を求めるプロンプトが表示されます。このパスワードには、ログインパスワードと異なる文字列を設定してください。

ローカル OSD

設定画面は、Web ブラウザー版と同じですので、詳細は p.45「第 4 章 設定方法」を参照してください。ローカルコンソールに接続されているスピーカーやマイクを有効/無効にするには、OSD の右

下にあるアイコン()を押してください。



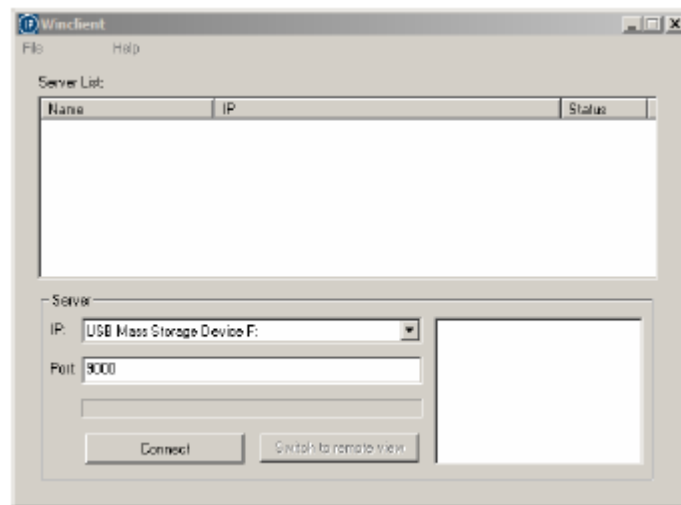
ラップトップ USB コンソール(LUC)

製品本体にある USB Mini-B ポートは、ノートパソコンへのアクセス用のラップトップ USB コンソールポートとして使用できます。これにより、ノートパソコンをポートに接続するだけで、ローカル側から直接 CN9000/CN9600/CN9950 を簡単に設定することができます。ノートパソコンがあれば、システムにアクセスして設定を変更することができます。

この機能を有効にするには、ブラウザー設定で「Advanced Settings」(詳細設定) → 「Customization」(カスタマイズ) → 「USB IO Settings」(USB IO 設定) → 「Mode」(モード)にあるドロップダウンメニューをクリックし、「Laptop USB Console(LUC) Port」(ラップトップ USB コンソール(LUC)ポート)を選択してください。

LUC を操作するためのラップトップアプリケーション(AP)プログラムは CN9000/CN9600/CN9950 のファームウェアに組み込まれているため、ダウンロードする必要はありません。製品本体にアクセスするには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 製品パッケージに同梱されている USB 2.0 ケーブル(USB Type-A → USB Mini-B)を使用して、ノートパソコンを CN9000/CN9600/CN9950 の USB Mini-B ポートに接続してください(p.36 「ハードウェアのセットアップ」参照)。
2. CN9000/CN9600/CN9950 は、ノートパソコンのファイルシステムにバーチャルドライブとして表示されます。お使いのハードディスクで Windows クライアントまたは Java クライアントがあるフォルダーに移動し、どちらか選択したら、アイコンをダブルクリックしてください。そうすると、アプリケーションの接続画面が下図のように表示されます。

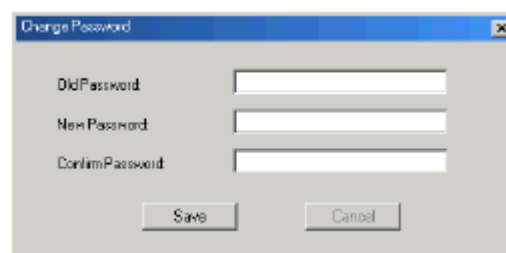


3. 「USB Mass Storage Device」(USB マスストレージデバイス)を選択したら、「**Connect**」(接続)をクリックしてください。



4. ユーザーネーム(デフォルトは administrator)とパスワード(デフォルトは password)を入力したら、「**OK**」をクリックしてください。
5. 接続に成功すると、「**Remote View**」(リモート表示)ボタンがアクティブになります。
6. 「**Remote View**」(リモート表示)をクリックして、ラップトップコンソールのメイン画面を表示してください。

システムに初めてログインする場合は、システム側からパスワードの変更が求められます。



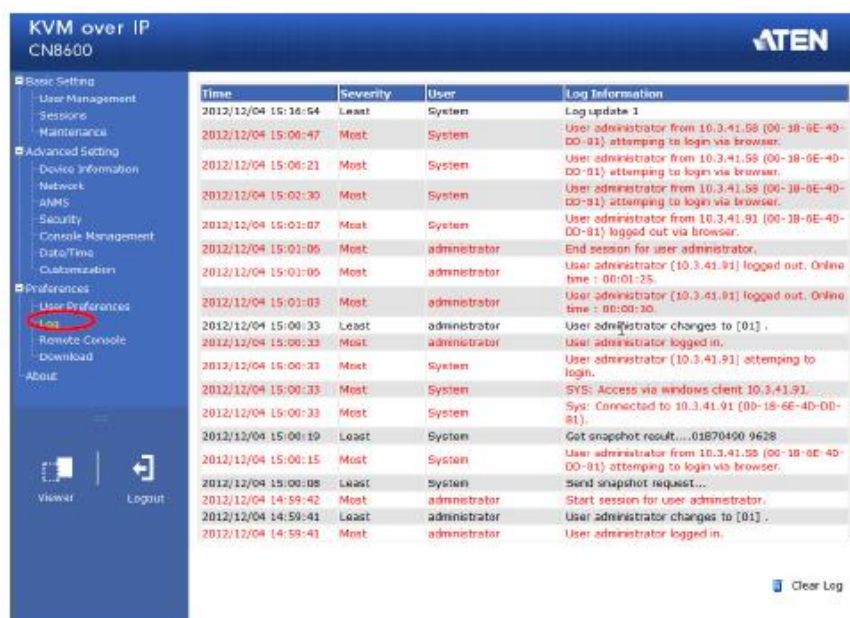
7. 空欄に必要事項を入力したら、「**Save**」(保存)をクリックして、新規パスワードを保存してください。

ラップトップコンソールのメイン画面は、Web ブラウザー、Win クライアント、および Java クライアントのメイン画面と同様です。詳細については、p.96「Windows クライアント AP」を参照してください。また、操作については本マニュアルの残りのアプリケーション GUI のセクションを参照してください。

第8章 ログファイル

ログファイル画面

CN9000/CN9600/CN9950 で発生したイベントは、すべて製品内部でログとして記録されます。リセットすると、すべてのログがクリアされます。ログファイルを表示するには、画面左側にある「Log」(ログ)リンクをクリックしてください。そうすると、次のような画面が表示されます。



Time	Severity	User	Log Information
2012/12/04 15:16:54	Least	System	Log update 1
2012/12/04 15:00:47	Most	System	User administrator from 10.3.41.58 (00-18-6E-4D-00-81) attempting to login via browser.
2012/12/04 15:00:21	Most	System	User administrator from 10.3.41.58 (00-18-6E-4D-00-81) attempting to login via browser.
2012/12/04 15:02:30	Most	System	User administrator from 10.3.41.58 (00-18-6E-4D-00-81) attempting to login via browser.
2012/12/04 15:03:07	Most	System	User administrator from 10.3.41.91 (00-18-6E-4D-00-81) attempting to login via browser.
2012/12/04 15:03:05	Most	administrator	User administrator logged out. Online time : 00:01:25.
2012/12/04 15:03:03	Most	administrator	User administrator logged out. Online time : 00:00:30.
2012/12/04 15:00:33	Least	administrator	User administrator changes to [01] .
2012/12/04 15:00:33	Most	administrator	User administrator logged in.
2012/12/04 15:00:33	Most	System	User administrator (10.3.41.91) attempting to login.
2012/12/04 15:00:33	Most	System	SYS: Access via windows client 10.3.41.91.
2012/12/04 15:00:33	Most	System	Sys: Connected to 10.3.41.91 (00-18-6E-4D-00-81).
2012/12/04 15:00:19	Least	System	Got snapshot result...01870400 9628
2012/12/04 15:00:15	Most	System	User administrator from 10.3.41.58 (00-18-6E-4D-00-81) attempting to login via browser.
2012/12/04 15:00:08	Least	System	Send snapshot request...
2012/12/04 14:59:42	Most	administrator	Start session for user administrator.
2012/12/04 14:59:41	Least	administrator	User administrator changes to [01] .
2012/12/04 14:59:41	Most	administrator	User administrator logged in.

最大 1024 件のイベントがログファイルに保持されます。新しいイベントが記録されると、リストの一番下に書き込まれます。ログファイルに 1024 件のイベントが記録された後に新しいイベントが記録されると、リスト内の最も古いイベントは破棄されます。

注意: (直近の 1024 件だけでなく)発生したすべてのイベントの記録を保持して参照するには、ログサーバーAP プログラムを設定してください。詳細は p.145「ログサーバー」を参照してください。

ログファイルを消去するには、画面の右下にある「Clear Log」(ログのクリア)アイコンをクリックしてください。

第9章

ログサーバー

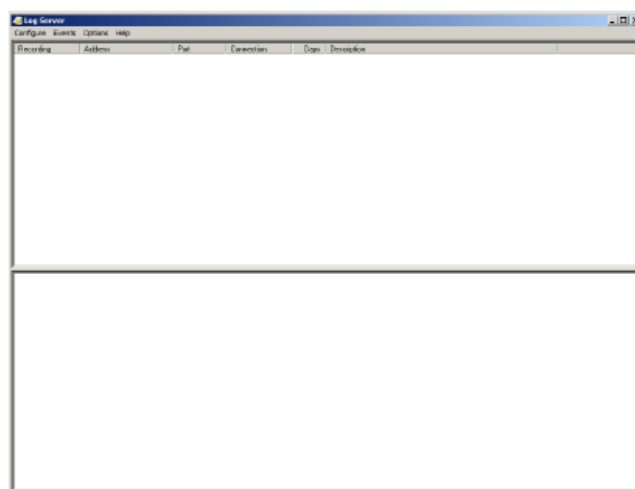
ログサーバーは、選択した CN9000/CN9600/CN9950 ユニットで発生するすべてのイベントを記録し、検索可能なデータベースに書き込む Windows ベースの管理ユーティリティです。この章では、ログサーバーのインストール方法と設定方法について説明します。

セットアップ

1. Web GUI で、ダウンロード画面に移動してください。詳細は p.92「ダウンロード」を参照してください。
2. 「Download Log Server AP」(ログサーバーAP のダウンロード) ボタンをクリックしてください。
3. 画面の指示に従ってインストールを完了し、ログサーバープログラムアイコンをデスクトップに表示してください。

起動

ログサーバーのメイン画面を表示するには、プログラムアイコンをダブルクリックするか、コマンドラインからこのプログラムのフルパスを入力して実行してください。プログラムの初回起動時には、次のような画面が表示されます。



-
- 注意:**
1. ログサーバーの MAC アドレスは、AMNS メニューで設定しておく必要があります (詳細は p.64「ログサーバー」参照)。
 2. ログサーバーには Microsoft Jet OLEDB 4.0 ドライバーが必要です。プログラムが起動しない場合は、p.174「ログサーバープログラムが起動しない場合」を参照してください。
-

画面は 3 つのコンポーネントに分かれています。

- ◆ 上部のメニューバー
- ◆ 中央に CN9000/CN9600/CN9950 リストが含まれるパネル (詳細は p.151「ログサーバーのメイン画面」参照)
- ◆ 下部のイベントリストパネル

各コンポーネントについては、以降のセクションで説明します。

メニューバー

メニューバーには 4 つの項目があります。

- ◆ Configure (設定)
- ◆ Events (イベント)
- ◆ Options (オプション)
- ◆ Help (ヘルプ)

これらについては、以降のセクションで説明します。

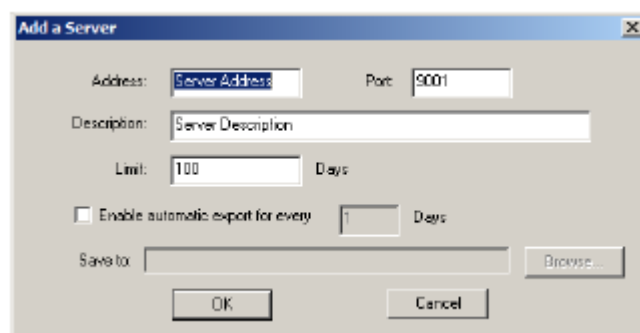
-
- 注意:** メニューバーが無効になっている場合は、CN9000/CN9600/CN9950 リストのウィンドウをクリックして有効にしてください。
-

設定

「Configure」(設定)メニューには、「Add」(追加)、「Edit」(編集)、および「Delete」(削除)の3つの項目があります。「Add」(追加)メニューではリストへの新規 CN9000/CN9600/CN9950 ユニットの追加を、「Edit」(編集)メニューではリストに登録されたユニット情報の編集を、また「Delete」(削除)メニューでは一覧からのユニットの削除をそれぞれ行います。

- ◆ 新規の CN9000/CN9600/CN9950 ユニットのリストに追加するには、「Add」(追加)をクリックしてください。
- ◆ リストから CN9000/CN9600/CN9950 ユニットの編集したり削除したりする場合は、リストから対象となる項目を選択し、このメニューから「Edit」(編集)または「Delete」(削除)メニューをクリックしてください。

「Add」(追加)または「Edit」(編集)をクリックすると、下図のようなダイアログボックスが表示されます。



各項目の説明は下表のとおりです。

項目	説明
Address (アドレス)	CN9000/CN9600/CN9950 の IP アドレスまたは DNS 名 (ネットワーク管理者が DNS 名を割り当てている場合)を入力してください。CN9000/CN9600/CN9950 の「ANMS」で指定されている値と同じものを入力する必要があります (p.62「ANMS」参照)。
Port (ポート)	ANMS 設定でログサーバーのサービスポート番号として指定されたポート番号を入力してください (p.64「ログサーバー」参照)。
Description (説明)	この項目は、ユニットを識別するのに役立つ説明を入力できるように提供されたものです。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Limit (期限)	ここには、イベントが失効してクリアされる前にイベントをログサーバーのデータベースに保持する日数を指定します。
Enable automatic export for every (*) Days (*日おきに自動エクスポートを実行する)	この項目にチェックを入れると、サーバーは一定間隔(の日数)でログファイルを作成し、指定した場所に保存します。 「Browse…」(参照…)ボタンをクリックして、ログファイルを保存したいファイルフォルダを指定してください。

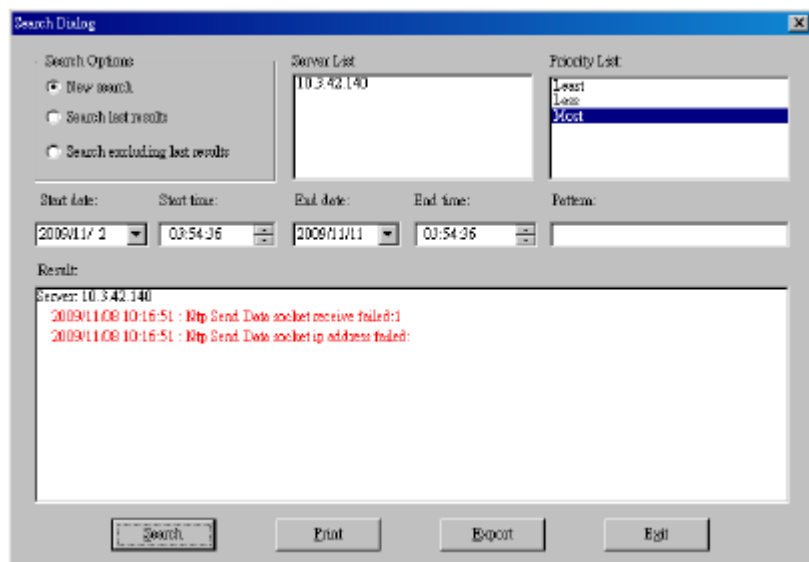
項目への入力や変更が完了したら、「OK」ボタンをクリックしてください。

イベント

「Events」(イベント)メニューは「Search」(検索)と「Maintenance」(メンテナンス)の 2 つのサブメニューから構成されています。

検索

「Search」(検索)メニューでは、特定の単語や文字列を含むイベントを検索することができます。この機能にアクセスすると、次のような画面が表示されます。



各項目の説明を下表に示します。

項目	説明
New search (新規検索)	これは、検索範囲を定義する 3 つのラジオボタンのうちの 1 つです。これが選択された場合、選択された CN9000/CN9600/CN9950 で発生したすべてのイベントを対象にして検索を行います。
Search last results (前回の結果から検索)	これが選択されると、前回の検索の結果として得られたイベントに対して 2 次検索を実行します。
Search Excluding last results (前回の結果以外から検索)	これが選択されると、前回の検索の結果であるイベントを除外して、選択された CN9000/CN9600/CN9950 のデータベース内のすべてのイベントに対して 2 次検索を実行します。
Server List (サーバーリスト)	CN9000/CN9600/CN9950 が IP アドレス順に一覧表示されます。ログの検索対象となる CN9000/CN9600/CN9950 をリストから選択してください。複数のユニットを検索対象として選択することができます。ユニットが選択されていない場合は、すべてのユニットに対して検索が実行されます。
Priority List (優先度リスト)	検索結果をどの程度詳細に表示するかを設定します。「Least」を選択すると簡易版表示を、「Most」を選択すると詳細表示をそれぞれ行います。またレベルが「Least」の検索結果は黒色で、「Less」の結果は青色で、「Most」の結果は赤色でそれぞれ表示されます。
Start Date (開始日)	検索を開始する日付を選択します。「YYYY/MM/DD」の形式で入力してください。
Start Time (開始時刻)	検索を開始する時刻を選択します。
End Date (終了日)	検索を終了する日付を選択します。
End Time (終了時刻)	検索を終了する時間を選択します。
Pattern (パターン)	パターン検索を行う場合の文字列を入力してください。任意の文字列を表すワイルドカード(*)を使用することができます。 例:h*ds という検索条件で、「hands」と「hoods」という文字列にヒットします。

(表は次のページに続きます)

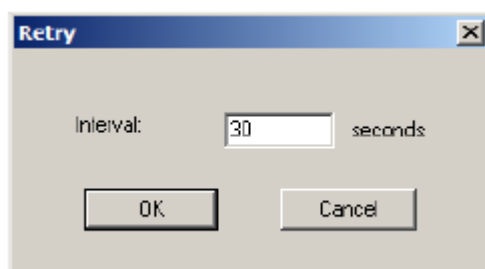
項目	説明
Results (結果)	検索条件に一致したイベントが一覧表示されます。
Search (検索)	このボタンをクリックすると検索が開始します。
Print (印刷)	このボタンをクリックすると検索結果を印刷します。
Export (エクスポート)	このボタンをクリックすると検索結果を「.txt」ファイルに書き込みます。
Exit (終了)	このボタンをクリックすると検索ダイアログボックスを終了します。

メンテナンス

「Maintenance」(メンテナンス)機能を使うことで、CN9000/CN9600/CN9950 の管理者は「Edit」(編集)機能の「Limit」(期限)の項目で設定した保管期限を過ぎていないログの内容を手動で削除することができます (p.148 参照)。

オプション

「Options」(オプション)メニューには「Network Retry」(ネットワーク再試行)というサブメニューがあり、接続失敗によってログサーバーが再試行するまでの待機時間(秒)を設定します。この項目をクリックすると、次のようなダイアログボックスが表示されます。



待機秒数を入力したら「OK」ボタンをクリックし、操作を完了してください。

ヘルプ

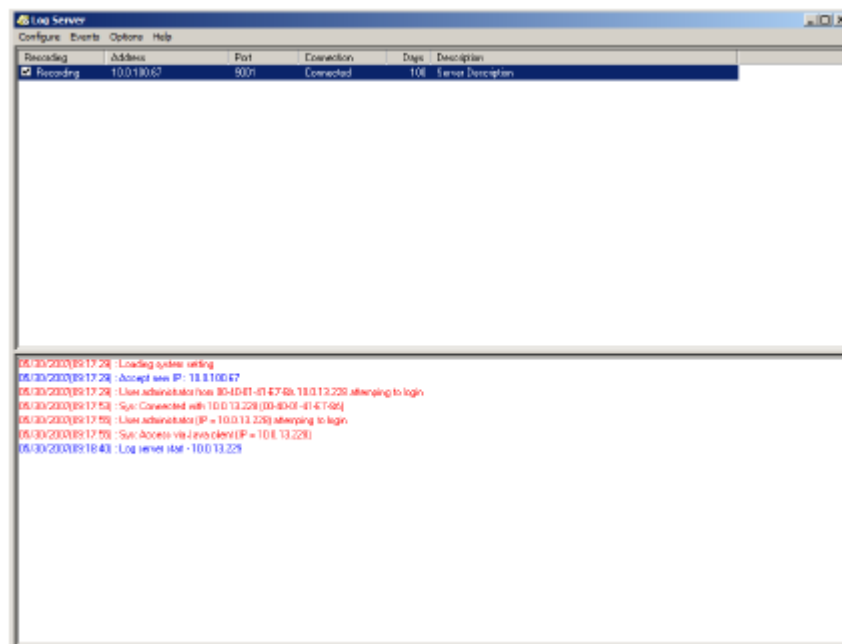
オンラインの Windows ヘルプファイルにアクセスするには、このメニューから「Contents」(コンテンツ)をクリックしてください。ヘルプファイルには、ログサーバーのセットアップ、操作、およびトラブルシューティングの各方法が記載されています。

ログサーバーのメイン画面

概要

ログサーバーのメイン画面は大まかに次の 2 つのパネルから構成されています。

- ◆ 上部パネル(リストパネル)には、ログサーバーによるイベント監視対象として設定されている CN9000/CN9600/CN9950 の一覧が表示されます(p.147「設定」参照)。
- ◆ 下部パネル(イベントパネル)には、現在リストパネルで選択されている CN9000/CN9600/CN9950(複数台ある場合は強調表示されているもの)のイベントログが表示されます。リストから CN9000/CN9600/CN9950 を選択するには、対象となるユニットをクリックしてください。



リストパネル

リストパネルには 6 つの項目があります。

項目	説明
Recording (記録中)	ログサーバーがこの CN9000/CN9600/CN9950 のログを記録するかどうかを設定します。「Recording」(記録中)の項目にチェックを入れると、この欄に「Recording」(記録中)と表示され、ログイベントの記録を行います。項目からチェックを外すと、この欄に「Paused」(一時停止)と表示され、ログイベントの記録は行われません。 注意: このリストに表示されている CN9000/CN9600/CN9950 は、選択状態でなかったとしてもチェックがあればログサーバーによってログイベントが記録されます。
Address (アドレス)	CN9000/CN9600/CN9950 がログサーバーに登録された際に設定された IP アドレスまたは DNS 名です (p.147「設定」参照)。
Port (ポート)	CN9000/CN9600/CN9950 がログサーバーに登録された際に割り当てられたポート番号です (p.147「設定」参照)。
Connection (接続)	ログサーバーが CN9000/CN9600/CN9950 に接続している場合、この欄には「Connected」(接続済み)と表示されます。 接続していない場合は、この欄に「Waiting」(待機中)と表示されます。これはログサーバーの MAC アドレスまたはポート番号が正しく設定されていないことを表しています。このような場合には、AMNS メニュー (p.62 参照) および設定ダイアログボックス (p.147 参照) で正しい値を設定する必要があります。
Days (日数)	CN9000/CN9600/CN9950 のイベントの保存期限が切れるまでログサーバーのデータベースに保持される日数を表します (p.147「設定」参照)。
Description (説明)	ログサーバー登録時に設定された CN9000/CN9600/CN9950 に関する説明情報です (p.147「設定」参照)。

選択ユニットのログ表示パネル

下部のパネルには現在選択されている CN9000/CN9600/CN9950 ログの変動情報が表示されます。お使いの環境で複数台のユニットを使用している場合、そのユニットが現在選択されていなくても、「Recording」(記録中)のチェックボックスにチェックが入っていれば、ログサーバーはログの変動情報を記録し、データベースに保持します。

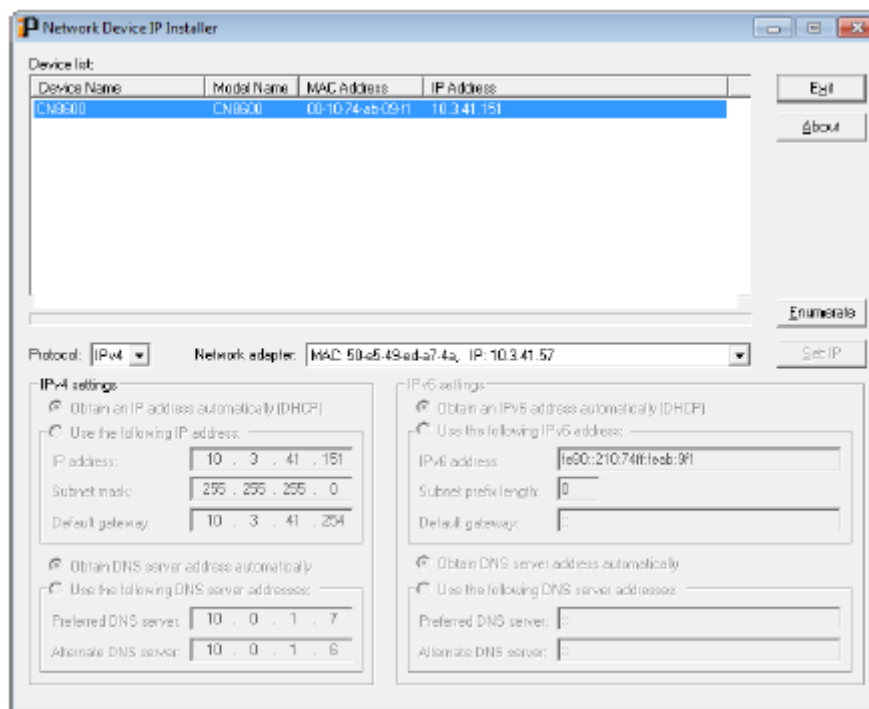
IP アドレスの設定

管理者が CN9000/CN9600/CN9950 に最初にログインする場合は、他のユーザーが外部からアクセスできるように IP アドレスを設定する必要があります。設定方法はいくつかありますが、いずれの場合も、お使いのコンピューターが CN9000/CN9600/CN9950 と同一セグメントにあることをご確認ください。CN9000/CN9600/CN9950 に接続し、ログインすると、固定 IP アドレスを設定することができます (p.56「ネットワーク」参照)。

IP インストーラーを使用して設定する場合

Windows がインストールされているコンピューターであれば、IP インストーラーというツールを使用して IP アドレスを割り当てることができます。

1. IP インストーラーを弊社 Web サイト(<https://www.aten.com/jp/ja/>)からダウンロードしてください。ダウンロードは、1) 製品ページ内の「サポートとダウンロード」メニューからアクセス、または、2) ホームページのトップページの右上に表示される (表示画面のサイズによっては画面左上に三本線のアイコンが表示されるので、それをクリックすると表示される)「サポートとダウンロード」→「ダウンロード」→「他の製品の資料をダウンロードする」に型番を入力して検索する方法で行えます。
2. ダウンロードしたファイル (IPInstaller.exe) を実行してください。ファイルが起動すると、次のようなダイアログボックスが表示されます。



3. 「Device List」(デバイスリスト)から CN9000/CN9600/CN9950 を選択してください。

注意:

1. リストに何も表示されない、また、対象となるユニットが表示されない場合は、「Enumerate」(一覧表示)をクリックして、デバイスリストを更新してください。
2. 一覧に複数のデバイスが表示されている場合は、MAC アドレスを使って目的のデバイスを識別してください。CN9000/CN9600/CN9950 の MAC アドレスは製品本体の底面に貼られたラベルに記載されています。

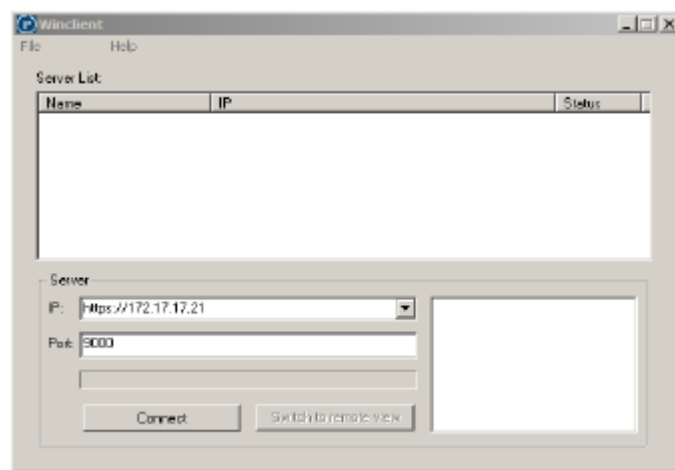
4. DHCP を使って IP アドレスを自動的に取得する場合は「Obtain an IP address automatically (DHCP)」(IP アドレスを自動取得する)を、固定 IP アドレスを設定する場合は「Specify an IP address」(IP アドレスを指定する)をそれぞれ選択してください。後者を選択した場合は、製品がセットアップされているネットワークで有効な IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイをそれぞれ該当欄に入力してください。
5. 「Set IP」(IP の設定)ボタンをクリックしてください。
6. IP アドレスが「Device List」(デバイス一覧)に表示されたら、「Exit」(終了)ボタンをクリックしてください。

ブラウザー

1. お使いのコンピュータの IP アドレスを「192.168.0.XXX」に設定してください。XXX の部分には 60 以外で 0 ～ 255 の間の任意の値を使用してください（192.168.0.60 は CN9000/CN9600/CN9950 のデフォルトの IP アドレスであるため）。
2. Web ブラウザーのアドレスバーに、ユニットのデフォルト IP アドレス(192.168.0.60)を指定すると、接続できるようになります。
3. CN9000/CN9600/CN9950 がセットアップされているネットワークで有効な固定 IP アドレスを設定してください。
4. ログアウトしたら、手順 1 で設定を変更したコンピュータの IP アドレスを元の値に戻しておいてください。

AP Windows クライアント

Windows を実行しているコンピュータでは、Windows AP プログラムを使用して CN9000/CN9600/CN9950 の IP アドレスを設定することができます (p.96「Windows クライアント AP」参照)。このプログラムを実行すると、CN9000/CN9600/CN9950 デバイスのネットワークセグメントが検索され、次のようなダイアログボックスに結果が表示されます。



これで、このネットワークアドレスを使用することができます。あるいは、「Network」(ネットワーク)メニューで変更することもできます。詳細は p.58 を参照してください。

IPv6

現在、CN9000/CN9600/CN9950 は、IPv6 アドレスの「リンクローカルアドレス」と「ステートレスオートコンフィグレーション」の 2 つのプロトコルをサポートしています。

リンクローカルアドレス

CN9000/CN9600/CN9950 に電源を入れると、自動的に IPv6 のリンクローカルアドレスが設定されます (例: fe80::210:74ff:fe61:1ef)。IPv6 のリンクローカルアドレスの内容を確認するには、CN9600 に IPv4 のアドレスでログインし、「Basic Setting」(基本設定) アイコンをクリックしてください。アドレスは「Basic Setting」(基本設定) メニュー(p.46 参照) の下部に表示されます。

CN9000/CN9600/CN9950 の IPv6 アドレスの内容が確定すると、ブラウザーや Windows、Java の各クライアントソフトウェアからログインする際にこのアドレスを使うことができます。

例えば、ブラウザーからログインする場合には、URL バーにアドレスを次のように入力します。

`http://[fe80::2001:74ff:fe6e:59%5]`

また、クライアントソフトウェアからログインする場合には、「Server」(サーバー) パネルの「IP」欄 (p.96 参照) にアドレスを次のように入力してください。

`fe80::2001:74ff:fe6e:59%5`

-
- 注意:**
1. IPv6 リンクローカルアドレスを使ってログインする場合には、クライアントコンピューターが CN9000/CN9600/CN9950 と同一ローカルネットワークセグメントにセットアップされている必要があります。
 2. 「%5」の部分は、クライアントコンピューターによって使用される「%インターフェース」です。クライアントコンピューターの IPv6 アドレスを確認する場合は、コマンドラインから下記のコマンドを実行してください。

`ipconfig/all`

「%」値は IPv6 アドレスの最後に現れます。

ステートレスオートコンフィグレーション

CN9000/CN9600/CN9950 のネットワーク環境で、IPv6 ステートレスオートコンフィグレーション機能に対応したデバイス(例:ルーター)を使用している場合、CN9000/CN9600/CN9950 は IPv6 アドレスを生成するために、このデバイスからプレフィックス情報を取得することができます。例えば、「2001::74ff:fe6e:59」です。

先に述べたように、アドレスは「Basic Setting」(基本設定)メニューの下部に表示されます。

CN9000/CN9600/CN9950 の IPv6 アドレスの内容が確定すると、ブラウザーや Windows、Java の各クライアントソフトウェアからログインする際にこのアドレスを使うことができます。

例えば、ブラウザーからログインする場合には、URL バーにアドレスを次のように入力してください。

`http://[2001::74ff:fe6e:59]`

また、クライアントソフトウェアからログインする場合には、「サーバー」パネルの「IP」欄(p.96 参照)にアドレスを次のように入力します。

`2001::74ff:fe6e:59`

ポートの転送











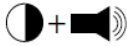





CN9000/CN9600/CN9950 がルーターの内側にセットアップされている環境では、特定のポート経由で特定のデバイス宛に送信されたデータをルーターが転送できるように、ルーター側でポート転送の設定をする必要があります。ポート転送に必要なパラメーターを設定することで、ルーターが特定のポートに送信されたデータをどのデバイスに転送するかを定義します。

例えば、ルーターに接続された CN9000/CN9600/CN9950 に「192.168.1.180」という IP アドレスが割り当てられている場合、ルーターのセットアッププログラムにログインし、ポート転送（またはバーチャルサーバー）の設定画面にアクセスします。そうしたら、先ほどの IP アドレス「192.168.1.180」、および開放するポート（例：インターネットアクセスでは 9000 番を使用）を設定します。

ルーターの設定方法は、製品ごとに異なりますので、ポート転送の詳細についてはお使いのルーターのユーザーマニュアルを参照してください。

キーボードエミュレーション

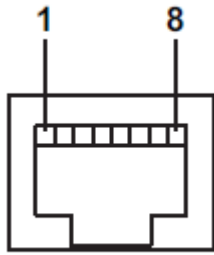
PC 互換 (101/104 キー) キーボードは、Sun および Mac キーボードの機能をエミュレートできます。エミュレーションマッピングは下表のとおりです。

PC 互換キーボード	Sun キーボード	PC 互換キーボード	Mac キーボード
[Ctrl] [T]	Stop	[Shift]	Shift
[Ctrl] [F2]	Again	[Ctrl]	Ctrl
[Ctrl] [F3]	Props		
[Ctrl] [F4]	Undo	[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [F5]	Front	[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [F6]	Copy	[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [F7]	Open	[Ctrl] [4]	
[Ctrl] [F8]	Paste	[Alt]	Alt
[Ctrl] [F9]	Find	[Print Screen]	F13
[Ctrl] [F10]	Cut	[Scroll Lock]	F14
[Ctrl] [1]	 		=
[Ctrl] [2]		[Enter]	Return
[Ctrl] [3]		[Backspace]	Delete
[Ctrl] [4]		[Insert]	Help
[Ctrl] [H]	Help	[Ctrl] 	F15
	Compose		
			

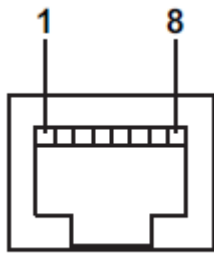
注意: キーの組み合わせを使用する場合は、最初のキー(Ctrl)を押して指を離し、次にアクティベーションキーを押して指を離してください。

シリアルポートのピンアサイン

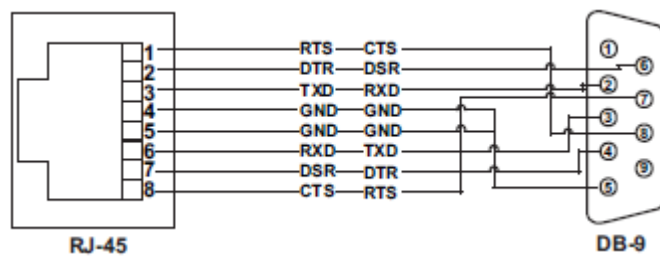
CPU COM(RS-232 DTE)ポートに対するピンアサインは、下表のとおりです。

ピン	ピンアサイン	
1	RTS	 RJ-45 メス
2	DTR	
3	TXD	
4	CTS	
5	GND	
6	RXD	
7	DCD	
8	DSR	

ローカルコンソール COM(RS-232 DCE)ポートに対するピンアサインは、下表のとおりです。

ピン	ピンアサイン	
1	CTS	 RJ-45 メス
2	N/A	
3	RXD	
4	GND	
5	GND	
6	TXD	
7	N/A	
8	RTS	

RJ-45 → DB-9 ケーブルのピン出力

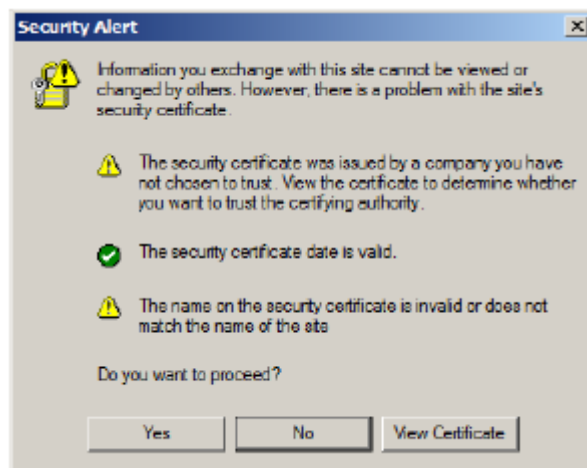


注意: Cisco コンソールケーブルを使って DCE ポートに接続する場合は、ヌルモデムケーブルまたはヌルモデムコンバーターが必要です。

信頼された証明書

概要

ブラウザ経由で CN9000/CN9600/CN9950 にログインすると、以下のようなセキュリティ警告ダイアログが表示され、デバイスの証明書が信頼できるものではないため、操作を続行するかどうかを問うメッセージが表示されます。



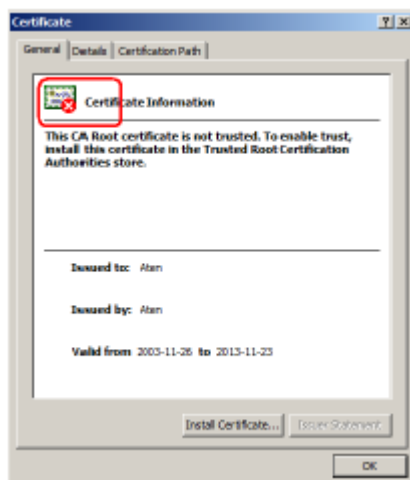
この証明書は信頼できるものですが、証明者の名前が Microsoft の信頼された認証局のリストに存在しないため、このようなダイアログボックスが表示されます。これに対応するには、次の 2 つの方法があります。

- 1) ダイアログの警告を受け入れず、「はい」ボタンを押して、処理を続行する。
または
 - 2) 証明書をインストールし、信頼済みとして認識させる。
- ◆ 別のユーザーのコンピューターから作業している場合は「はい」ボタンを押して、この証明書を現在のセッションのみ受け入れてください。
 - ◆ ご自身のコンピューターから作業している場合は、証明書をお使いのコンピューターにインストールしてください(詳細は下記参照)。証明書がインストールされると、信頼できる証明書として認識されます。

証明書のインストール

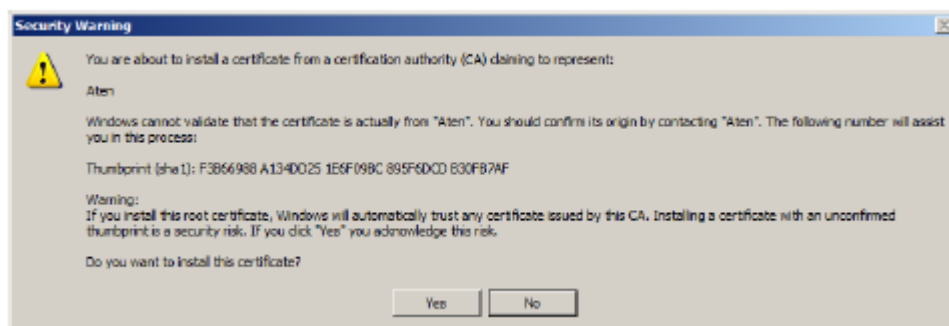
証明書のインストールは下記の手順に従ってください。

1. 「セキュリティの警告」ダイアログボックスで、「**証明書の表示**」ボタンをクリックしてください。そうすると、下図のような「証明書」ダイアログボックスが表示されます。



注意： 証明書の上に赤い枠で囲まれている「×」の印は、この証明書が信頼できないと認識されていることを表しています。

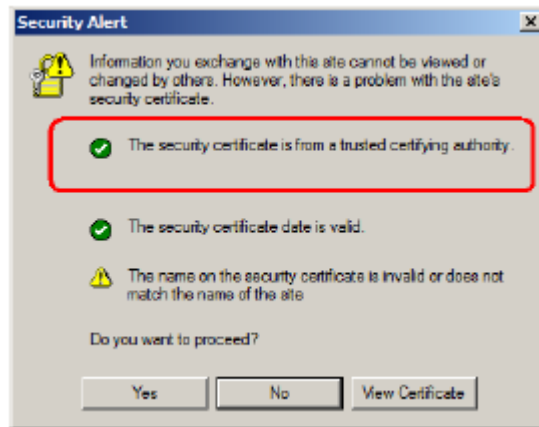
2. 「**証明書のインストール**」ボタンをクリックしてください。
3. インストールウィザードの指示に従って、インストールを進めてください。特に不都合がない場合は、デフォルト値でインストールしてください。
4. ウィザードに警告ダイアログが表示されたら、「はい」ボタンを押してください。



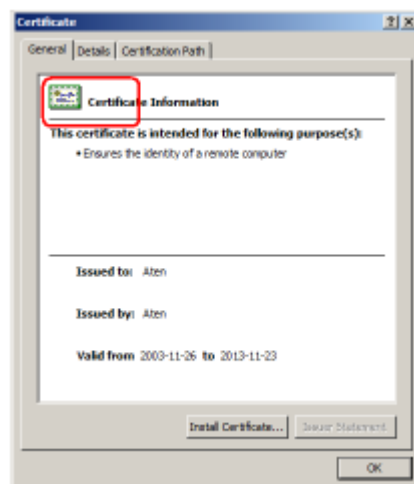
5. 「完了」ボタンを押してインストール作業を完了してください。「OK」ボタンを押すとダイアログボックスが終了します。

証明書のインストール完了

この作業により、証明書は信頼できるものに変更されました。

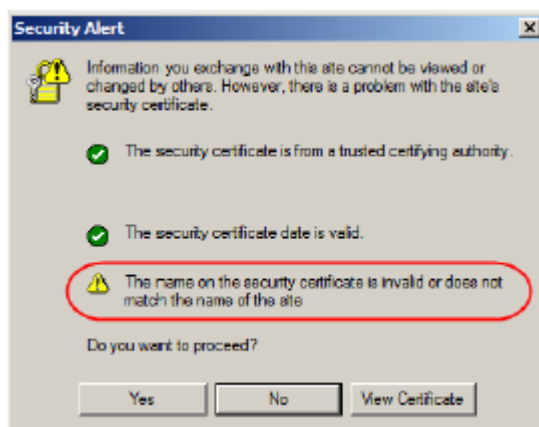


「証明書の表示」ボタンをクリックすると、インストール前に見られた「×」の印が消え、証明書が信頼できるものであるというメッセージが表示されます。



アドレス不整合に関する注意事項

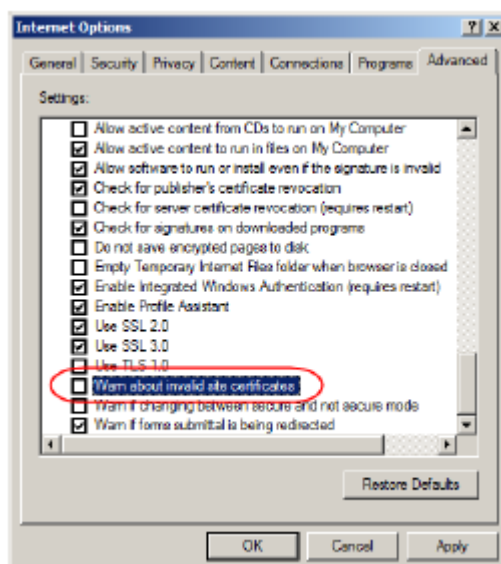
証明書の作成に使用されたサイト名や IP アドレスが現在の CN9000/CN9600/CN9950 のアドレスに一致しない場合、下図のような警告が表示されます。



このような場合、「Yes」ボタンをクリックして継続することも、不整合のチェックを無効にすることもできます。

不整合のチェックを無効にする場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. ログイン画面が表示されたら、Web ブラウザメニューで、[ツール]→[インターネットオプション]→[詳細設定]タブを選択してください。
2. リストの下部にスクロールして、「証明書のアドレスの不一致について警告する」の項目についているチェックを外してください。



3. 「OK」ボタンをクリックしてください。ここで変更された設定は、ブラウザの再起動後に有効になります。

自己署名(プライベート)証明書

独自の自己署名暗号鍵や証明書を作成したい場合は、フリーツール「openssl.exe」を Web サイト (www.openssl.org) からダウンロードすることができます。独自のプライベートキーや証明書を作成する場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. ダウンロードして解凍した openssl.exe のディレクトリに移動してください。
2. 以下のパラメーターを指定して openssl.exe を実行してください。

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509 -keyout CA.key -out CA.cer  
-config openssl.cnf
```

-
- 注意:**
1. 上記のコマンドは1行で入力してください。パラメーターの入力途中で[Enter]キーを押さないでください。
 2. 入力値にスペースが含まれている場合は、その値をダブルクォートで囲んでください(例: "ATEN International")。
 3. 最新版のバイナリ等はパラメーターの仕様変更がされていることもあるため、必ずリリースノートや技術資料をご確認ください。
-

以下のパラメーターを使用して、作成時に入力するキーを少なくすることも可能です。

/C /ST /L /O /OU /CN /emailAddress.

例

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf -subj  
/C=yourcountry/ST=yourstateorprovince/L=yourlocationor  
city/O=yourorganization/OU=yourorganizationalunit/  
CN=yourcommonname/emailAddress=name@yourcompany.com  
  
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf -subj  
/C=CA/ST=BC/L=Richmond/O="ATEN International"/OU=ATEN  
/CN=ATEN/emailAddress=eservice@aten.com.tw
```

ファイルのインポート

openssl.exe のプログラムが終了すると、このプログラムを実行したディレクトリに「CA.key」(プライベートキー)と「CA.cer」(自己署名済 SSL 証明書)という2つのファイルが作成されます。これらのファイルは、「セキュリティ」タブの「プライベート認証」メニュー (p.74 参照) でアップロードします。

トラブルシューティング

操作全般

問題	解決方法
動作が不安定である。	CN9000/CN9600/CN9950 には KVM スイッチより前に電源を入れる必要があります。 1. CN9000/CN9600/CN9950 のユニットに KVM スイッチが接続されている場合は、まずユニット本体に電源を入れてください。 2. ユニットに電源を入れる前に KVM スイッチに電源を入れてしまった場合は、その KVM スイッチをリセットまたは再起動してください。 CN9000/CN9600/CN9950 をリセットする必要があります (p.50「メインファームウェアのアップグレード」参照)。
IP アドレスおよびポート番号を正しく設定したにもかかわらず、CN9000/CN9600/CN9950 にアクセスできない。	お使いの CN9000/CN9600/CN9950 がルーターの内側にセットアップされている場合、ルーターのポート転送(またはバーチャルサーバー)の設定を行う必要があります。詳細は p.158「ポートの転送」を参照してください。
マウスポインターの表示で混乱する。	ローカルとリモートの 2 つのマウスポインターが表示されて操作の上でわかりにくい場合は、マウス表示切替機能を使用して非アクティブなマウスポインターを最小化することができます。詳細は p.105 を参照してください。

(表は次のページに続きます)

問題	解決方法
マウスの動作が同期しない。	<p>リモート操作を行っている際に、PS/2 インターフェースで接続されている PC/サーバーとマウスポインターの動きが合わない場合は (CN9000)、次の方法をお試ください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 接続されている PC/サーバー側で、マウス設定における「ポインターの精度を高める」のオプションを無効にしてください。この方法でも問題が解決しない場合は、方法 2 に進んでください。 2. CN9000 の Web ブラウザーで、次のターミナルコマンドを実行してください。 <pre>setportatt 1 n</pre> <p>このコマンドは、マウスの遅延時間を n ミリ秒で設定します。n の値は 10 から始め、必要に応じて調節を行ってください。詳細は p.54「ターミナル」を参照してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) この問題は、PC/サーバーに対して、絶対座標非対応のマウスを USB インターフェースで接続している場合でも発生する場合があります (CN9600/CN9950)。 2) マウスの遅延時間をリセットしてデフォルト値に戻す場合は、次のターミナルコマンドを実行してください。 <pre>setportatt 1 0</pre>
マウスの動作が極端に遅い。	<p>転送されるデータ量が多いため、マウスの表示が動作に追いつかないことが考えられます。ビデオ品質を下げて、ビデオ転送に使用されるデータを減らしてください (p.113「ビデオ設定」参照)。</p>
マウスの同期モードを「手動」に変更すると、CN9000/CN9600/CN9950 がクラッシュする。	<p>CN9000/CN9600/CN9950 はクラッシュしていません。5 分程待機すると、通常の操作に戻ります。すぐに再開させたい場合は、CN9000/CN9600/CN9950 をリセットしてください (p.50「メインファームウェアのアップグレード」参照)。</p>
Web ブラウザーのセッションで設定を変更している時にタイムアウトになると、その時に設定していた内容が破棄されている。	<p>CN9000/CN9600/CN9950 側ではユーザーが作業していることを把握していないため、「Apply」(適用) をクリックしないとタイムアウトになります。「Apply」(適用) をクリックしない限り、変更内容は反映されません。設定内容を CN9000/CN9600/CN9950 に保存してタイムアウトカウンターをリセットするには、「Apply」(適用) をクリックしてください。</p>

(表は次のページに続きます)

問題	解決方法
Firefox を使ってログインすると、リモートコンソールディスプレイに Windows クライアントと起動用のリンクが表示されない。	Windows クライアントをご利用いただくには Internet Explorer と専用の Active X コントロールをインストールすることが必須条件です。Firefox は Active X に対応していませんので、Java アプレットをお使いください。
Fedora がインストールされているリモートサーバーにアクセスすると、アクセスしているのがリモートコンソールからであっても、また、ローカルクライアントコンピュータからであっても、リモートサーバー側のマウスが動かなくなる。	リモートサーバーが PS/2 ケーブルで接続されている場合、ブラウザから CN9000/CN9600/CN9950 にログインした後でビューワーを起動して、コントロールパネルでマウス同期機能を「 手動 」に設定してください。詳細は p.126 を参照してください。
使用しているユニットが IP インストーラーのデバイスリストに表示されない。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 自動検出機能が正しく動作するように、お使いのスイッチまたはルーターでブロードキャスト機能が有効になっていることをご確認ください。 ◆ 自動検出機能が正しく動作するように、お使いのファイアウォールやウィルス対策ソフトを一時的に無効にしてください。 ◆ お使いの CN9000/CN9600/CN9950 と PC が同一のネットワークセグメントにセットアップされていることをご確認ください。

Windows

問題	解決方法
ログインすると、ブラウザーからCAルート証明書が信頼できないという内容のメッセージが表示されたり、証明書エラーの応答が返ってきたりする。	<ol style="list-style-type: none"> 1. これは証明書の名前が Microsoft の信頼された認証局のリストに存在しないことに起因します。この証明書は信頼できるものですので、受け入れても問題ありません。詳細は p.162「信頼された証明書」を参照してください。 2. 認証局 (CA) として知られる、信頼されたサードパーティーによって発行された証明書をインポートすることで、このメッセージは表示されなくなります (p.75「CA 署名済 SSL サーバー証明書の取得」参照)。
証明書をインポートしても、ログインサイトに関する警告メッセージが依然として表示される。	証明書セキュリティチェック機能によって、証明書のアドレスの不一致が検出されたことに起因しますが、この証明書は信頼できるものです。Web サイトで「続行する」をクリックして操作を進める (推奨しません) か、不整合のチェック機能を無効にすることができます。この操作に関する詳細は p.165「アドレス不整合に関する注意事項」を参照してください。
リモートとローカルのマウスポインターが同期していない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. マウスダイナシクモードの設定内容を確認してください (p.126 参照)。もし、自動設定するようになっている場合は、手動設定にしてください。 2. 手動設定になっている場合は、自動同期機能 (p.113「ビデオ設定」参照) を使ってローカルとリモートのモニターの同期を取ってください。 3. 上記の方法で解決しない場合、マウス調整機能 (p.105 参照) を使用してください。 4. 上記いずれの方法でも解決できない場合は p.175「その他のマウス同期方法」を参考に設定を行ってください。
リモートモニターでローカルディスプレイの一部分しか表示されない。	自動同期機能 (p.113「ビデオ設定」参照) を使ってローカルとリモートのモニターの同期を取ってください。

(表は次のページに続きます)

問題	解決方法
バーチャルメディア機能が使用できない。	CN9000/CN9600/CN9950 に古いコンピューターを接続してお使いの際にこの現象が見られる場合があります。この場合は、お使いのマザーボードの製造元から最新ファームウェアバージョンを入手し、マザーボードのアップグレードを行ってください。
バーチャルメディアのメニューで ISO ファイルのマウントはできるが、この ISO ファイルにアクセスできない。	Windows クライアントのバーチャルメディアに対応している ISO ファイルは、4GB 未満となります。ISO ファイルが 4GB を超える場合にはアクセスができませんので、ご注意ください。
ブラウザで CN9000/CN9600/CN9950 にアクセスし、Windows クライアントビューワーを開いた後、アンチウイルスソフトがトロイの木馬に感染していると報告される。	Windows クライアントビューワーは Active X プラグイン (windows.ocx) を使用しており、アンチウイルスソフトの中にはこれをウイルスまたはトロイの木馬に感染していると誤認するものがあります。弊社はファームウェアを広範囲にわたって検査し、ウイルスやトロイの木馬に感染していないことがわかっています。プラグインをご使用のアンチウイルスプログラムのホワイトリストに追加すれば、ビューワーを安全に使用できます。しかし、それでも Windows クライアントビューワーの使用をためらう場合は、代わりに Java クライアントビューワーをご使用ください。

Java

マウス同期に関する問題については p.104「マクロ」、p.126「マウスダイナシンクモード」、p.177「Sun/Linux」の内容を参照してください。その他の問題については下表を参照してください。

問題	解決方法
Java アプレットが CN9000/CN9600/CN9950 に接続できない。	<ol style="list-style-type: none">1. お使いのコンピュータに Java 6 Update 3 以降がインストールされている必要があります。2. CN9000/CN9600/CN9950 の IP アドレスを指定する際、ページ名 (ログイン文字列) が含まれているか確認してください。3. Java アプレットを一度終了させて、再試行してください。
最新の JRE をインストールしたにもかかわらず、パフォーマンスと安定性に問題がある。	本製品の Java クライアントビューワーの開発以降にリリースされたバージョン (特に最新版など) の Java をお使いの場合、Java 側の新機能に対応していないなどの理由でパフォーマンスが悪いことが考えられます。このような場合には、最新版よりも 1~2 つほど古いバージョンの JRE を使用してみてください。
Java クライアントビューワーのパフォーマンスに問題がある。	プログラムを一度終了させて、再起動してください。
英語以外の言語の文字が表示されない。	CN9000/CN9600/CN9950 のオンスクリーンキーボードを使用して、ローカルコンピュータとリモートコンピュータが同じ言語に設定されていることを確認してください (p.124「オンスクリーンキーボード」参照)。
ログインすると、ブラウザから CA ルート証明書が信頼できないという内容のメッセージが表示されたり、証明書エラーの応答が返ってきたりする。	これは証明書の名前が Microsoft の信頼された認証局のリストに存在しないことに起因しますが、この証明書は信頼できるものです。詳細は p.162「信頼された証明書」を参照してください。

Sun

問題	解決方法
D-sub15 ピンのコネクタのシステム(例:Sun Blade 1000 Server)で、ビデオ表示の問題が発生する*。	<p>ディスプレイの解像度は 1024×768@60Hz に設定する必要があります。</p> <p>テキストモードの場合:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. OK プロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60</pre> <pre>reset-all</pre> <p>XWindow の場合:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンソールを開き、以下のコマンドを実行してください。 <pre>m64config -res 1024x768x60</pre> 2. ログアウトしてください。 3. もう一度ログインしてください。
13W3 インターフェースシステム(例:Sun Ultra Server)を使用すると、ビデオ表示の問題が発生する*。	<p>ディスプレイの解像度は 1024×768@60Hz に設定する必要があります。</p> <p>テキストモードの場合:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. OK プロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60</pre> <pre>reset-all</pre> <p>XWindow の場合:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンソールを開き、以下のコマンドを実行します。 <pre>m64config -res 1024x768x60</pre> 2. ログアウトしてください。 3. もう一度ログインしてください。
ローカルとリモートのマウスポインターが同期しない。	<p>デフォルト設定では、ローカルとリモートのマウスポインターは、接続時に自動的に同期されます。ただし、自動マウス同期の実行は、Windows または Mac(G4 以降)で USB マウスを使用した時にのみ限ります。このような場合には、マウスダイナシクで手動を選択して、ポインターを手動で同期させてください。詳細については、p.126「マウスダイナシクモード」を参照してください。</p>

* Sun VGA カードに関するトラブルの多くは、上記の方法で解決することが可能です。それでも問題が解決しない場合は、Sun VGA カードのマニュアルを参照してください。

Mac

問題	解決方法
ローカルとリモートのマウスのポインターが同期しない。	Mac には、Mac1 と Mac2 の 2 つの USB I/O 設定があります (p.87「カスタマイズ」参照)。一般的に「Mac 1」は古い OS バージョン用であるのに対し、「Mac 2」は新しい OS バージョン用ですが、逆の場合が当てはまることもあります。ポインターの同期に問題がある場合は、もう一方のモードを選択してみてください。
Safari ブラウザーで製品にログインしてスナップショット機能を使用すると、応答なしになる。	Safari を強制終了した後で、再起動してください。また、スナップショット機能は今後使用しないようにしてください。
	Safari でスナップショット機能を使用するには、Mac OS は 10.4.11 に、Safari は 3.0.4 にそれぞれアップグレードしてください。

ログサーバー

問題	解決方法
ログサーバープログラムが起動しない。	<p>ログサーバーでデータベースにアクセスするには Microsoft Jet OLEDB 4.0 ドライバーが必要です。</p> <p>このドライバーは Windows ME、2000、XP で自動的にインストールされています。</p> <p>Windows 98 または NT の場合、Microsoft のダウンロードサイト (http://www.microsoft.com/data/download.htm) から「MDAC 2.7 RTM Refresh (2.70.9001.0)」ドライバファイルを取得してください。</p> <p>このドライバーは Windows Office Suite で使用されるため、Windows Office Suite をインストールする方法もあります。ドライバファイルまたは Windows Office Suite がインストールされると、ログサーバーが動作するようになります。</p>

その他のマウス同期方法

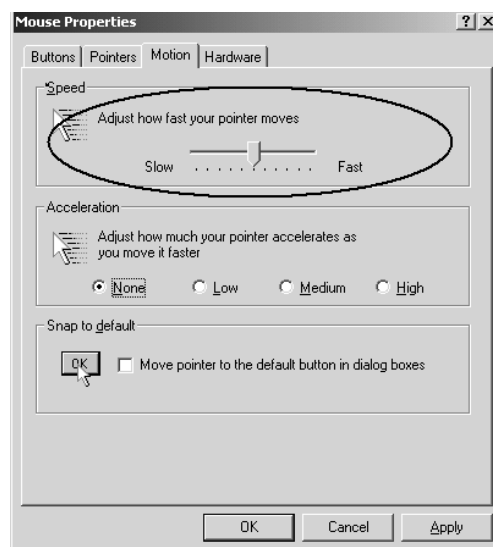
本マニュアルに記載されているマウスの同期の設定を適用したにもかかわらず、お使いのコンピュータでマウスポインターの問題が解決しない場合は、下記の手順を試してみてください。

Windows

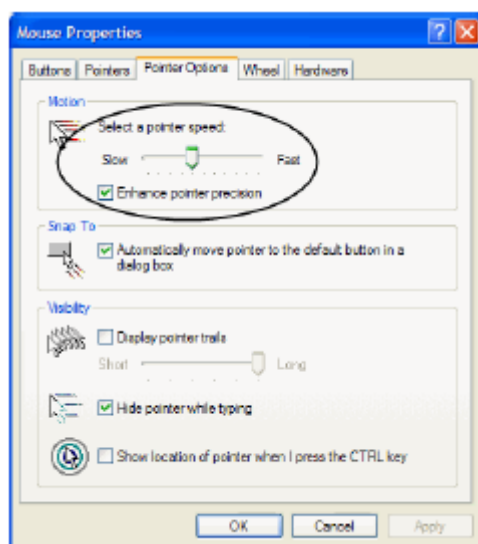
注意: ローカルとリモートのマウスを同期させる場合は、Microsoft の OS 付属の汎用マウスドライバーを使用する必要があります。サードパーティー製のドライバー (例: マウスの製造元から提供されたドライバーなど) を使用している場合は、そのドライバーを削除してください。

1. Windows 2000 の場合

- a) 「マウスのプロパティ」ダイアログボックスを表示してください ([コントロールパネル]→[マウス]→[マウスのプロパティ])。
- b) 「動作」タブをクリックしてください。
- c) マウスの速度のスライダーバーを中央の位置 (左から 6 目盛り目) に移動させてください。
- d) 「ポインターの加速」で、「いいえ」のラジオボタンを選択してください。



2. Windows XP/Windows Server 2003/Windows 7/Windows 8/Windows 10 の場合：
- a) 「マウスのプロパティ」ダイアログボックスを表示してください([コントロールパネル]→[マウス]→[マウスのプロパティ])。
(Windows 10 の場合は、[スタート]→[デバイス]→[マウス]→[マウスの追加オプション]の順にクリックしてください。)
 - b) 「マウスのプロパティ」ダイアログボックスから、「ポインターオプション」タブをクリックしてください。
 - e) マウスの速度のスライダーバーを中央の位置(左から 6 目盛り目)に移動させてください。
 - c) 「ポインターの精度を高める」の項目からチェックを外して、この機能を無効にしてください。



3. Windows ME の場合：
マウスの速度を中間に設定し、マウスの加速機能を無効にしてください(この設定を行う場合は、ダイアログから「詳細…」ボタンをクリックしてください)。
4. Windows NT/Windows 98/Windows 95 の場合：
マウスの速度を最も低い設定にしてください。

Sun/Linux

ターミナルセッションを開き、以下のコマンドを実行してください。

Sun の場合: `xset m 1`

Linux の場合: `xset m 0`

または、`xset m 1`

(一方がうまくいかない場合は、もう一方を試してみてください。)

対応バーチャルメディア

Windows クライアント Active X ビューワー/Win クライアント AP

- ◆ IDE CD-ROM/DVD-ROMドライブ - 読取専用
- ◆ IDE ハードディスクドライブ - 読取専用
- ◆ USB CD-ROM/DVD-ROMドライブ - 読取専用
- ◆ USB ハードディスクドライブ - 読取/書込対応*
- ◆ USB フラッシュメモリー - 読取/書込対応*
- ◆ USB フロッピードライブ - 読取/書込対応*

* これらのドライブは、ドライブとリムーバブルディスクのどちらの方法でもマウントすることができます (p.119「バーチャルメディア」参照)。リムーバブルディスクとしてマウントした場合、そのディスクにブート可能な OS が含まれていれば、そこからリモートサーバーを起動することができます。さらに、そのディスクが複数のパーティションに分かれている場合は、リモートサーバーはすべてのパーティションにアクセスすることができます。

- ◆ ISO ファイル - 読取専用
- ◆ フォルダー - 読取/書込対応
- ◆ スマートカードリーダー

Java アプレットビューワー/Java クライアント AP

- ◆ ISO ファイル - 読取専用
- ◆ フォルダー - 読込/書込対応

注意:

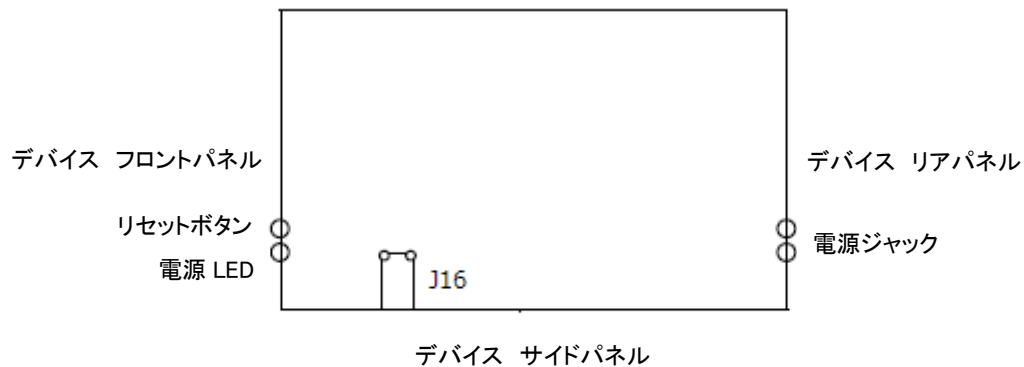
1. Java クライアントは Windows クライアントと同じようにバーチャルメディアに対応していますが、アカウントは管理者レベルの操作権限を持っていないとできません。
2. フォルダーのマッピングには FAT16 ファイルシステムを使用しているため、2GB の制限があります。バーチャルメディアは 4GB 未満の ISO ファイルのみをサポートします。

アドミニストレーターでログインできない場合

ユーザーネームやパスワードを忘れたなどの理由でアドミニストレーターとしてログインできない場合、システムデータベースの情報を消去する手段があります。

システムデータベースの情報を消去するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. CN9000/CN9600/CN9950 の電源を切り、電源アダプターを取り外してから、ケースを外してください。
2. ジャンパーキャップを使って、マザーボード上にある「J16」と書かれているジャンパーをショートさせてください。



3. 製品本体に電源を入れてください。
4. LAN1(黄)、リモートログイン(緑)および LAN2(黄)の 3 つの LED が点滅していることを確認してから、CN9000/CN9600/CN9950 の電源を切ってください。
5. 「J16」からジャンパーキャップを外してください。
6. 手順 1 で外したケースを元どおりに取り付け、CN9000/CN9600/CN9950 に電源を入れてください。

システムデータベースを消去しリセットを行うと、デフォルトのユーザーネームとパスワード(p.43 および p.97 参照)でログインできるようになります。

製品仕様

CN9000

機能	CN9000
コネクタ	
コンソールポート	USB Type-A メス×2 (White) D-sub15 ピン メス×1 (Blue) ステレオミニジャック メス×1 (Green) ステレオミニジャック メス×1 (Pink)
KVM ポート	SPHD メス×1 (Yellow) ステレオミニジャック メス×1 (Green) ステレオミニジャック メス×1 (Pink)
LAN ポート	RJ-45 メス×2
バーチャルメディア	USB Mini-B メス×1
電源	DC 電源ジャック×2
シリアル	RJ-45 メス×2
制御	PS/2 メス×1 ※海外向け仕様のため、日本ではお使いいただけません。
スイッチ	
リセット	ピンホール型スイッチ×1 (Black)
エミュレーション	
キーボード/マウス	USB、PS/2
LED	
電源	2 (Green)
ビデオ	ローカルコンソール: 1920×1200@60Hz リモートコンソール: 1920×1200@60Hz
消費電力	DC5V: 7.46W
動作環境	
動作温度	0～50℃ (CN9000) 0～40℃ (電源アダプター)
保管温度	-20～60℃
湿度	0～80% RH、結露なきこと

(表は次のページに続きます)

機能	CN9000
ケース	
ケース材料	メタル
重量	0.86 kg
サイズ(W×D×H)	200×154.1×28.5 mm

CN9600

機能	CN9600
コネクタ	
コンソールポート	USB Type-A メス×2 (White) DVI-D メス×1 (White) 3.5mm オーディオジャック メス×1 (Green) 3.5mm オーディオジャック メス×1 (Pink)
KVM ポート	USB Type-B メス×1 (White) DVI-D メス×1 (White) 3.5mm オーディオジャック メス×1 (Green) 3.5mm オーディオジャック メス×1 (Pink)
LAN ポート	RJ-45 メス×2
バーチャルメディア	USB Mini-B メス×1
電源	DC 電源ジャック×2
シリアルポート	RJ-45 メス×2
制御ポート	PS/2 メス×1 ※海外向け仕様のため、日本ではお使いいただけません。
スイッチ	
リセット	ピンホール型スイッチ×1 (Black)
エミュレーション	
キーボード/マウス	USB
LED	
電源	1 (Green)
ビデオ	ローカルコンソール: 1920×1200@60Hz リモート: 1920×1200@60Hz
消費電力	DC5V:5.55W
動作環境	
動作温度	0～50℃ (CN9600) 0～40℃ (電源アダプター)
保管温度	-20～60° C
湿度	0～80% RH、結露なきこと

(表は次のページに続きます)

機能	CN9600
ケース	
ケース材料	メタル
重量	0.84 kg
サイズ(W×D×H)	200×154.9×28.5 mm
同梱品	KVM ケーブル(DVI-D、USB、オーディオ)×1(1.8 m) USB ケーブル×1(1.8m) 電源アダプター×1 ラックマウントキット×1 ユーザーガイド×1

CN9950

機能	CN9950
コネクタ	
コンソールポート	USB Type-A メス×2 (White) DisplayPort メス×1 (Black) ステレオミニジャック メス×1 (Green) ステレオミニジャック メス×1 (Pink)
KVM ポート	USB Type-B メス×1 (White) DisplayPort メス×1 (Black) ステレオミニジャック メス×1 (Green) ステレオミニジャック メス×1 (Pink)
LAN ポート	RJ-45 メス×2
バーチャルメディア	USB Mini-B メス×1
電源	DC 電源ジャック×2
シリアル	RJ-45 メス×2
制御	PS/2 メス×1 ※海外向け仕様のため、日本ではお使いいただけません。
スイッチ	
リセット	ピンホール型スイッチ×1 (Black)
エミュレーション	
キーボード/マウス	USB
LED	
電源	2 (Green)
ビデオ	ローカルコンソール: 4096×2160@30Hz リモートコンソール: 4096×2160
消費電力	DC5V:9.76W
動作環境	
動作温度	0～50℃ (CN9950) 0～40℃ (電源アダプター)
保管温度	-20～60℃
湿度	0～80% RH、結露なきこと

(表は次のページに続きます)

機能	CN9950
ケース	
ケース材料	メタル
重量	0.85 kg
サイズ(W×D×H)	200×149.3×28.5 mm